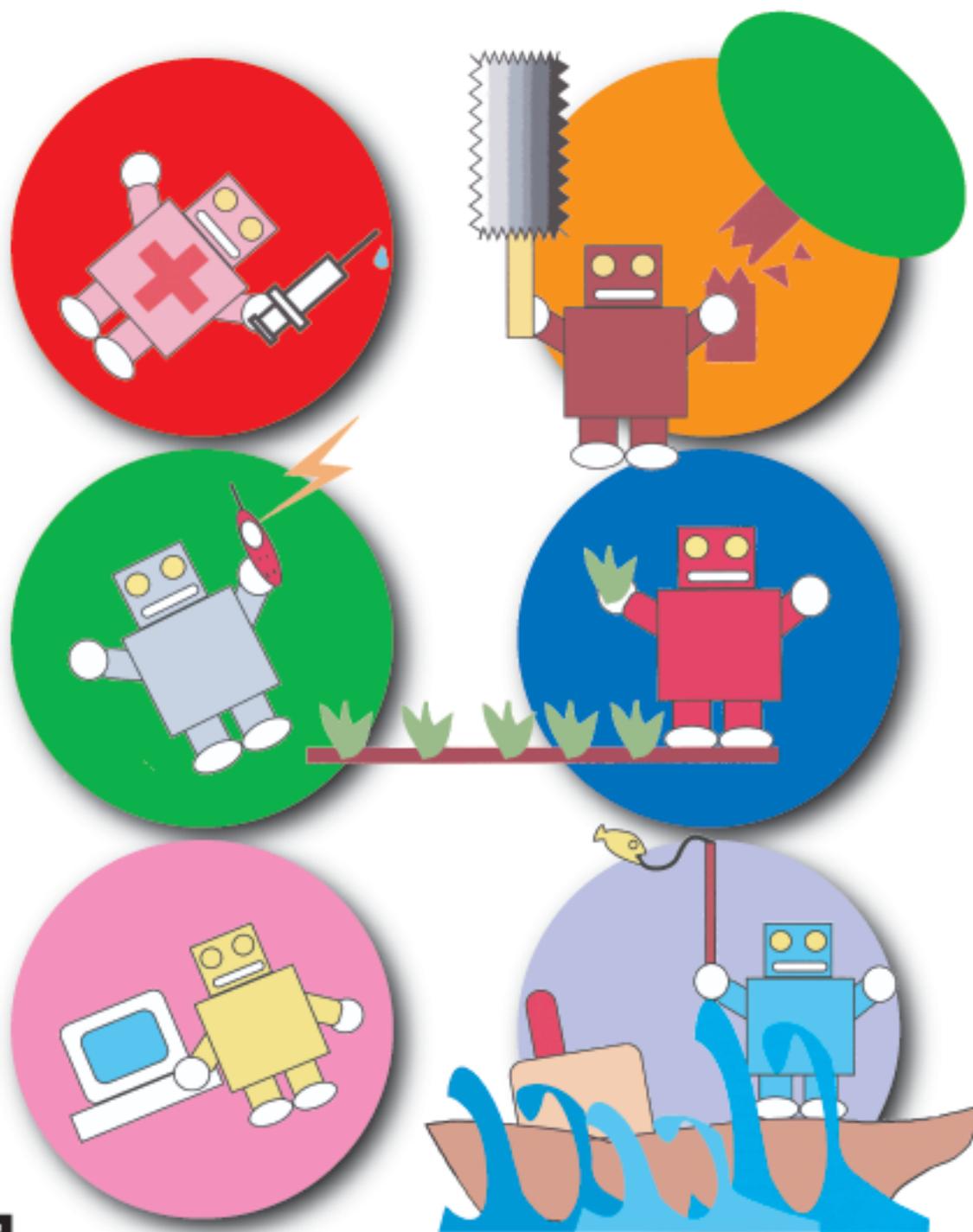


東京の産業教育

'08

特集 企業や地域と連携した学校の取組
座談会 技能五輪金メダリストを迎えて



46号

東京都産業教育振興会 <http://www.tosanshin.org/>

東京誠心調理師専門学校 ◆

〔調理師科2年制〕

西洋料理専攻コース
日本料理専攻コース
中国料理専攻コース

〔調理師科1年制〕

調理技術コース
洋菓子製パンコース
福祉調理コース
薬菜薬膳コース

〔フードコーディネーター専攻科〕

〔調理3年コース〕

〔調理師科夜間部1.5年制〕

国際フード製菓専門学校 ◆

〔製菓製パン科2年制〕

洋菓子専攻コース
和菓子専攻コース
パン専攻コース

〔製菓製パン科1年制〕

〔調理師科1年制〕

〔製菓製パン科夜間部1.5年制〕



学校法人 誠心学園

東京誠心調理師専門学校
国際フード製菓専門学校

〒144-0052
〒220-0003

東京都大田区蒲田3-21-4
神奈川県横浜市西区楠町14-4

Tel.03-3734-4411
Tel.045-313-4411

URL <http://www.seishingakuen.ac.jp>

東京の産業教育 第46号 目次

巻頭のことば

「ものづくりの源泉」

東京都産業教育振興会常任理事 森 口 純・・・1
(東京都教育庁都立学校教育部長)

座談会 技能五輪金メダリストを迎えて

・・・・・・・・・・・・・・ 2

株式会社協和エクシオ アクセスエンジニアリング本部	山 口 雄 基
小杉造園株式会社	早乙女 彰 将
株式会社協和エクシオ 中央技術研修センタ 教育・育成担当	中 山 拓 也
小杉造園株式会社 代表取締役	小 杉 左 岐
東京都立荒川工業高等学校長	豊 田 善 敬
東京都立農芸高等学校長	千 谷 順一郎
(東京都産業教育振興会)	
会 長 (株式会社東京都民銀行相談役)	西 澤 宏 繁
常任理事 (東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)	加 藤 裕 之

特集 企業や地域と連携した学校の取組

- 1 都立高校におけるインターンシップ (就業体験) について
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 山 田 和 人・・・ 18
- 2 地域・大学・企業等と手をつないだ教育活動の展開
ー今こそ、農業教育と農業高校の出番であるー
東京都立農業高等学校副校長 久保田 弘・・・ 20
- 3 マイスター型リーディング・テクニカル・ハイスクールと地域連携
東京都立葛西工業高等学校長 佐 藤 則 夫・・・ 22
- 4 地域と密着した模擬株式会社「レガロ工房」の活動
東京都立荒川商業高等学校教諭 木 村 和 久・・・ 24
- 5 総合学科高校における企業や地域と連携した教育の実践
東京都立世田谷総合高等学校長 山 中 豊・・・ 26
- 6 自動車研究部における企業や地域と連携した取組
ー省エネルギー製作を通じてより実践的な技術者をめざすー
昭和第一学園高等学校機械科 新屋敷 誠・・・ 28
- 7 日本版デュアルシステムを導入したホテルマンの育成
国際観光専門学校長 高 野 和 夫・・・ 30
- 8 ものづくり学習からものづくり職場体験
大田区立東蒲中学校長 三 浦 登・・・ 32

東京の産業界

- 優れた企業人材の採用・育成を求めて
東京経営者協会事務局長 和 栗 安 広・・・ 34
- 親父の日記が綴る「下町・町工場の50年」
—不易流行—
株式会社カナック企画相談役 金 子 昌 男・・・ 36

情報スクエア

- 第6回創造ものづくりフェア in TOKYO
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
大田区立大森第六中学校長 税 所 要 章・・・ 39
- 第18回全国産業教育フェア大阪大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

報 告

- 平成20年度総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
- 平成20年度東京都産業教育振興会教育功労者表彰・・・・・・・・・・・・ 44
- 平成20年度東京都産業教育振興会後援事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 平成20年度東京都産業教育振興会作文コンクール
① 入賞者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
② 最優秀作文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
③ 応募校一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

本会の概要

- 平成20年度事業経過報告（平成21年2月20日現在）・・・・・・・・・・・・ 54
 - 平成19年度決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
 - 平成20年度予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
 - 平成20年度役員、委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
 - 会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
 - 会 則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

表紙デザイン（平成17年度都産振50周年記念表紙デザインコンクール最優秀作品）
制作者 半澤寛之さん（東京都立第三商業高等学校 定時制課程 商業科 3年：当時）

巻頭のことば

「ものづくりの源泉」

東京都産業教育振興会常任理事
(東京都教育庁都立学校教育部長)

森 口 純



東京都産業教育振興会は、産業界、教育界及び行政が協力し、産業教育の振興に寄与することを目的に、これまで半世紀以上にわたる活動を通じて大きな成果をあげてまいりました。これもひとえに、皆様の御尽力によるものと心から感謝申し上げます。

さて、石油などの天然資源に恵まれていない我が国にとって、経済を牽引するのは「ものづくり」であり、産業技術は「ものづくり」の重要な源泉であります。また、地球環境問題を背景に、二酸化炭素の削減が人類にとって火急の課題になっていますが、省エネルギー、省資源などの新たな技術開発も求められているところで

す。経済産業省は、平成 20 年度からの 3 年間を「感性価値創造イヤー」として位置づけており、人口減少や少子高齢化の状況下にある日本が、引き続き暮らしぶりを向上させ活力ある発展を遂げるため、生活者の感性に働きかけ共感・感動を得る商品などが「感性価値」として着目されています。

東京都教育委員会では、平成 19 年 8 月の「ものづくり教育推進検討委員会(最終報告)」において、工業高校・高専を核とする複線的教育システムの実現に向け、産業界が求める多様な人材を輩出するための今後の学校教育の方向性を示しました。報告書において提言されたデュアルシステムの拡大や工業高校から高専への編入などの施策については、東京都の「10 年後の東京－実行プログラム－」に掲げ、具現化に向けて進めております。

そして、同年 12 月には「東京都教育ビジョン(第二次)」を公表し、社会の期待や新たなニーズを把握し、商業や農業など他の専門高校(職業学科)について、関係諸機関との連携も視野に入れ、今後の方向性を示すための検討を現在進めております。

今回発行の会誌 46 号では、技能五輪国際大会で見事に金メダルに輝いた都立高校の卒業生二人に登場していただき、その思いを存分に語っていただきました。これから高校進学を目指す中学生、そしてまた小学生にも早い時期からものづくりに興味・関心を抱いてもらうことが肝要です。産業技術は「ものづくり」の重要な源泉であり、その技術を担う人材を絶やすことなく育成していかなければならない、と考えております。

産業界及び教育界が一体となり、東京や我が国の産業を支える人材を育成していくために、産業教育振興の活動を行っている本会と東京都教育委員会との連携は、今後ますます重要なものとなってまいります。東京における産業教育の充実・発展に向けて、一層の御指導、御尽力をいただければ幸いです。

座談会 技能五輪金メダリストを迎えて

主 催 東京都産業教育振興会
期 日 平成20年8月25日(月)
会 場 都庁第二本庁舎31階特別会議室22

第39回技能五輪国際大会
情報ネットワーク施工部門金メダル
(株)協和エクシオ 山口雄基さん
(都立荒川工業高等学校卒)



第39回技能五輪国際大会
造園部門金メダル
小杉造園(株) 早乙女彰将さん
(都立農芸高等学校卒)



去る平成20年8月25日、「第39回技能五輪国際大会(平成19年11月、静岡大会)」において、見事金メダルを獲得された協和エクシオの山口雄基さんと小杉造園の早乙女彰将さんを都庁にお迎えし、お話を伺いました。

高校時代に習得した技術を就職した企業でさらに磨き、このように素晴らしい成果を上げられたことは誠に賞賛すべきものです。

今回は、お二人の指導にあたった所属企業の方、そして出身高校の校長先生にも加わっていただき、座談会形式で皆様に大いに語っていただきました。

出席者

株式会社協和エクシオ アクセスエンジニアリング本部
小杉造園株式会社
株式会社協和エクシオ 中央技術研修センター 教育・育成担当
小杉造園株式会社 代表取締役
東京都立荒川工業高等学校長
東京都立農芸高等学校長

山口 雄 基
早乙女 彰 将
中山 拓 也
小杉 左 岐
豊田 善 敬
千谷 順一郎

東京都産業教育振興会

会 長 (株式会社東京都民銀行相談役)
常任理事 (東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)

西澤 宏 繁
※司会 加藤 裕 之

技能五輪（国際大会）とは？

1 開催：2年に1回

2 目的

各国の青年技能者が、世界のトップを目指して国際的に幅広い分野で技能を競うことにより、参加国の職業訓練及び技能水準の向上また青年技能者の国際交流、親善を図る。

3 参加資格

出場する競技大会の開催年に満22歳以下である者。各国一職種につき一名または一組。過去に同一職種での出場経験がないこと。そのほか、日本選手は主に国際大会の前の年に開催される全国大会等で優秀な成績を収めた選手の中から選抜される。

※ 平成19（2007）年開催、第39回大会（静岡）

- ・46か国、47競技種目、816名（日本からは、47種目に51名）が参加
- ・日本成績……金16個、銀5個、銅3個

【技能五輪国際大会の47競技職種】

ポリメカニクス、情報ネットワーク施工、製造チームチャレンジ、メカトロニクス、機械製図／CAD、CNC旋盤、CNCフライス盤、情報技術、溶接、印刷、タイル張り、自動車板金、金属屋根葺き、配管、電子機器組立て、ウェブデザイン、電気、工事電気設備、れんが積み、石工、広告美術、家具、建具、建築大工、貴金属装身具、フラワー装飾、美容／理容、ビューティーセラピー、洋裁、洋菓子製造、自動車工、西洋料理、レストランサービス、車体塗装、造園、冷凍技術、ITPCネットワークサポート、グラフィックデザイン、移動式ロボット、抜き型、パン製造、機械組立て、構造物鉄工、木型、左官、曲げ板金、看護

技能五輪金メダリストのプロフィール



山口雄基さん

H 16(2004)年 3月東京都立荒川工業高等学校電気科卒業
4月株式会社協和エクシオグループ会社入社
10月第42回技能五輪全国大会（岩手）参加
H 17(2005)年 10月第43回技能五輪全国大会（山口）金メダル
H 18(2006)年 10月第44回技能五輪全国大会（香川）金メダル
H 19(2007)年 11月第39回技能五輪国際大会（静岡）金メダル

早乙女彰将さん

H 17(2005)年 3月東京都立農芸高等学校緑地環境科卒業
4月小杉造園株式会社入社
10月第43回技能五輪全国大会（山口）見学
H 18(2006)年 10月第44回技能五輪全国大会（香川）銀メダル
H 19(2007)年 11月第39回技能五輪国際大会（静岡）金メダル

【開 会】

加藤（司会） 皆様ご多用のところご出席いただきまして、ありがとうございます。本日は、技能五輪国際大会金メダリストの山口さん、早乙女さんお二人を迎えて、お話を伺いたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

ではまず、西澤会長からごあいさつと、金メダリストお二人へお祝いの言葉をお願いします。

【会長あいさつ】

西澤 第39回技能五輪国際大会、情報ネットワーク施行部門金メダルの山口雄基さん、造園部門金メダルの早乙女彰将さん、改めておめでとうございます。今日はお二人にお話を伺うわけ



西澤会長

ですが、実は、過日の会誌編集委員会で「技能五輪で都立高校の卒業生が金メダルを獲った」という話が出

まして、「それは素晴らしい、会誌のトピックにできないか」となったわけです。技能五輪には様々な方が関わり、大変な努力の結果として、世界に冠たる日本の技能を表現しているということであれば、これを大いに取り上げて、世間でもっと注目されるための一助にしたいと思います。そして、これに続く若者たちを大いに刺激することにもなりますし、会社にとっても大変名誉なことで、より評価していただくことにもなるのではないかと思います。

この東京都産業教育振興会は、行政と産業界と学校関係者が一体となって産業を支える、基本の技能教育、職業教育をより充実しようではないかということで運営しております。昭和30年の発足から今まで大変努力してきているわけですが、技能五輪を一つのきっかけにして、この会誌がより

よいものになれば素晴らしいと思いますので、このような趣旨で本日はお願いしたいと思います。

お忙しい中、受賞されたお二人、指導された方々、校長先生にも来ていただきありがとうございます。趣旨をご理解いただき、ご意見をお伺いすることもあるかと思いますが、その際はよろしく願いいたします。

【競技種目の紹介】

加藤 では、お二人が参加された競技種目について、非常に専門的な内容ですので、競技の内容



加藤常任理事

を簡単に教えていただけませんか。

（情報ネットワーク施行部門）

山口 4日間延べ22時間かけて行われる競技です。課題は大きく三つに分かれています。第1の課題が「構内配線」で、オフィスビルなどのネットワーク配線を競う競技です。主にLANの配線になるのですが、光通信でもマンホール内で作業する特殊配線や、ビルのダクト内での配線などを想定したものです。第2の課題では「光ファイバーケーブルの接続」です。これは一定の時間内に光ファイバーをできるだけ多く素早く、かつ丁寧につなげるという競技です。第3の課題は「マルチメディア配線施工」といまして、お客様のお宅での配線を想定しています。各部屋にLANケーブル、テレビのケーブル、電話ケーブルなどを配線していきます。このような競技内容です。

西澤 舞台装置というか、何か作業環境が用意されているということですか。

山口 そうです。LANを配線するラックなど、最初から備え付けられています。作業の順番は自

分で決めていきます。

西澤 設計図とか仕様書を見ながらですか。

山口 その通りです。

西澤 競技の前に見る時間はあるのですか。

山口 はい、少しだけあります。これが光ファイバーの接続施工の競技風景です（写真1）。



写真1：光ファイバー接続競技

—1時間に71本をこなし、他の選手を寄せ付けない—

加藤 特に光ファイバーが得意なんですね。

山口 はい。

（造園部門）

加藤 では、早乙女さんお願いします。

早乙女 造園の種目は、6×5.5メートルの敷地に、4日間延べ22時間で庭を造るという競技です。私たちの競技は、敷地が大きいので、1人ではなく、2人1組で行う競技となっています。敷地の60%は緑地面積と定められています。その他に石積み、石張り、水景、木造工作物などが取り入れられます。図面は、3か月前にインターネットで公表されるのですが、本番1時間前に図面の30%が変更されて、応用力を試されるということになりますので、それに対応できるような練習をしました。図面には、寸法がいろいろ書いてあるのですが、寸法の間違いは一番減点が大きいですので、絶対守らないといけません。角が出ていない自然の石を使うので、それを合わせるのが、とても難しい競技です。出来上がりがこちらで、



写真2：国際大会完成庭園

—60%を占める緑地面積、日本チームは緑が得意だ—

私たちが造った完成の庭園になります（写真2）。

西澤 図面どおり作れるかということですね。

早乙女 そうですね。やはり造園ならではの、自然のものを使っているんで、ちょっと形がいびつだったり、素材も様々なので、結構難しいです。とにかく寸法を間違ってしまうと、どんなにきれいに造っても優勝できないので、寸法は重視します。ここがやはり大変です。

西澤 山口さんの情報ネットワーク施行の場合、評価ポイントとして、特に注意するところはどこですか？

山口 性能もありますし、光ケーブル配線は本数が多いので、1本1本がよじれないように配線したり、かなり細かいことが審査の対象となります。

【全国大会】

（全国大会の手ごたえ）

加藤 国際大会に出場するためには、前年の全国大会で優秀な成績を収めなければならないということで、山口さんは43回山口大会と44回香川大会で金メダル、それから早乙女さんは44回の香川大会で銀メダルを獲得されたのですが、手ごたえはどうでしたか。

山口 実は、国際大会よりも、国内大会の方がレベルが高いんです。私の場合、静岡の国際大会は、それほど緊張せずにできたのですが、予選の

国内大会では、始まる10分位前から緊張しだして、頭の中が真っ白になるぐらいでした。お客さんの数も多く、国内での大会の方が、大変だったと感じています。

それから、工法どおりに作らなければいけないというのがありますが、むしろ創意工夫といますか、ここはこうの方がよりきれいに見えるのではないかなど、他の選手と比較して違ったことをするのを考える方が大変でした。

練習では、同じ課題を何度も何度も作っては壊し、作っては壊しという連続になるので、どうしても飽きやすくなってしまいます。練習に対して、意欲を保ち続けることが大変でした。

西澤 そこが大変なのかもしれませんね。それから、評価基準というのは、国によってかなり違うのではないですか。大会の規格ラインというのを維持するという意味では万国共通のものがあると思いますが、各国で規格が違うから、ドイツ流はどうか、イタリア流はどうか、そのような問題というのではないのでしょうか。

山口 日本では、100個ものを作ったら、100個すべてを完全に完成しなければいけないという考え方ですけれども、ヨーロッパの場合は、100個作ったら、95個できていればいいという考え方の違いですね。

西澤 アメリカはどうですか。

中山 だいたい同じようですね。もっと楽かもしれないですね。海外では、100%を求めるよりも95%にすればコストが浮くだろうというニュアンスです。

西澤 静岡の国際大会では、どこの規格に合わせたのですか。日本の規格ですか。

中山 規格自体はISO（国際標準化機構）の世界規格でやるのですが、その中で、95%よりも100%の方がよいという評価基準になっているのではないかと思います。

西澤 コストは関係ないですからね。

中山 はい。



写真3：構内ケーブル配線施工

—他の選手は気にしない、競技は自分との闘いだ—

加藤 早乙女さんの場合はどうですか。

早乙女 造園というのは、体力勝負です。毎年日本選手が負けてしまうのは、最後の方になると体力が無くなり、仕事にならなくなってしまいます。外国の選手は体も大きく、パワーがすごくあるので、石も軽々と持ち上げてしまいますが、日本の選手は小柄なので、石も結構重く感じますし、それを4日間続けますと疲労が出てきます。

社長からは、体力がないと勝負にならないと常日頃言われていましたし、入社当初1年目からの雑用で、重いもの、面倒くさいもの、全部やらせていただきました。おかげ様で忍耐力と体力もつきましたし、また現場での雑用が心配りの点でも勉強になりましたね。とにかく体力は、競技で勝つために、きわめて重要です。

西澤 石を砕くのでしょうか。だから、日本人は大変ですよ。

早乙女さんも雑用をいとわずに、そうやって体力を鍛えることを、入社された時から頑張ってきたから、大会出場選手として選ばれたのでしょうね。基礎的なことが大事なのですね。

早乙女 はい。やはり忍耐力を鍛えてもらったので、技能五輪に勝てたと思います。

西澤 確かに出来上がったらきれいだけれども、造るまでは大変ですよ。土締めや水回りとか、木の植え替えも。まして忍耐力は大事で、庭



写真4：寸法どおりに石を砕く作業
—力と技のバランスが重要だ—

を造るのは特にそうかもしれないですね。見えな
いところで苦勞されているのですね。

小 杉 今回の大会には15か国が参加していま
したが、ヨーロッパが12か国でした。各国の審
判をなさる方が、ヨーロッパの採点要綱で審判し
ます。石の文化ですから、実は日本はすごく不利
なのです。でも、それをいかに点数を離されない
で逆に縮めるかというのを、彼らは考えていまし
た。トップは無理かもしれない、その代わり、離
れずについて行く。日本の特徴として、花や植物
の植え込み、これは最も得意とするところでは
から、そこで逆転するのだという考えでしたね。

西 澤 戦略ですね。

小 杉 業界の皆さんの強力なバックアップにも
感謝しています。私どもは、山口の国内大会は見
学だけにさせていただきました。彼らはまだ体力
がないし、技能もない。入社したばかりで参加し
て、翌年また香川大会に参加して、そこでたとえ
勝ったとしても、静岡の国際大会まで集中力が続
かないと考えていました。そのような点で協和エ
クシオの山口君は素晴らしいと改めて感じまし
た。私は、香川の国内大会と静岡の国際大会に重
点を置いたものですから、最初の年から中小企業
には似合わない英才教育をしたのです。その点で、
最初の年は雑役専門、それはうちの伝統ですけれ
ども、それによって体力と忍耐力を養う。そして

本番までに集中力を養う。集中力ということでは、
練習では随分挫折を味わったと思いますが、それ
を乗り越えて、頑張ってくれたので、いい結果に
なりました。

【国際大会】

（国際大会までの訓練）

加 藤 では、国際大会に出場することになって、
それまでにどのような訓練をされたか、その中で
特につらかったことは何かということをお教えしてく
ださい。

山 口 全国大会は2日で8時間の競技時間です
が、それに比べて国際大会は4日で22時間とい
うことで、大幅に作業工程が長くなります。その
上、途中は関係者とも一切連絡が取れません。

西 澤 遮断されているわけですか。

山 口 はい。全部自分で考えて対応できるよ
うにしておかなければなりません。練習では起こら
ないようなことを、本番でしてしまうことがある
のです。私も1年目に出場した岩手大会の時にそ
れで悔しい思いをしました。ただし、入社してから
4年間、ずっと大会に関わり続けてきた結果、
ある程度のミスはその場で判断して対応できるよ
うになってきていたことはかなりの成果だったと
思います。

練習で一番大変だったのは、先ほど言ったとお
り、同じ課題をずっと繰り返し練習していかなけ
ればならないことですね。大会が近づくにつれて
自分のやる気をいかに継続させるかが大変でした。

西 澤 それを継続させるためには、どうするの
ですか。

山 口 練習するときは練習する、という気持ち
を習慣づけ、休みの日は仕事のことなど全部忘れ
て遊びのことだけを考える。というように、気持
ちにメリハリをつけていました。

加 藤 早乙女さんはどうですか。

早乙女 そうですね。私もいろいろやってきました
が、本番では周りにたくさんの方がいるので、



情報ネットワーク施工部門の表彰式の様子



造園部門の表彰式の様子



開会式で、国旗を持って入場する山口さん



左は、ペアを組んだ同僚の渡邊久美奈さん

技能五輪 金メダリストを囲んで



平成 20 年 8 月 25 日 座談会（都庁にて）



小杉造園 早乙女氏

それに慣れるためにいくつもフェスティバルに参加しました。周りに多くの観客がいる中で技能五輪と同じような作品を造り、見られながら

作業をして、本番を想定した訓練をしました。

あとは、先ほども話に出ていたように、造園の採点基準は、石の技術評価が40%で、緑地の技術評価の方が点数が高いので、木の植え方などについては、山に行き、自然の中で木がどのように生えているのか、どのように植えればきれいに見えるかというのを研究しました。山だけでなく川にも海にも行き、自然を見て、勉強しました。

西澤 作業を人に見られるというのは、やはり気になるものですね。

早乙女 最初の頃は、人に見られると余計なことを考えたり、何をやっているのか分からなくなったりとかしたのですが、練習を繰り返していくうちに慣れてきて、本番ではもう全然緊張しなくなりました。逆に見られることがいい緊張感になりました。やはりフェスティバルに参加するような練習はすごく役に立ったと思います。

(競技中に心がけたこと)

加藤 では、競技を実際やっているときに心がけていたことについて教えていただきたいと思います。特に早乙女さんは男女1組で参加していますので、チームワークの大切さを含めてお願いします。では、これは早乙女さんから。

早乙女 優勝するためには、寸法を間違っただめなので、そこはきちっとできるように心がけていました。そのために、熱海に研修所がありますので、そこに約1年半合宿で泊り込んで練習しました。そこで、日本全国から来ている造園に精通している方々に自分の造った作品を見ていただ

き、いろいろとアドバイスをいただいて、そこで技術を磨きました。

加藤 チームワークの方はどうですか。

早乙女 はい。合宿中はコーチと私と相方と3人で暮らし、そこで毎日練習していたので、ペース配分で相方がちょっと遅れていたら私が違う作業をし、逆に自分が遅れている時は相方にフォローしてもらって、お互いに補う。2人で何度も綿密に調整しながら、チームワークを磨きました。

加藤 山口さんの場合はどうですか。

山口 そうですね。私は、よく審査員の方から、



協和エクシオ 山口氏

「動きは遅いように見えるが、終わってみるとなぜか速い」と、言われます。各作業場所への移動は、急いでいないのですが、その作業場所を

造ってからスピードを上げるというのが私の持ち味です。「こいつ動くのは遅いけど、終わるのが速いな」と見られることが、私としてはかっこよく、そうなるように心がけていました。

(評価されたと思う点)

加藤 では、金メダルが獲れたのは、どのような点が認められたからだと思いますか。

山口 日本の持ち味である正確性と、見た目の美観です。いくら速くても、いい加減なものを作ったら、絶対優勝はできないので、それを両立することができたから、良い結果になったのではないかと思います。

加藤 早乙女さんは。

早乙女 そうですね。日本はやはり石よりも植栽の方が得意なので、緑地で点数を上げてポイントを稼ぐということと、ヨーロッパが12か国出ているので、その主観に合わせて、日本風ではなくヨーロッパ風に合わせた石の組み方をしました。

このようなことが優勝できた要因ではないかと思
います。

西澤 なるほど。石の組み方というのは、図面
はあっても、必ずしもこの形に組むということ
ではないわけですか。

早乙女 図面は守らなければいけないのですが、
石は不規則にごつごつとしているので、横を使う
とか、縦に使うとか、その模様が大事です。

西澤 設計書があって、そのとおりにやるの
だったら、あまり創造性とかクリエイティブ
な面は問われないのかと思ったのですが、そう
でもないのですね。

早乙女 日本の石積みというのは、お城のような
石積みで、丸い石があって、周りに、大きい石の
間に小さい石が入っているのがきれいであるとい
われているのですが、ヨーロッパの石積みは、レ
ンガのように真四角な石をパズルのようにはめて
いくというのが美しいとされています。日本の良
さを出そうとしてお城のようにしてしまうと、評
価する人間がヨーロッパの方なので、点数が下
がってしまいます。四角い石をなるべく置いて、
横と縦の目地を切っていくというように、ヨー
ロッパ風に合わせました。

西澤 難しい技術ですね。

【会社での指導】

(技能五輪出場を決めた経緯)

加藤 では、ここで今度は会社の方にお聞きし
たいのですが、山口さんと早乙女さんを技能五輪
に出場させることを決めた経緯について、お話し
いただけますか。

中山 弊社は2002年に光ナンバーワンになる
という目標を掲げ、人材育成に重点をおいて取り
組んで来ました。弊社の技術研修センタには、毎
年日本全国から100名近くの新入社員が集まっ
て、研修を行っています。その中から、手先が器
用なことはもちろん、性格が前向きだったり、競
技会への意欲が強いこと等を加味して、人選を



協和エクシオ 中山氏

行っています。山
口君はここで選ば
れ、2004年に初
めて全国大会(岩
手)に出場し、そ
の年は結果を残せ
なかったのです
が、逆にそれが次

へのバネになったようです。

小杉 私どもは、植木屋さんという職業ではな
じみがあるのですが、造園業という職業自体が、
一般には分かりにくいので、社会的な職人の地位
を上げよう、業界を盛り上げていこう、若い人た
ちに技能を伝えていこう、という趣旨で最初の大会
から参加したわけです。やる以上は勝つ、とい
うのが私の性格ですから、毎回うちから出る人間
は、すごく厳しかったと思います。でも、ものす
ごく努力したと思います。それから、技能はもち
ろん大切ですが、若い人間ですから心のケアが一
番です。何回もいろいろな壁にぶつかりながら、
脱落しないで乗り越えてきた今回も、心のケアの
勝利ではないかと思っています。特に職人の世界
では、技能がなければだめだという人が多いも
のですから、18歳位から始めますと、心のケアが
必要ですね。

(国際大会までの指導内容)

加藤 次に、国際大会に出場するまでに、どの
ような指導をされたかということ、特に全国大会
と国際大会では指導内容を変えたのかどうか、そ
の辺をお聞きかせください。

中山 作業にはまず間違いが起きるものです
が、間違いを起こして、取り戻せる間違いと取り
戻せない間違いがあります。同じ間違いでも、取
り戻せない間違いをしないことが、大前提にあり
ます。少しのミスは取り戻せる、それを容認する
わけではないですが、ミスが起きても挽回できる
能力を養うために、課題に様々な変化をつけなが

ら、訓練の回数を踏ませます。現場でもそうですが、いったん思い込んでしまったら、どうしてもその思い込みから抜け出すことが難しくなってしまうという人間的特性も刺激させながら、課題を作って訓練させました。

大会は、4日間延べ22時間、1日6時間弱の作業になるので、1日8～9時間のトレーニングをやってみて、可、不可について自然と覚えこんでいく。最後は集中力が切れてしまって、手、体だけでなく、頭が働かなくなるという状態まで追い込んで訓練させることもしました。本番よりつらいことに耐えておかないと、成果が出ませんから、本番以上の負荷を課すことにしました。

西澤 暑い期間で大変ですね。事務の仕事でも、書いたり読んだりするのに、大体10分経つと、注意力が散漫になってきます。しかし、皆さんのような作業の場合は、そうはいかないでしょう。

小杉 緊張状態、集中状態は続けないといけ



小杉造園 小杉社長

緩めてはいけない作業をコントロールして、できる限り集中力を持続するというような訓練が必要になってきます。頭は働かせなくても、手や

足だけを勝手に動かす、体が自然に動くイメージですね。

私も中山さんと同じで、練習の時の方がつらいと思います。まず体に覚えさせますから、疲れているのが、体が自然に動いて反応するように訓練します。先ほども早乙女君が言っていたように、寸法は間違ったらどうにもならないことですから、あとは相方とお互いにうまく確認し合うということですね。それは合宿で2人の意思疎通ができたのではないかと思います。現に、国内大会も、国際大会も、練習より本番の方が、出来上がりが

良いのです。これほど出来たかなというぐらいに、2人に度胸がありました。2人が一緒に合宿するというので、思いやりができ、よかったのではないかなと思っています。

(他の社員のモチベーション)

加藤 では、お二人が金メダルを獲ったことによって、会社で、他の社員の方々のモチベーションが、どのように上がったかということをお聞きしたいのですが。

中山 今、弊社の研修センターには、先ほども言いましたように、100人の新入社員が入ってきます。頑張ればいつかは技能五輪に出場して世界一になれるかもしれないという可能性が、この研修センターに生まれました。その点で、まず若い18から22歳の世代に、夢を与え活性化できたのではないかと思っています。また現場では、お客様から「世界一の会社ですよ」とお話をいただいたりすると、世界一の名前に恥じない仕事をどの場所でもやらないといけないという、いい緊張感が生まれて、全体の施工品質のアップにつながっていると思います。

小杉 私どもは、中小企業の職人でも、成せば成るといことが証明されたと思います。職人自体に、2人を見ていて自分たちもやればできるのだ、という気持ちが生まれて実際に頑張っています。これは本当にありがたいことだと思います。

(社内での人材育成)

加藤 では、高等学校を卒業後、就職した先の会社において、どのような人材育成をされているのか、分かりにくい部分もありますので、お聞かせいただければと思います。

中山 情報通信設備の工事をしているアクセス部門では、現場に出る前に現在6か月間の新入社員教育を行っています。電気工事関係の訓練であれば高等学校でも実習を盛んにやっていますが、情報通信関係となると一般的には研修をする場が

ほとんどないというような状態です。したがって、基本的には入社してから技術を身につけるといような形になります。銅線2本で電話はつながりますので、銅線のつなぎ方から、今はやりの光ファイバーの接続の仕方まで一から学んでいきます。技術の進歩が早い職種なので6か月では覚えきれないのですが、まずは基礎となる部分を集中して行います。電柱に昇ったり、マンホールに入るとい通常の生活では体験しないようなことも、現場に出る前に集中的に研修します。それから現場に出て、実作業の中でより高度な技術を身につけていきます。

小杉 私どもでは、どの新入社員も、まず体づくりです。それと、心の健康づくり。これに主眼を置いています。ですから、学校には、「やる気があって、素直な人をよこしてください。」とっています。先般、東日本の農業高校造園科の先生方の研修があった時に、静岡の県立農業高校の校長先生が、「実は小杉さん、女性が多くなっているんですよ。」と言われたのです。今、女性の進出がすごいですね。

西澤 この方面でも、日本はこれから女性の時代と言えるかもしれませんね。

千谷 私がまだ校長になる前の話ですが、ある会社に生徒を紹介しに行ったときに、「この子は、こういうところ、ものすごくうまいですよ。」とPRをしますと、そこの社長さんは「そんなことはどうでもいいんだ。一番欲しいのは、とにかく休まない、サボらない、遅れない、それで人の言うことをきちんと聞ける、こういう子を送ってくれ。あとの技術は全部こちらで教える。」とまで言われてしまったことがありました。植木の技能的なものには多少の流儀もあるだろうから、と考えたのですが、それだけではないようですね。

【出身高校に関して】

(在校生、保護者、地域の反応)

加藤 お二人が都立高校出身ということで、非

常に注目しているのですが、出身校の校長先生にお伺いします。卒業生が技能五輪で金メダルを獲得したということで、在校生、保護者、地域の反応はどうでしたでしょうか。

豊田 昨年、1学期の終業式で、全校生徒に山口さんが技能五輪の日本代表として出場することを



荒川工業高校 豊田校長

を話しました。その後、応援ポスターを掲示し、生徒、保護者、そして学校に来校する方々に広報するとともに、応援活動を始めました。

11月下旬、山口さんと会社の方が本校に金メダル獲得の報告に来られました。私は2学期の終業式で、山口さんが金メダルを獲得したことを、全校生徒に話しました。同窓会にも連絡したところ、栄光を讃えた横断幕の寄贈をしていただき、正門脇に掲示させていただきました。さらに今年の入学式でも、山口さんが技能五輪の日本代表として金メダルを獲得したこと、立派な卒業生がいること、入学した生徒の中から、あるいは今の在校生の中から、先輩に続く技術・技能を持った生徒が多く出ることを期待する、という話をしました。やればできるということを、多くの生徒が感じたようだと言任が話をしてくれました。

本校では、資格取得とものづくりを柱として教育活動を行っています。それ以来、生徒たちの中で、頑張れば何とかできるということ、意欲がさらに湧いてきているということ、先生方から聞いています。

千谷 実は、技能五輪というものが、あまり生徒にも知られていなかったのです。私は前に教え子が出場したということがありましたので、認識はあったのですけれども、ところが今回は「優勝したぞ!」ということ聞いて「えっ、あの早乙女君が!」(いや大変失礼)これはすごいことだ



農芸高校 千谷校長

な、これはよかったなと、思いました。

本校は、毎学期1回、地域あるいは社会人を呼んで、講演会をやっているのですが、

そこで3月の末に体験談を生徒全員に話してもらいました。よかったですね、あの時は。それまでも大学教授が色々な話をしてくださったのですが、久しぶりに生徒の反応が素晴らしかったですね。

本校は造園の授業がたくさんあります。造園技能士という職人の資格がありますが、その受験者も増えていますし、非常にうちの学校の目指すところを生徒全員に分からせていただいたのではないかと、喜んでいます。

加藤 山口さんは、学校に行って講演とかしたことはありますか。

豊田 今年の12月19日(金)に山口さんをお呼びして、全校生徒への講演会を予定しています。

(企業や地域と連携した学校の取組)

加藤 では、学校として、企業や地域と連携した学校の取組、また何か新たな学校の取組などがあったら紹介していただけますか。

豊田 山口さんの金メダルの獲得で、地元荒川区也非常に関心が高いです。私は、よく荒川区の会合に出席するのですが、荒川区長ともお話をする機会があります。「本校の卒業生が金メダルを獲りました」と言ったら、区長は既にご存知でした。それから、荒川区のタウン情報誌『ほっとタウン』にも掲載されましたので、荒川区民はこのことを知っています。

企業や地域と連携した新しい取組として、現在、東京都教育委員会が進めている施策の一つに技能習得型インターンシップがあります。今年度始まったばかりなのですが、本校の2年生が実施し

ています。企業で今4名の生徒が、技能習得型インターンシップを行いました。実社会での技能を、少しでも吸収していくという願いの下に実施しました。参加した生徒の中には、技能五輪に向けたトレーニングをしている社員の方と、同じ研修センターで実技指導が受けられ、良い刺激になったと聞いています。現場の作業を間近で見たり、体感することが重要なことで、今後も取組を続けていけば、山口さんに続く後輩が出るものと期待しています。

加藤 千谷校長先生いかがでしょうか。

千谷 はい。一つの技能的なもので、例えば竹垣、四つ目垣の結び方、ひもを結ぶということでも、これができると、生徒は非常に達成感を覚えます。これは新しい取組ではないのですが、杉並区の環境博に行きまして、その場で竹垣を造って見せるわけです。そうすると、それを買いたいという方がたくさんいらっしゃるのです。結構売れるのです、それが。

西澤 おもしろいですね。

千谷 そのようなことを続けていきますと、今度は近隣のお宅から「ちょっとうちの庭を見てくれないか」という依頼があって、生徒が出かけていくようになるのです。これは、いわゆる技能的なものをやらせることによって、一つの教育的な効果があるのだらうと思います。

それから、造園の業界にも非常にお世話になっています。もう4、5年になりますが、東京都の造園建設業協会を通してインターンシップを実施しています。本校だけではなくて、東京都の農業高校生を対象にしていますが、今年も全部で十数名、夏の間に行っているのではないかと思います。これは、まだ3日間ぐらいしか行かないのですが、2週間ぐらい行くと、もっとおもしろいと思っています。インターンシップでは、最初は特別なことはやらせないでくれとお願いしています。草取りなら草取りでいいと。その方が、職業選択の時にミスマッチがないだらうと思います。先ほども

言いましたが、やはり現場の厳しさとか、あるいはつらさのようなものを知らせることも大事だと思っています。その中で、自分の技能のどこに光輝くようなものがあるのかを見つけることができると、考えています。

それから、今年の9月に、杉並区と一緒に地域の「杉並の農・食・環境の協議会」というものを立ち上げまして、今度はそのようなところで生徒が活躍できる場面を、組織的に継続的に作っていくよう、今考えているところです。

【現在の高等学校教育について】

（現在の仕事内容について）

加藤 では、今度は山口さんと早乙女さんにお聞きしたいと思います。現在は会社でどのような仕事をなさっていますか。

山口 今は、中央技術研修センターで中山さんの下について、次の技能五輪に出場する選手たちに、技術指導をしています。今度は教える側の勉強をさせてもらっています。

早乙女 私は通常業務に戻りまして、1年目の雑用ではないのですけれども、現場に出まして、草の管理や場所の管理、植栽工事などの業務をしています。

（高校時代に学んだこと、役立ったこと）

加藤 お二人が高校時代に学んだこと、学び得たこととか、それから役に立ったこと、勉強でも実習でも部活でも何でも結構ですので、お話しただけですか。

山口 工業高校へ行ったおかげで、机上での勉強だけでなく実習の授業を受けることができました。実習の時間が私は一番好きでした。手や体を動かして何かを作ること



が、一番楽しかったですし、体育も好きでした。ほかの授業は、人に自慢できるような成績ではなかったですけども、やはり手を動かして機械をいじり、物を作るということは、工業高校へ行ったからこそ体験できたことだし、このことは今でも役立っています。

早乙女 実習でいろいろ造園の技術を覚えたものがあるのですが、私が卒業する時に、小坂橋先生という方なのですが、「石の上にも3年、我慢しろ」と言われました。「嫌なことがあっても、やっぱり辞めちゃいけない、辞めたらそこからもう何も見えてこなくなるから、嫌でも3年は続けたい」と言われました。社会に出て1年目に雑用をやっている時は、やはり理想と現実が違うために、「つらいな」とか、「外で、こんな暑い中でやるの、辞めたいな」と思ったこともあります。でも、その小坂橋先生の言葉を思い出して、やってみないと分からないというのを信じてやってきました。2年目、3年目になると体が慣れてきて、もう暑さとか寒さとかはあまり問題になりません。そのように先生に言われた言葉で、心を強めてもらったというのがあります。

（高校での学習内容について）

加藤 実際に社会に出られて、技術を今身につけていると思いますが、今現在、学校で習ったことをどのように思いますか。基礎・基本がすごく役立っているとか、例えばもうちょっと細かく教えてもらったほうがよかったとか、色々あると思いますが。

山口 今私がやっている光ファイバーの接続などは、使う機械は高価で、なかなか学校で教えるのは難しいと思うのですが、専門の授業や実習をもっと増やしてもらいたいと思います。私も会社に入って初めてこのような仕事があるのだということを知りました。今は、CMだったり、大会だったり、皆さんに知っていただく機会はあると思うのですが、「光ファイバーという言葉は知ってる

けど、それは一体何なんだ？」というのが一般の人の意見だと思うので、学校でも実習に取り入れていただけると、より多くの人に知っていただけたと思います。

早乙女 私の高校時代も実習が多かったのですが、その実習が楽しくてこの業界に入ったと言っ



ても言いすぎではありません。実習でなく座学ばかりだったら、今は異なる業界に行っていたかも知れま

せん。実習はとても楽しく、向上心も湧きます。実習はぜひ増やしてもらいたいと思います。

(企業にとっての高校教育への期待)

加藤 では、今度は会社の方にお伺いしたいのですが、やはり同じ質問です。高校教育についてこのようなことを期待しているという、先ほどこのような人間が必要という話が出たのですが、教育で、特に技術面において、何かありますでしょうか。

中山 情報通信の技術というのは特殊なので、技術を語る前にマインドの問題を痛感します。最近、研修センタに入ってくる若い人たちを見ると、目標管理が出来ていないというか、偏見かも知れませんが、夢を持っていないように見えます。小さな目標でも構わないですから、その目標に向ってがむしゃらに努力してほしいと思います。まず、きちんと目標を見つけ出すことが大事だと思います。

小杉 枝葉のようなことになってしまいますが、あいさつなどのマナーが必要と思います。顔を見たらすぐ「おはようございます」。それから「ありがとうございます」ですね。これが今は会社へ入って来てから学ぶことが多いのですが、学校時代から年中やっていると、全然違うと思いま

す。自分の将来について、3年先、5年先、10年先を大切にさせていただきたいと思います。入社時から社員には、毎年4月の初めや、正月に、目標を立てて書かせています。これをすると、自分という人間が磨かれてくるのが分かるものですから、学校でもそれを染みつけていただきたいと思います。

(後輩たちに期待すること)

加藤 では、またお二人にお伺いしたいのですが、高校生の後輩たちに期待すること、これは何でしょうか。

山口 私もそうだったのですが、就職活動をしていて何をやっていいのかわからずに悩んでいる人がたくさんいると思います。私も最初は美容師になろうという考えで、とりあえず2～3年は何でもいいから就職して働いて、お金を貯めて専門学校に入ろうと思っていました。しかし、会社で研修を受けているうちに、この仕事もおもしろいと感じてきて、そのうち自分に合っているんじゃないかと思い始めた時に、「競技会があるんだが出てみないか」との話ももらい、大会に出ることになりました。私は性格的に負けず嫌いなので、出るからには絶対に負けたくないという思いが湧いてきて、練習をしていくうちにどんだのめり込んでいって、気がついたらこの仕事が大好きになっていました。皆さんもやる事が無いからフリーターでいいやというのではなく、とりあえず少しでも興味があることであれば、やってみてほしいと思います。

早乙女 私は、社長が言うように、この業界に若い人たちが入って、造園業界が発展していけばよいと思っています。ものづくりの楽しさを後輩に伝えていき、また私がやっていることを見て、「この先輩がやってるとかっこいいな」と思ってくれて、この業界に後輩たちが入って来るのを期待します。

【これからの抱負】

加藤 では、だいぶ時間もなくなってきたのですが、お二人にこれからの抱負についてお話いただければと思います。

山口 基本は、現場に出るのが仕事です。大会の練習は3か月前からで、それまでは通常通り現場に出て電柱に昇ったり、マンホールに入って接続作業をしていました。しかし今は、大会金メダルという賞をいただいて、実作業の中でもお客様に満足していただけるような世界一の技術を身に付けたいと思うようになりました。競技の技術と実際の作業とは全く環境が違います。例えば安全面においても、競技会では車の飛び込みなんて絶対無いですから、何の心配もありません。ところが実際の外の作業となるとそうはいきません。常に危険と隣り合わせの作業となります。そのような中でも、「さすが世界一の仕事だな」と言われるように、これからも頑張っていきたいと思っています。

早乙女 技能五輪でいろいろな先生方に技術を教わったので、この技術を現場で生かして、一人前の立派な職人になり、後輩につなげ、目標とされるような先輩になって、山口さんも言ったとおり、世界一に恥じないようお客様に満足していただける仕事をしていきたいと思っています。

【最後に】

西澤 私はやはり、これをもっと世間に知ってもらいたいという気持ちがものすごく強いですね。今日、お二人の話やご関係の皆さんの話を聞



いて、ますますそう思います。都立高校の卒業生ではこのお二人だけですか。

加藤 今年はそうですね。

西澤 貴重な存在ではないですか。東京都としても、この産業教育振興会としても、まさにこれ

こそ我々のシンボリックな2人ですよ。この2人の実績、成果、これが様々な人たちにつながって、若い人たちが希望を燃やしてくれれば素晴らしいことで、会としてこれを大いに取り上げていく必要があると思います。お話を聞いているとアイデアが次々浮かんできます。

要するにこれが北京オリンピックに出場した水泳の北島選手などと比較してどこが違うかという、1回しかチャンスがないということですよ。あのオリンピックは、何回か出るチャンスがあって、職業化しているわけです。この技能五輪は、1回しかないチャンスを必死になってもにして、あとは組織としてどう位置づけていくか、このことがやはり産業にとって意味がある。産業の確立という点で、組織的にこれをキープしていくように、社会全体としても新陳代謝をしながら次の世代に引き継がれていくようにしなければなりません。それを実現するために、数年にわたって準備するということも含めて、言ってみれば、支える業界全体の力を結集する必要があると思います。このような方たちの周辺、裾野が段々広がっていくことで日本が強くなっていくわけですから、テレビなどでも取り上げやすいように、いろいろな人が考えなければいけないと思います。

この産業教育振興会も、もう少し華をつけるといことについて工夫していくことが、とても大事だと思います。教育庁としても、都立高校の卒業生が技能オリンピックで金メダルを獲ったというような世界があるのですから、「カッコいい」という今の若い人たちの一つの価値観を表現する言葉を借りれば、「カッコいいものには、スポーツだけじゃなくてこういうのもあるよ、技能もあるよ」ということを、もっとうまくPRしていったらいいのではないのでしょうか。そのために、お二人も、会社も学校も、協力していただければありがたいと思います。

加藤 ありがとうございます。西澤会長におまとめいただいたところで、大変残念ですが時間となりました。皆様からいただきましたお話の内

容やご意見につきましては、本会の活動や東京都教育委員会の施策に活かされていくものと思います。本日は、皆様お忙しいところ貴重なお時間を

いただきまして誠に有難うございました。以上で、閉じさせていただきます。

座談会の様子



特集

企業や地域と連携した学校の取組



都立高校におけるインターンシップ（就業体験）について

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 山田 和人

1 インターンシップ（就業体験）の意義

高校生にとってインターンシップは、職業の現場に触れる中で、職業の適性や将来設計を考えたり、異世代の大人と人間関係を築くこと等を体験するまたとない機会である。

インターンシップ（就業体験）について、高等学校学習指導要領総則（第1章第1款の4）には、「学校においては、地域や学校の実態等に応じて、就業やボランティアにかかわる体験的な学習の指導を適切に行うようにし、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観、職業観の育成や社会奉仕の涵養に資するものとする。」とある。

平成10年7月の理科教育及び産業教育審議会答申において、その推進を図ることが提言されている。総則編の解説には「就業体験は、職業の現場における実際的な知識や技術・技能に触れることが可能となるとともに、学校における学習と職業との関係について生徒の理解を促進し、学習意欲を喚起すること、生徒が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択の能力や高い職業意識の育成が促進されること、生徒が教師や保護者以外の大人と接する貴重な機会になり、異世代とのコミュニケーション能力の向上が期待されることなど、高い教育効果を期待できるものである。」とある。各学校においては、これらを踏まえてインターンシップを積極的に推進していく必要がある。

さらに就業体験の機会の確保については、高等学校学習指導要領総則（第1章第6款の4の(3)）において、上記のような意義を踏まえて「学校においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、就業体験の機会の確保について配慮するものとする」としている。

このことは、普通科を含めてどの学科においても、就業体験の機会の確保について配慮すべきことを示したものである。

2 都立高校におけるインターンシップの推進

(1) 都立高校改革推進計画

- ・第1次実施計画（平成9年9月）
専門高校の改善の方策として、地域社会、企業等と連携した「現場実習」の推進
- ・第2次実施計画（平成11年10月）
普通科や総合学科も含めた就業体験の推進
- ・新たな実施計画（平成14年10月）
勤労観・職業観の形成を通じ、自らの生き方を主体的に決定できる能力や態度を育成

(2) インターンシップの取組

- ①インターンシップ推進委員会の設置
(平成11年度)
- ②インターンシップ推進校の設置
平成13年度から15年度の各年度12校
- ③推進にかかわる手引き等の作成
 - ・インターンシップ推進委員会報告
(平成13年度)
 - ・都立高校インターンシップ推進校報告書
(平成16年度)
 - ・キャリア教育の推進に向けて～インターンシップ、職場体験の充実～
(平成17年度)
 - ・高校生のインターンシップ（リーフレット）
(平成18年度)
- ④インターンシップ応援事業（平成17～19年度）10校を指定し、卒業までに全生徒がインターンシップを体験する。
- ⑤国際ロータリーとの連携（平成19年度～）
平成20年度実施希望校19校

⑥インターンシップ関連事業実施校連絡協議会（平成19年度～）

⑦技能習得型インターンシップ（平成20年度～）

(3) インターンシップ実施校の推移（都立高校）

- ・平成11年度 — 20校
- ・平成12年度 — 26校
- ・平成13年度 — 54校
- ・平成14年度 — 65校
- ・平成15年度 — 95校
- ・平成16年度 — 98校
- ・平成17年度 — 125課程
- ・平成18年度 — 118課程
- ・平成19年度 — 118課程

※平成17年度から課程別で調査

3 国際ロータリーとのインターンシップ事業

東京都教育委員会は、平成19年度から都立高等学校におけるキャリア教育を効果的に推進するために、国際ロータリー第2750地区や国際ロータリー第2580地区で、効果的にインターンシップ事業を行うための基本協定を締結している。

国際ロータリー第2750地区

中央区、港区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、杉並区、八王子市、立川市、三鷹市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、日野市、国分寺市、国立市、狛江市、多摩市、稲城市

国際ロータリー第2580地区

千代田区、新宿区、中野区、練馬区、荒川区、台東区、北区、文京区、豊島区、板橋区、足立区、葛飾区、江戸川区、墨田区、江東区、武蔵野市、西東京市、東久留米市、清瀬市、小平市、東村山市、東大和市、武蔵村山市、福生市、あきる野市、青梅市

(1) 協定の目的

相互に連携してインターンシップ事業を実施することにより、国際ロータリー第2750地区及び国際ロータリー第2580地区に所属する企業の社会貢献活動の推進に資するとともに、都立高等学校におけるキャリア教育を効果的に推進することを目的とする。

(2) 協定に基づく事業

- ①インターンシップ事業の実施
- ②インターンシップ事業連絡会の開催

(3) インターンシップ事業

- ①目的
インターンシップを通して、地域企業、産業、職業への理解を深め、都立高等学校の生徒に望ましい職業観、勤労観を身に付けさせ、進路選択の能力、態度を育成することを支援する。
- ②対象生徒：都立高等学校生徒
- ③実施校数：平成19年度 11校
平成20年度 19校

(4) 事業の効果

- ①受入先の拡大
区市に広がる地域に所在する企業を受入先とすることができる。
- ②生徒のニーズに応じた受入先の確保
多様な企業を受入先とすることで、生徒の多様なニーズに応じた受入先が得られる。
- ③ロータリー活動企業の受入土壌の利用
長年、社会貢献活動を行ってきた国際ロータリーが受入れを行うことにより、インターンシップ等の連携事業がスムーズにスタートし、実施できる。
このように、より多く、より多様な企業を受入先として確保することにより、都立高校のインターンシップの更なる拡充が期待される。さらに、多くの生徒が就業体験を積むことで、将来に対する目的意識を醸成し、望ましい勤労観・職業観を育てることができる。

4 おわりに

近年、産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず生徒の進路をめぐる環境は大きく変化している。このような変化の中で、将来、生徒が直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していけるよう、インターンシップ等の就業体験を通して、生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育を今後とも推進していく。



地域・大学・企業等と手をつないだ教育活動の展開

—今こそ、農業教育と農業高校の出番である—

東京都立農業高等学校副校長 久保田 弘

はじめに

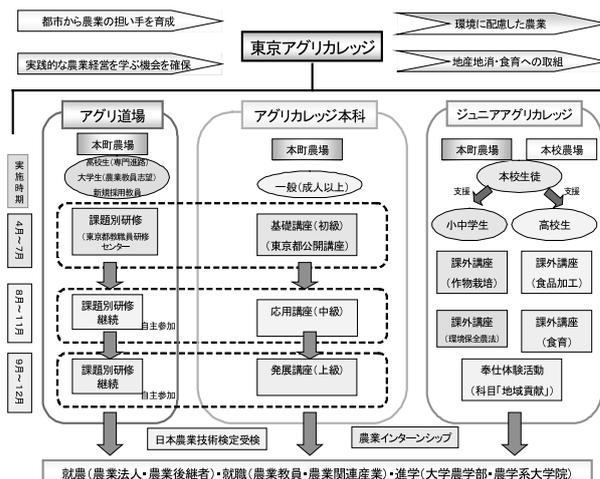
本校は明治42年に創立され、来年度創立100周年を迎える歴史と伝統ある専門高校である。現在、農業に関する3学科（都市園芸科・緑地計画科・食品科学科）、家庭に関する2学科（服飾科・食物科）の5学科を設置し、特色ある教育活動を行っている。今回、本校が取り組んできた地域・大学・企業と連携した教育活動の概要を報告させていただく。

1 東京アグリカレッジ構想の推進

2007年度の食料自給率は一時的に40%に回復したものの、依然として先進国で最低の水準にある。国内に目を向けると、一連の食品偽装で消費者の食の安全・安心への関心はかつてないほど高い。世界に目を転じると、穀物の高騰、地球温暖化による気象変動、人口の増加等により、食料不足が明日にでも起きそうな情勢である。

このような食に対する危機的な状況の中で、わが国の農業は多くの課題を抱え、とりわけ新たな担い手の確保・育成が大きな課題となっている。

本校では、平成19年3月に佐野幹男校長が①都市から農業の担い手を育成、②環境に配慮した農業実践、③実践的な農業経営を学ぶ機会の提供、④農業成果物の有効利用、⑤「日本農業技術検定」資格の受検指導、⑥児童・生徒・学生への体験授業の提供等を目的に「東京アグリカレッジ」構想を策定した（図参照）。平成19年8月より、試行として野菜栽培の基礎講座、販売実習、先進農家の視察、農業法人経営者による講演、東京農工大学教員による講義等を行った。



「東京アグリカレッジ」イメージ図

さらに、平成20年3月14日に「東京アグリカレッジ連携会議」を開催し、参加した農業法人経営者、東京農工大学、東京都産業労働局農林水産部、東京都農業振興事務所、府中市、調布市、全国農業会議所、東京都農業会議、全国農業校長会及び特定非営利活動法人多摩自然教育センターから、今後の活動について貴重な指導・助言をいただいた。

平成20年4月より、広く都民の方々から受講生を募り、「アグリカレッジ本科」を本格的にスタートさせた。



受講者を指導する本校教員

4～7月に基礎講座（夏野菜の栽培）6回、8～11月に応用講座（秋野菜の栽培）6回、発展講座（大学での講義）4回を実施した。講座日以外にプロ農家の指導が受けられるアドバイザー制度や先進農家への見学会が特色の1つである。さらに、5月より近隣中学校と連携した「ジュニアアグリカレッジ」を開始し、本校生徒が講師役となり、中学生に野菜や草花の栽培指導を行っている。

2 東京農工大学との連携

アグリカレッジ本科の発展講座という位置付けで、東京農工大学の先生方による講義を開催し、地域の方々や本校生徒・教員が受講している。

講座の内容は、「作物栽培の科学と技術」を学ぶアグリテクニカルコースと「現代農業と農業経営」を学ぶアグリビジネスコースの2コースで、今年度は4回ずつ実施した。

◇アグリテクニカルコースの講義名

「農業生産の現状と育種法」「栽培管理・土壌管理」「害虫防除」「作物病理」

◇アグリビジネスコース講義名

「農業の動向」「農業政策と関係法規」「食の安全・安心」「農業とマーケティング」

講義内容は1回完結の入門的な内容になってしまいが、いろいろなタイプの先生方から最新の話題を聞くことができ、自ら学習を開始する上での動機付けとなっている。



農工大での講義「作物病理」

3 企業との新たな形での連携

平成20年6月に本校が東京アグリカレッジを通して(株)ロッテ製菓と連携をもつこととなった。その一環として本校生徒のインターンシップを受け入れていただくことになり、高校では学べない貴重な学習機会を得ることができた。



アイスクリームの商品開発

食品科学科の2年生13名が参加し、下記のような日程で実施した。

■第1日 20年7月16日(水) 会場：本校

製品の基礎知識の学習（担当者による講義）

■第2日 20年8月18日(月) 会場：ロッテ本社

販売戦略（パッケージを試作し、売れる商品とはどのようなものかをグループ協議等で学習させる。）

■第3日 20年8月19日(火) 会場：旭東化学産業(株)東京研究所

商品開発（ものづくりのプロセスを学習させる。自分たちで栽培した枝豆を持参し、それを枝豆餡に加工し、オリジナルアイスクリームを製造する。）

限られた期間ではあったが、実際に製造現場で仕事をされている企業の方からていねいな指導を受けることができた。どの生徒も熱心に取り組み、現在学んでいる食品の学習に対する理解を深め、将来の進路選択に当たり貴重な経験をすることができた。今後とも、全校を挙げて連携活動に取り組む予定でいる。



マイスター型リーディング・テクニカル・ハイ スクールと地域連携

東京都立葛西工業高等学校長 佐藤 則夫

1 学校概要

本校は江戸川区のほぼ中心に位置し、都立工業高校の中では東京都の東端にある。昭和38年の開校時は各学年、機械4クラス、電子2クラス、建築2クラスの3科8クラスであったが、現在では機械2、電子1、建築2となっている。生徒の約80%は地元江戸川区内の中学から入学し、卒業後の進路は就職が6~7割で、残りは大学・専門学校等の進学である。男子が95%、女子が5%在籍している。

2 マイスター型リーディング・テクニカル・ハイ スクール

平成16年に都工業校長会では工業高校の活性化を目指して、都立工業高校を3つのタイプに区分し、中学生・都民にわかりやすく提示すると共に各校が目指す姿を明確にした。3つのタイプは、
①スペシャリスト型（理工系大学進学を目指す）
②テクニカル型（高度な工業技術取得を目指す）
③マイスター型（正しい職業感を目指す）
本校はマイスター型の研究校として、都教委よりリーディング校の指定を受けた。

3 地域連携

本校が地域連携に力を注いでいる主な理由は、在校生の8割が地元江戸川区の出身であること、マイスター型の目標である職業観育成・職人育成には、学校外の方との関わりも重要であると考えているからである。また、昨今不足していると言われるコミュニケーション能力育成にも役立つと期待している。本校の取り組んでいる地域連携は

大きく4つに分類できる。それを具体的に述べる。

(1) 地域産業との連携

隣の駅近辺に町工場が多くあり、「東小松川工場会」という会を構成している。平成15年より工場会のご協力で、毎年6月に機械科と電子科の3年生が5~6人のグループに分かれて、午前中に4社見学している。20社以上の工場が快く生徒を受け入れて、質問に答えていただいている。日頃目にする事のない工場の現場に触れ、生徒は驚いたり感心したりしている。午後は工場会の方の講演を聞いている。



東小松川工場会に所属する企業の見学

3学年機械科の課題研究の一つとして、工場会の会員企業から、部品の受注を受けて製作・加工して実用化するまでのプロセスを学んでいる。これは「機械生産システム実習」と呼んでいる。

(2) 区役所との連携

江戸川区主催のイベントで本校が今年参加したものを紹介する。10年以上前から参加しているものから、今年初めてのものまで、様々である。

4月：区内小学校の校庭で行われた「緑のフェスティバル」で、植木鉢を区民に配った。この植木鉢は「廃プラスチックリサイクルシステム」実

習装置を使用して作った。

6月：区内公園で行われた「江戸川区環境フェア」で植木鉢を区民に配った。



江戸川区環境フェア

7月：区内公園で行われた「金魚まつり」では、猛暑の中、場内整理や誘導等をはじめ金魚すくい選手権の係など様々なところで運営に参加した。

8月：区営ホールで行われた「道の日キャンペーン」では、参加のほとんどが企業や役所の中で、本校生徒が模型の燃料電池車やライトレースカーのデモ走行、相撲ロボットの操縦体験、手作り UFO キャッチャーの体験などのコーナーで区民の方々に楽しんでもらった。

10月：区民まつりで、植木鉢配布、ペーパークラフト体験、ホバークラフト試乗体験などを行った。

11月：地域産業展である「江戸川区ときめき産業フェア」に本校がブースを出して、葛西工業の教育内容を紹介して生徒作品を展示しながら、簡単な体験コーナーを設置した。

イベントではないが、江戸川区の児童館が発展した「江戸川区共育プラザ」と昨年から連携し、100組を超える、6ヶ月から1歳6ヶ月の赤ちゃん・お母さんと本校の3年生全員が2～3回に分けて本校で赤ちゃん交流を行っている。

昨年度から都立高校全校で実施されている教科「奉仕」は奉仕体験を授業時間の半分組み入れることになっている。この奉仕体験先は保育園、老人ホーム、すくすくスクール、図書館など約40カ所あり、1年生全員が分かれて出かけていくのだが、この体験先は江戸川区教育委員会に調整し

ていただいた。

(3) 幼・小・中学校との連携

本校の「廃プラスチックリサイクルシステム」で、近隣の保育園、幼稚園、小学校低学年が自分たちで集めたペットボトルを持参し、植木鉢を持って帰る体験を行っている。

5年前より、夏季休業中にマシクラフト部員による小学校高学年対象のロボット製作教室を実施している。

保育園に小動物の寝床になる木屑を定期的に提供している。小学校で飼育している小動物の小屋を製作した。

中学校へは出前授業、実習体験を行っている。

(4) 地域との連携

本校の属する町会と駅前商店会が4月に、「一之江駅西口春まつり」を行い、本校はテント二張りで、キーホルダー、風車、メモスタンドなどの体験を行った。11月のイルミネーション点灯式では、軽音楽部の演奏参加と会場設営や参加者の整理などのボランティア活動を行った。

本校の周囲には23区内とは思えない程、畑があり、本校の園芸部が畑で実習体験させていただいている。また生徒会を中心として近隣清掃を行っている。

4 最後に

以上のように、様々な形で地域と連携している。内容も工業高校ならではのもの、ボランティア活動的なもの、活動場所も校外の野外、校外の施設、校内と様々である。

広報活動としても大きな効果があり、また、生徒が外部の方に声をかけていただくことで学習意欲が喚起されている。コミュニケーション能力向上にも役立っている。地域に根ざす工業高校として、地域連携に取り組んでいきたい。



地域と密着した模擬株式会社「レガロ工房」の活動

東京都立荒川商業高等学校教諭 木村 和久

はじめに

東京都立荒川商業高等学校は、近くに都内で唯一の路面電車、都電荒川線が走り、東京の荒川と隅田川に挟まれた、足立区小台にある商業高校です。平成21年には創立50周年を迎えます。

平成14年4月に、「個性の伸長と専門性の深化」・「たくましく生きる力の育成」・「地域に根ざした教育活動の実践」という方針の基に、商業科4クラス・情報処理科2クラスから、総合ビジネス科6クラスに学科改編を行いました。今年度で5回目の卒業生を送り出します。

総合ビジネス科の学習内容を紹介します。

○第1学年…商業科目の基礎基本である「簿記」・「情報処理」・「ビジネス基礎」を学び、あわせて「ライフプラン」（総合的な学習の時間）を利用して、個々の将来像や職業観の育成を行っています。

○第2学年…5系列（マーケティング・会計・情報・ビジネス・デザイン）に分かれて、各専門分野の基本的な知識・技能を身につけます。

○第3学年…実践的な授業〔商店街実習（小台大通り商店街振興組合にて、ポスターやWeb制作を実施）・販売実習など〕を取り入れて、専門性を高めるとともに応用力・創造力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力の育成を図っています。

1 模擬株式会社「レガロ工房」

平成17年4月に専門系列の教育活動をより活性化させるために、全校生徒を社員とし、社長や役員も生徒が担当する模擬株式会社「レガロ工房」（レガロは、イタリア語で“贈り物”の意味）を立ち上げました。

会社の組織は次のようになっています。

- ・マーケティング部…イベントをはじめとする販売促進機能の企画と調査

- ・会計部…「レガロ工房」の活動に関する会計報告と経営分析
 - ・情報部…PC利用をはじめとする情報発信機能の企画と製作
 - ・デザイン部…広告制作をはじめとする顧客吸引機能の企画と制作
 - ・ビジネス部…「レガロ工房」の活動に関する商標登録の手続きと書式類の作成
- の五部門から構成されています。1年生は、新入社員（研修生）として、商業の基礎知識の習得を行い、2・3年生は、各部に所属し専門性を活かした活動を行います。

また、4月に全社員に対して、新社長名の記載されている“辞令書”を交付します。さらに、社員がデザインした「レガロ工房」の名刺を、全校生徒が持っています。



2008年度「レガロ工房」の名刺

(1) 地域商店街

「レガロ工房」として、小台大通り商店街のキャラクターデザイン制作（「姫リン」という名称で、



商標登録済み）及び商店街にある60本のフラッグデザイン、イベントポス

商店ポスターと街頭フラッグ

ターの制作を年4回請負って行っています。

(2) 他業種連携活動

「レガロ工房」が、外部機関と連携をして活動＝仕事を行ってきました。主なクライアントの紹介と制作した内容を紹介します。(順不同)

- ・(財)全国商業高等学校協会 パンフレット
- ・花やしきアクターズスタジオ生徒募集ポスター
- ・荒川区保健所 受動喫煙防止タグデザイン
- ・荒川区役所 「あらかわの心」カルタ
- ・日暮里・舎人ライナー開業記念イベントポスター
- ・足立区 「あだち環境かるた」

など多数のクライアントから仕事をいただき、クライアント・オリエンテーションを受けた後、情報収集・分析、戦略を立てコンセプトに基づいて制作し、プレゼンテーションを行い、修正・確認などをしてから納品するという手順で行っています。



荒川区役所「あらかわの心」カルタ

2 地域活性化活動

(1) ラッピング都電

地域活性化活動の一環として、都内唯一の路面電車、都電荒川線の一車両を借りて、ラッピング都電を走らせています。「地域に元気を与え、地域活性化に貢献する」というコンセプトに基き、活動範囲を広げることができました。

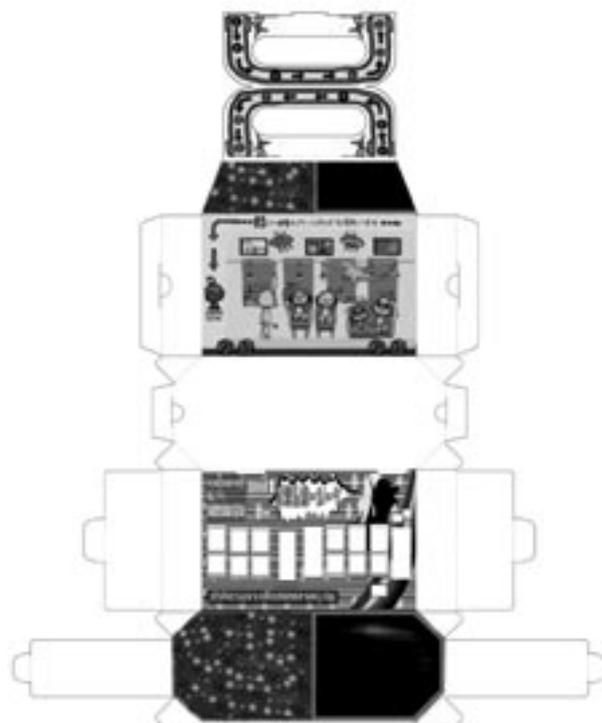


ラッピング都電 荒商バージョン

(2) コラボレーション

地元のお菓子メーカーの商品を地元の銘菓へ、

さらに全国の人に知ってもらおうという企業の広告を共同作業で行ってきました。その結果、「人と地球にやさしい都電荒川線」というコンセプトに基づいた本校オリジナルパッケージを制作し、イベントや広告活動を行い地域ブランド育成と売上に貢献しました。このおかげで、地域活性化のお手伝いをすることができ、地域のパートナーとして活動できる自信ができました。



都電荒川線オリジナルパッケージ展開図

おわりに

「レガロ工房」として、地域活性化活動や依頼された仕事を行うこと、また、プロジェクトチームなどで他の部と共同で作業をすることにより、生徒(=社員)のコミュニケーション力・プレゼンテーション力などを育成でき、問題が生じたときでも最善策を自ら見つけ出して解決できる能力も備わるようになりました。

しかし、各部間の連携の強化など今後、解決しなければならない課題も残っています。

また、今後は、情報発信つまり Web による情報発信を行い、さらに地域活性化の輪を広げていきたいと思っています。



総合学科高校における企業や地域と連携した教育の実践

東京都立世田谷総合高等学校長 山中 豊

はじめに

都立の総合学科高校は平成8年に晴海総合高校が設置されたのを始めとして、つばさ総合、杉並総合、若葉総合、青梅総合、葛飾総合、東久留米総合、世田谷総合の高校が開校し、現在8校となった。今後、町田地区および北地区にも設置が計画され、10校となる予定である。本稿は都における総合学科高校の企業や地域と連携した取組について概要をまとめたものである。

1 総合学科の理念と特色

総合学科高校は、普通教育及び専門教育を、選択履修を旨として総合的に施す学科であり、普通科、専門学科に次ぐ「第3の学科」として設置された。その設置は、高校教育における課題解決のパイオニアとしての役割を担ったものでもあった。

- ・多様な生徒に対する個に応じた柔軟な教育の展開。
- ・生涯学習社会に対応した主体的な学習の促進。
- ・個性の伸長を目指した選択幅の広い教育の充実。
- ・将来のあり方、生き方や職業観の育成。

このような理念に基づいた総合学科高校の教育は次のような特色を持っている。

- ・生徒一人ひとりが「主人公」となるカリキュラム。
- ・個性を伸ばし、可能性を見出す。
- ・将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる。
- ・生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てる。

2 原則履修科目「産業社会と人間」

「産業社会と人間」は、産業社会における自己

のあり方、生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するため、総合学科のみ必修となっている科目である。

生徒に将来の生き方を考えさせるとともに、学ぶことの意味や学ぶ意欲、コミュニケーション能力などを育成する重要な科目であり、その趣旨からも、生徒自身が実社会を調べ、交流し、体験することが大切であり、学校と企業や地域との連携が必要とされる教育活動である。

次に教育活動の年間計画の一例を示す。

前期 (4月～9月)	職業調べ(調査・まとめ・発表) 適性テスト(実施・評価) 講演会(職業と学習) 受講登録説明 学生との交流 受講登録予備調査
(夏休み)	上級学校訪問、職業調べ 夏休み課題まとめ・発表 受講登録説明・受講相談
後期 (10月～3月)	受講相談・受講計画作成 講演会(働くこと) 職業人インタビュー (準備・実施・まとめ・発表) キャリアプラン作成 (計画・調査・まとめ・発表) 学習成果発表会

3 企業・地域との連携

「産業社会と人間」を中心とする、連携の実践例について概要を以下に紹介する。

(1) 企業訪問

20カ所程度の企業・事業所に学年生徒がグループに分かれて、半日ほど訪問する。事業内容の説

明、施設見学などを行い、現場の職業人の方へのインタビューにより様々な話を伺う。働くことの喜びや社会的責任について理解し、職業観の育成や進路希望の明確化に資することができる。ただし、受入企業の開拓が難しく、日程や対応内容などについての調整に非常に時間が取られる、などの問題点がある。

(2) 職業人講話

社会の第一線で活躍されている職業人を招き、講話を聴く。一人の職業人に全体での講話をお願いしたり、十名程の方にお越しいただき、生徒が複数の方の話を聴くようにしたりしている。職業に就くまでのプロセス、苦労、喜び等を直接知ることができ、職業観の育成、進路選択の明確化に役立っている。平日に職業人の方に来校してもらうためスケジュール調整が非常に難しい。

(3) ライフプラン

生徒が今後のライフプランを考えていく際に、知識や経験豊富な社会人のアドバイスを受ける。対応する社会人は現役の方や引退されている方など様々である。豊富な体験談も貴重であり、生徒は進路について真剣に考えることができる。生徒の進路希望分野とアドバイスする社会人の知識・経験のマッチングが難しい場合がある。

(4) インターンシップ

実施規模（学年全員や、十数名から数十名の希望者のみ）、実施期間（数日から1週間以上）、連携の形態（ロータリークラブや地元商工会などとの協力体制がある場合、学校と各企業との個別調整の場合）など、学校により様々である。実施していない総合学科高校も多い。職業観や勤労観に変化が見られ、職業に対する考えが深まっており、学校生活への意欲も喚起される。ただ、受入事業所の確保については大変苦労する。体験の内容や時期の調整も困難であり、大変時間が取られる。また、インターンシップに臨む生徒の意識の啓発、マナー等の生活指導について、計画的組織的に実施、充実させる必要がある。

(5) 地域行事・ボランティア活動参加

地域における各種行事やボランティア活動に生徒が参加し、地域の方々と一緒に活動する。生徒会やボランティア活動を行う部による活動、希望生徒による参加など、参加形態は様々である。生徒にとっては社会の一員としての役割・意識・理解が深まると同時に、地域の方々に学校・生徒を理解してもらうよい機会ともなっている。地元行事の日程は、ほぼ固定しており、参加生徒が限定される場合が多い。

(6) 市民講師

総合学科高校に設置されている多様な特色ある専門的科目について、その分野の高度な技能や知識を持った方に生徒の指導を行ってもらおう。年間を通じて授業を担当する場合と、数時間指導してもらう場合などがある。福祉、美術・工芸、伝統文化など様々な授業で、「本物」の技や経験を生徒に伝えている。

4 まとめ（成果と課題）

総合学科においては、職業観や勤労観を育成し、将来の生き方を考えさせ、進路希望を明確化し、それを科目選択に焦点化させていくため、企業や地域と連携した各種の学習活動を積極的に展開してきた。それぞれの活動は、生徒の意識啓発や進路の考察に非常に有意義であり、結果として、学習への意欲向上や卒業後の多様な分野への進学、就職に繋がっている。また、学校や生徒の状況を伝えることにもなり、「開かれた学校」づくりに大いに寄与している。

ただし、いずれの取組も、連携企業等の開拓、日程調整などに大変苦労している。学校の予算的制約などが支障となる場合もある。また、企業や地域との連絡・調整に時間が取られ、授業や生徒指導に支障が生じかねない場合もある。両者を繋ぐコーディネーターのさらなる活用が期待される。



自動車研究部における企業や地域と連携した取組

—省エネルギー製作を通じてより実践的な技術者をめざす—

昭和第一学園高等学校機械科 新屋敷 誠

1 はじめに

本校は、立川市にあり、工業3科（機械・電子情報・建築）に普通科を併設した総合高校である。平成22年度に創立70周年を迎えるが、建学以来「将来の産業界の第一線を担える中堅技術者の育成」を工業科の教育理念とし、モノづくり教育に重点を置いている。本稿では、自動車研究部におけるモノづくりを通して企業や地域との連携した取組について報告する。

2 省エネルギー競技への取組

近年、省エネルギーに対する関心の高まりとともに、省エネ競技への参加者は年々増加している。自動車研究部では、創部以来一貫して産業界の第一線を担うエンジニアの育成に主眼を置きクラブ指導を進めている。具体的には『主体性を持ったエンジニア』を目標にソーラーカーやエコランカー（1リットルのガソリンを使用して走行距離を競うレース）を製作し、各大会にエントリーしている。自動車研究部の活動においては「モノづくり」が基本である。「モノづくり」の中から技能・技術を習得する事を主たる目的とし、普段の研究成果や技術の証明をすべく、省エネ競技を通して試してきた。



自動車研究部員と製作車両
（ソーラーカー・エコランカー）

3 地域・企業連携の実績及び成果

自動車研究部では、外部団体等から年間20件前後の出展依頼（下表「主な出展先」参照）を受けている。出展内容は、自動車研究部製作車両の展示とモノづくり（ネームプレート製作等）である。一クラブにて、これら全てに対応することは決して容易ではない。出展に当たっての事前指導や準備・段取りは勿論であるが、むしろ車両製作に要する膨大な時間と労力を考えると、少なからず損失である。しかし、来場者に対して熱心に研究内容や成果を語る生徒や依頼されたモノづくりに精を出す生徒等、学内とはまた一味違った生き生きとした姿を見せてくれる。また、来場者の研究成果に対する讃辞やモノづくり（ネームプレート等）に対する感謝の言葉を受けて、否応なしに彼等のモチベーションは向上する。自らの研究成果やモノづくりに対して客観的に評価が得られる事を体験するのである。更に、指導者として、時間的な損失そのものは、これらの体験を通じて優に挽回出来ることや、何より彼等の活動意欲を助長させるチャンスである事を学習した。

（表）主な出展先

出 展 名	依 頼 元
西武信用金庫 ビジネスフェア	西武信用金庫
立川市交通安全週間出陣式	立 川 市
立川市 春の楽市	立 川 市
立川市 市民おもしろ大学	立 川 市
サイエンスドーム八王子	八 王 子 市
多摩工業交流展	立川市商工会議所
東京オートサロン(日本ペイントブース)	日本ペイント(株)
昭島市産業祭	昭 島 市
小中学校体験授業(7件)	各小中学校

(2007年度実績)

元来、工業高校は地域の産業・技術・経済の振興のための担い手を育成してきた。ところが、工業高校の特色の一つであるモノづくりが地域貢献において認識され一定の評価が得られる一方で、

使用価値を生み出す生産労働は比較的3Kとして蔑視される傾向が見られる。しかし、生徒達にとって価値ある作品を自分自身でつくれる技術的能力が得られたことは、職業的能力を獲得した事に等しく彼等の自信となる。モノづくりを通してこれらの活動全般が生徒達の労働観や職業観を育てる事に違いない。

次に企業連携については、生徒達の要求を満足させるため、「常に改善」を合言葉に年間一台のマシン製作を目標に作業を進めてきた。1台のマシンを完成させるために、機械工学の分野では、機械要素・材料力学・流体力学・熱工学・工作等広範囲な分野での知識及び学習が要求される。工学的には浅薄な知識のままに十数年の歳月を費やし、随分と乱暴な手法もあったように記憶しているが、ただひたすらに効率を追求しマシン製作に取り組んできた。省エネルギーを志向する以上、必然的により軽量化を求めざるを得ないのだが、当然の事ながら素材における有利性を考慮すれば資金調達の問題が生じる。その点、本校は建学の精神に則り、モノづくりには理解のある校風があり、特別予算として研究費を捻出いただいているが、資金難は否めない。従って、本校の取組にご理解を頂き、立川市を中心に各企業様にご支援を頂いている。協賛企業は30社(2007年度現在)を越えるに至った。各企業様から、「将来の産業界の担い手としての技術者の育成を願います。」との暖かいお言葉を頂戴している。

また、協賛企業様には、より専門性をもった技



学内での外部講師による講義
(テーマ：太陽電池の最大効率点について)

術的な指導に各分野の専門家を外部講師として招き学習会(写真)を不定期に開催している。これは我々指導者も含め生徒達の有効なスキルアップ講座として大きな効果を得ている。

ここで、職業高校への期待を2つの調査結果から確認したい。【都立高校に関する都民意識調査】(東京都教育委員会)の「職業高校の教育に期待するもの」では、「実社会ですぐに役立つ技術の習得」(34.2%)、「専門的な知識を持つスペシャリストの育成」(29.6%)が極めて高く、全体の65%余りを占める。また、【企業の高校教育への要望調査】(文部科学省)でも専門高校に対しては「専門的知識・技能」の習得が普通科の5.6%に対して43.8%と高く、また依然として、「意欲・態度・勤労観・職業観」、「責任感・忍耐強く取り組む態度」の育成への期待も高い。これらは工業高校ならではの技術・職業教育でこそ培われるものであると思う。従って、工業高校が、地域に根ざし地域の期待に応える工業教育を創造し、その期待に応えうる専門性の高い技術者育成の更なる使命を感じる。

4 おわりに

普通教科にはない工業系の専門教科に内在する職業教育はこの教科固有のものであるが、企業や地域連携を通して更にその効果を増大させるものであり、技術教育が職業教育の一端を担っていることは紛れもない事実である。また、工業高校は、歴史的にも地域の産業、技術、経済の振興のための担い手を育成してきた。その信頼と期待の上に雇用も確保されてきたのである。従って、将来にわたりそれらに応えうる専門性の高い工業高校に発展させていく事が求められていると。

最後に、日々研鑽し寡黙な中に情熱を持って取り組む姿勢が技術者にとっての必須条件であると考えている。今後も工業高校で学ぶこと、そして教えることに誇りを持ちつつ、モノづくりを通して勤労観・職業観の育成を図り、次世代の技術者を育てるべく努めていきたい。

(参考文献)

斉藤武雄・田中喜美・依田有弘編著「工業高校の挑戦」



日本版デュアルシステムを導入した ホテルマンの育成

国際観光専門学校長 高野 和夫

はじめに

「若い人は幸せです。夢と未来があるから。」と大人はよく口にします。しかし、今の若者は苦しんでいます。それは、ますます国際化と細分化を繰り返す労働市場の中で、彼らが自分自身の立つ位置を見出すことが難しくなったためです。このことにより、自ら自信をもって仕事に挑むことの出来ない人が増え続け、その結果の一つとしてニート、フリーターを生みました。教育は学校内における指導が中心となって組み立てることが原則ですが、生徒が人格形成のために受ける影響を考慮すれば、「学校教育は社会と共にあるもの。」と考えなければ大きな成果は期待出来ません。知るための教育だけでなく、出来るための教育、生きて行くための教育が成されなければ、この国の未来は暗いと思います。そこで本校では座学と企業実習をしながら、就職活動をする「日本版デュアルシステム」を導入し、相当の成果を上げることが出来ましたのでご紹介します。

1 国際ホテルデュアル学科の新設とその実際

本校は平成15年10月より教育訓練機関主導型の日本版デュアルシステムによる「国際ホテルデュアル学科」を設置致しました。この制度は座学教育を学校で行い、有給企業実習を実習委託先の企業（ホテル）で実施するもので、実習がカリキュラム化されているため、学習単位として認められることが特色です。本校がこの学科を開設して5年となりますが、入学希望者数、受入れ先企業数のそれぞれが共に増え続けている状況から

見れば、生徒にとっても企業にとっても歓迎される制度であることは立証できたと信じます。企業サイドのメリットは、①実習生全員がホテル就職希望であるためアルバイト生とは勤労意欲が異なる。②学校の就業年限が2年と設定されているので安定した実習計画を作成できる。③2年後には企業にとって必要と思われる卒業生を採用後、新たな実習生も着任するので、常に職場に新鮮な労働力を確保できる。一方学生サイドのメリットは、①実際のお客様と実習を通じて接触し、職場の上司の指導下で実習するので現場力が身につく。②企業実習手当（時給900円）が学費となるのでご父母の負担が軽くなる。③卒業時に企業から「企業実習終了証明書」と「企業実習成績証明書」が発行されるので就職に有利である。

2 国際ホテルデュアル学科の教育課程

学科定員：40名、就業年限2年、年間授業時間数1530時間（内企業実習750時間）2年間合計授業時間数：3060時間（内企業実習1500時間）

〈主な授業科目〉

（座学）

ホテル概論、レストランサービス技能試験、料飲サービス実習、ホテル接遇マナー、ホテルセールス、ホテル経営技術、アシスタントブライダルコーディネーター講座、英会話、コンピュータ実習。

（企業実習）

身だしなみ、基本マナー、勤務態度、実習意欲、接客態度、接遇スキル、業務知識、実務遂行能力。

3 企業実習先ホテル名（平成 20 年 8 月現在）

グランドプリンスホテル高輪、グランドプリンスホテル新高輪、浅草ビューホテル、ホテルオークラ、両国第一ホテル、東武ホテルレバント東京、ホテルイースト 21 東京、パレスホテル、ホテルラホール東京、ホテルメトロポリタンエドモント、ホテルルポール麹町、ロイヤルパークホテル、パシフィック横浜ベイホテル東急。



ホテルでの実習 1

4 教員の定期巡回と個別指導

この学科の生徒は、学生としての身分と企業の社員としての身分を同時に持つこととなります。従って本校の教員が企業実習先のホテルへのきめ細かな巡回と、ホテルの労務管理を含めたカウンセリングの徹底が成されなければ、彼らは常にドロップアウトの危険性にさらされます。それ故、問題の起きる前に常に担任がコミュニケーションを図るよう心がけています。

5 学校・企業合同による連絡会議

企業と学校がより高度な連携を図るために年 1 回以上の連絡会議を実施しています。その中で企業実習の実情と座学との関連性を中心に協議が重ねられています。

6 具体的教育成果の一例

デュアル学科生の実力は常に高く評価されています。この学科の在学生在が平成 20 年度に日本ホテルレストランサービス技能協会が主催する「レストランサービスコンクール」で第 1 位となり、本年度の技能五輪の代表者と決定致しました。

7 時代の変わり目に乗り越えなければならない犠牲とハードル

「日本版デュアルシステム」の導入には、大変な苦労があり且つ、また今後の改善点も無限に存在しています。学校は企業の仕事の一部を担当しなければならない。企業もまた積極的に教育に取り組まなければならない。生徒は責任を伴う企業実習に対応できる精神力が必要となる。しかし、“天は恵みと試練を与える”と言われます。天の恵みに甘え試練を忘れた社会を作ってしまった大人の責任として、私たち教育関係者が勤労の厳しさに耐えられる新たな職業教育を構築することはこの国にとって義務かと考えます。



ホテルでの実習 2



ものづくり学習からものづくり職場体験

大田区立東蒲中学校長 三浦 登

1 地元の「ものづくり技術」を伝えよう

技術立国の日本、今の悩みは？後継者不足ではないでしょうか？技術大国を支えたのは、多くの中小企業の技術者です。しかし、その技術者の年齢は高くなり、後を継ぐ不安が起こっています。

一方世の中が便利になり、子どもたちはものづくりへの興味が薄れている傾向を示しています。それだけではなく、勤労感や職業感も弱いことが社会問題となり、学校現場ではキャリア教育の推進が大切になっています。

世界に誇る『大田区のものづくり技術』を伝えようと動き始めたのは、上記の課題を地元の産業を子どもに伝えることから解決の糸口をつかもうと、大田区では平成12年度から「ものづくり学習振興支援事業」として実施されました。

無から有を生み出すものづくりの体験は、子どもたちにもものをつくることの意義や価値を理解させるとともに、ものをつくりだす楽しさや大切さを感じさせることができる経験となります。大田区の工業は高い評価を受けておりますが、この地域で学ぶ子どもたちが、充実したものづくり学習に取り組むことにより、技術立国の日本を支える重要な位置をしめる人間として成長することを期待し、区教育委員会もバックアップしました。

学校では近隣の工場の見学を行ったり、学校に技術者を招いて話を聞いたり、実演を見せてもらったりと、様々なものづくり体験が行われるようになりました。

2 子どもたちの感性と感動を広めるものづくり

ものづくり学習で得た感動や喜び、驚き、そし

て大人の苦勞などを感じ取った子どもの感性を発表する場として、平成14年度に「ものづくり教育・学習フォーラム」が開催されました。

小学校からは「町の達人から教わろう」と、近隣でのへら絞り、プレス等の工場の見学や簡単な体験での感動を。中学校からは、「工業高校の実習体験を通して」と、区内の私立工業高校（現在は普通科と併設）での実習成果等が発表されました。

また、区内の事業所や工業高校等が「体験コーナー」を設置して、写真立て、下駄、鉢植え等をつくり、小・中学生はもとより就学前の子どもたちにもものづくりを楽しむ場としました。



ものづくり体験の感動を発表する小学生

3 継続による発展

「ものづくり学習振興支援事業」は、工業系のものづくりだけでなく、地場産業の海苔づくりや服飾関係の体験等、地域の企業の協力をえて小学校や中学校で、ものづくり体験に広がりを見せています。また「ものづくり教育・学習フォーラム」は、2年前より中学校技術・家庭科研究会の働きかけで、木工とソーイングの技能コンテストが行われ、審査員に木工製作所の技能士の方や区

内の服飾専門校の方が入るなど、企業や地域の上級学校との連携が進展しました。また、体験コーナーに協力して下さる企業や私立の高等学校の中には、6年続けて参加して下さる方々もいます。更に声かけをして体験の種類や数を増やしています。その成果は、参加・入場者数が当初600名前後から、平成18年度は1,000名を超え、19年度は保護者（幼児含）、地域、企業、小中学生、高校生、その他で1,300名以上となったことに表れていると思います。



ものづくり体験コーナーで楽しむ参加者

4 ものづくり学習を職場体験で

文部科学省が「キャリア教育」の一環として中学校での職場体験を推進していることを受けて、大田区では、区の地場産業であるものづくり町工場での体験を進める動きが出ています。

ものづくり学習から、ものづくり工業の世界を知ってもらうことが、将来の後継者づくり、人材づくりにつながるとして（社）大田工業連合会が推進に力を注いでいます。

学校と企業・地域の連携を具体化するために、「大田区中学生の職場体験を支援する会」・「学職連携ネット」を発足させて、職場体験のプログラム開発、受け入れ事業所に対するガイダンスの開発等が行われています。

職場体験の中で「ものづくり工場の職場体験」においては、『ケガ・事故』『安全対策』についての検討がなされました。

その対策として、安全指導を大田区にある工業系高校で行い、事前指導に留まることなく、課題

意識を高める上でも有効となりました。

高等学校の現場で、対象が中学生であることを十分認識して、旋盤や溶接等の実習を通して、工作機械の概要や安全配慮の項目・作業行程をわかりやすくプログラムを組んで頂き、実施しました。

5 啓発活動

ものづくり学習や職場体験で～地場産業～ものづくり工場～体験を重視するためには、更に学校と企業・地域の意識改革が必要であります。

平成14年から実施されている「ものづくり学習振興協議会」や平成18年8月に行われた「大田区キャリア教育フォーラム」、平成19年5月に「大田区工業連合会と区立中学校との職場体験に関する懇談会」は、産・学・行政が一同に会して、大田区の子どもたちに世界に誇る「ものづくり技術」を知らせるための話し合いがなされました。



地元の企業と学校の代表によるシンポジウム

平成20年8月に行われた「中学生ものづくり職場体験学習シンポジウム」もその一環で、参加者からは『ものづくり体験の場を増やすには、企業のプロが先生方を指導し、大人のものづくり技術向上が必要です。大田区の技術科の先生たちは、率先して研修会を行っています。』の声もあがりました。これは、子どもの参加についての視点だけでなく、学校と企業が連携して大田のものづくりを、多くの子どもたちに伝えていくために必要な視点が、新たに出されました。多くの小中学校の教師がものづくりの楽しさを実感することで、更に学校と企業・地域の距離は縮まるでしょう。

東京の産業界



優れた企業人材の採用・育成を求めて

東京経営者協会事務局長 和栗 安広

1 はじめに

わが国において、社会経済面から「グローバル化」が論議されるようになってかなりの年月がたっています。企業経営にとって「人・物・金・情報」の4要素は、いずれも重要な経営資源ですが、すでに「人」以外はまさに地球規模での移動が活発に行われています。

天然資源に恵まれず人材こそ重要な資源・財産であることは、これまでもわが国で繰返し述べられてきたところです。しかしながら、少子化が進む一方で若年層の就業意識の変化や、団塊世代を中心に実務経験豊かな従業員層が企業現場からリタイアし、足元での深刻な人材難を生み、各企業ともその確保と育成に懸命に取り組んでいる現状となっています。

2 東京経営者協会について

私どもの東京経営者協会は、昭和21年に「関東経営者協会」として発足、同23年には全国組織の「日本経営者団体連盟（日経連）」となり、戦後の激しい労働争議や石油危機後の賃上げ論争、そして社会保険制度改革などの広範な社会・労働問題に関わってきました。そして、平成14年に旧日経連と旧経団連の統合により、日本経団連が発足した折に、東京地域における総合経済団体として新たに出発し、現在に至っています。

本協会では、企業が直面するさまざまな人事・労務・経営課題に対して的確なサポートをしつつ、企業人材の育成のための研修、会員相互の交流に力を入れてきています。

また、東京における使用者団体として、東京都や厚生労働省、東京労働局を始め多くの関連機関・団体との緊密な関係を保ち、企業経営の立場からの発言および施策を行っています。

3 インターンシップ制度の概要と活用

本協会の事業活動の一つとして、平成13年度から大学生等を対象にインターンシップ受入企業開拓事業を展開しています。その後高校生対象のジュニア・インターンシップも実施しています。「七五三」現象といわれる若年層の入社後早期離職率の高さは企業にとり大きな悩みですが、その原因には、若者の自立の遅れ、職業観・就労意識の希薄化・多様化、また就職前に描いていた仕事や会社のイメージと現実とのギャップなどがあります。職場見学や就業体験のインターンシップを通して、若者たちが将来のキャリアを考える機会として活用できればと考えます。



インターンシップ（実習訓練）

体験期間については、高校生の場合が1週間程度、大学生の場合は2週間が一般的です。

大学生の場合、内容としては「事前指導」、「職場実習」、「事後指導」に分かれ、事前に学校による職業生活のビジネスマナー・守秘義務・事故防

止の指導を受け、実習では企業の現場で責任者や担当者からマンツーマンの個別指導を受けて、事後にレポートや意見交換を行い、その後の進路選択に役立ててもらおうことを狙いとしています。

企業現場での実務体験により、はっきりと効果もあらわれ、学生からは「社会のルールやマナー、挨拶の仕方、チームワークの大切さを学べた」、「異なる世代の人たちとの交流が出来た」、「責任をもって仕事に取り組むことで、達成感や充実感を持てた」、また受入先企業からは、「短い期間でも働くことの姿勢が前向きに変わった」、「職業を選ぶことに真剣さが見られた」などの声が寄せられています。

インターンシップは企業側にとっても、自社の実状をアピールする好機となり、また人材確保の契機にもなり、産学連携の貴重な機会となっています。また、職場に若者が来たことで職場の活性化にも繋がったと思われ評価も受けています。

学校の送り出し、企業の受入れは手間と時間がかかりますが、こうした効果が見込めるため、インターンシップの参加者数と受入れ表明企業数は、年々増加傾向にあります。

4 最近の新規高校卒業者の採用

また、本協会では、毎年会員企業を対象に「新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」を実施しています。

平成20年2月実施の調査では261社から回答を得ています。分析結果を見ますと、本年度採用を実施した企業では、団塊世代の退職・景気回復などの理由で、5年前に比べ採用数を増やしたところが約5割となっています。

採用において企業が重視する要素は順に、コミュニケーション能力、協調性、言葉遣い、マナー、職業観・就労意欲、人柄となっています。

採用結果については、「満足・まあ満足」が5割を越え、一定の評価がされていますが、项目的には、コミュニケーション能力、積極性、職業観・就労意欲、基礎学力、責任感での満足度は低くなっ

ています。不採用者を含めた応募者全体では、一般常識・教養、チャレンジ精神の不足が見られるとの課題が浮き彫りになっています。

高卒就職者の定着について、回答企業においては比較的安定しているものの、離職の理由として、「仕事が向いていない」、「職場の人間関係」、「親元からの呼び出し」と続きます。対策として配慮していることは、「新入社員研修・フォロー研修」、「OJT」、「先輩による指導」などです。インターンシップの受入にも積極的で、28%の企業が「既に受入」しており、「受入要請があれば積極的に受入れる」、「前向きに検討する」企業は合わせて78%に達しています。

なお、平成16年度から実施されている就職慣行（9月16日から1社、10月1日以降一人2社の応募・推薦が可能）については、現行方式を支持する企業が73%に達しています。

企業の悩みは、質量ともに優秀な人材の確保が困難であり、基礎学力の低下や一般常識の欠如が指摘されています。学校への進路指導では、「学生に自己の将来像を描かせるため、様々な職業を意識させるような指導を工夫してほしい」、「多数の企業担当者と話し合える機会を増やすべき」、「会社と接触する合同説明会のような機会を増やしてほしい」などの意見が多くなっていますので、先のインターンシップなどが有効と考えています。

5 今後に期待するもの

「企業は人なり」との言葉は、よく聞かれますが、私自身、永く企業現場で仕事をした経験でもそれを強く実感しています。人材育成は、家庭、学校、企業を総合する社会全体の取り組みがあってこそ出来るものです。せめて「就職」という接点のある学校教育と、人を活かし社会に貢献する企業とが、目指す目標を共有し、連携をとって、わが国の次代を担う若者たちに、夢と志を持って社会人として歩む道筋をつけることができるよう、努力してまいりたいと考えるところです。



親父の日記が綴る「下町・町工場の50年」 — 不易流行 —

株式会社カナック企画相談役 金子 昌男

私が生まれた昭和16年12月、太平洋戦争が始まりました。戦後60数年が経ち、今では経済大国として、日本は世界各国から注目を浴びています。私は東京浅草で生まれ、戦争が激しくなった昭和19年に、群馬県の大間々に疎開をしました。疎開と言うのは、家を捨てる覚悟で移動する事で、親父の引くリヤカーに家財道具を乗せて、途中野宿をして大間々に辿り着きました。お袋と姉と私を乗せ必死にリヤカーを引く親父の後姿を、今でも子供心に覚えています。両親とも東京育ちの為田舎がなく、長兄が兵隊さんに出した慰問袋の中に、「疎開先が無い」事を書き入れたところ、その慰問袋を受け取った兵隊さんが「自分の出身地である大間々の実家に行きなさい」と紹介してくれた、たった一枚の手紙を頼りに家族の疎開を断行したのです。

終戦を迎え、焼け野原になった浅草に戻って、親父は子供達を食べさせるため、日当を稼がなくてはならず、リヤカーで、工場の配達の手伝いをしたりしました。おかげで私達5人の子供達（後に1人増える）は粗末な食事ではあったけれど、食べられない事はなかった。ところが、親父の日記を開いてみると【今日は食えなかった。どうでもいい景気良くなれ】と書いてありますから、親は食べられない日もあったのでしょうか。親は自分達が食べられなくても、子供達を育てるのに必死だったのでしょう。このような親に育てられた子供達には、親父の言葉は絶対的なものがありました。

戦後の処理も大分進み、工場にも活気が出てきたので、親父も以前の木箱製造業を再開し生計を立てていました。親父の凄いところは、私が中学校に通っている時に、空き箱の買出しをさせたところでしょう。当時、果物、魚、卵などは木箱で発送していたので、魚屋さん・果物屋さんから、空き箱が出たのを“1箱いくら”で買い取る交渉を、店主さんとやるわけです。大小色々、形状も色々。値段も腕次第。何せ安く買って来て、親父に高く売れば、自分のお小遣いが増えるわけですから、中学生ですが必死に交渉しました。また店主さんも相手が中学生ですから、大目に見てくれたのでしょう。おかげで随分お小遣いを増やしました。親父は私が買出しをしてきた木箱をバラして、平板にし、お客様が希望する寸法の木箱を作って納める仕事でした。

私が中学校を卒業すると、親父は「家業の手伝いをしろ」の一言。夜学の高校には行かせて貰いたいと、懇願し許しを貰いました。昭和32年4月のことです。さて、いよいよ社会に飛び立ちました。私の家の最大のお客様は、製菓会社でした。その製菓工場では、私達が改造した木箱に、古新聞紙を敷いて、その中にバラで焼き菓子を入れて、地方発送するわけです。今だったら考えられない事です。食品衛生法も、何もあったものではありません。ある時など魚箱から取った板に、鱗が付着し箱を作って、製菓工場に納め、そのまま菓子問屋さんまで送られてしまい、菓子問屋さんから嚴重注意を受けたことがあります。一応平板を取った後、洗うのですが、冬の寒い時など、水

洗いも楽じゃありませんから、つい雑に洗ってしまったものです。この手抜きをした咎が、後々事業を危機に陥れていく事になります。

この頃から、包装容器に段ボール箱が使われだし、木箱の需要が包装容器から梱包箱に変化していきました。我が家では、ダンボール箱を作る機械は買えませんから、製菓会社から要求されたダンボール箱を納める術を知りません。当然、製菓会社ではダンボール箱を他社から購入する事になり、我が家にとって最大の危機を迎える事態になりました。



親父の日記帳（期中面に書かれた46冊の日記帳は宝物）

この日記帳は

1. 大正 11 年から昭和 47 年まで
2. 大正 12 年 9 月 1 日関東大震災
3. 大正天皇崩御
4. 世界大恐慌時代
5. 太平洋戦争から玉音放送まで

親父の見た目で、克明に記録しています。

この年、昭和 34 年 12 月 31 日の日記を開くと、【仕入先の支払いは大体終わったが、製菓工場の仕事を手伝ってくれていた江角の支払いだけが、来年春に持ち越しとなり、気分がすっきりしない。富士銀行に預金があるだけまあまあだ。明日の元旦は雪で明けるらしい。一年を製菓工場の仕事で追われ、12 月になってその製菓工場でも木箱の使用を止められたので、バッタリ。昌男が新しい仕事を先を見つけてきてくれたから助かったが、さて、

来年はどうなる事やら。お先真っ暗だ】。何とも暗い年の瀬を迎えたものでした。ところが、これで女々しくならないのが下町っ子の良いところで、新しい年を迎えたら、「何とかなるさ」の気軽な気持ちで生活するから、子供たちも全く無邪気。ネアカそのまま。底抜けの明るさです。翌年の、昭和 35 年 12 月 31 日の日記には次のように書かれています。【今年も銀行預金が残った。今年は春に長女。秋に長男の結婚式をやり、他の義理も済ませて、貸しはあっても借りの無い年を越せると言うことは、先ず先ずと言えよう。このまま正月を迎え、朝を待つのみ】。この「何とかなるさ」の言葉は、真面目な人生を送る中で、ネアカの考え方を会得した人、人生を極めた人の言葉であり、決して、人生を不真面目に生きる人、即ち投げやりの人生、汗水垂らして働かず、楽しんで金を儲ける事に執着しているような人生を送っている人の言葉ではないのです。遊びも仕事も一生懸命な親父でした。

昭和 35 年は、まさに変化の年でした。弟も工業高校を卒業して、家業の手伝いをする事になったのですが、私が初めて親父に、一言の意見を言った年でもあります。弟に家業の手伝いをさせる事に、猛反対したわけです。「段ボール箱が普及し、木箱の需要が見えない時に、弟と一緒に手伝わせたら、一家共倒れになってしまう。それよりも、これから伸びるであろう電機業界に就職した方が、安心ではないか」と。でも結果は怒られた挙句、弟も手伝う事になりました。今度は一家が食えるか、食えなくなるかの問題です。木箱を使っている会社を見つけては、売り込みに行くと言う、お客様の開拓です。そこから学んだ事は、一生懸命努力していれば、運も味方してくれる。それも自分だけの利益を考えたら、お客様は買って欲しくないし、長続きしない。真剣にお客様の利益を、考える事が結局は売れる事になるんだ、と。総て事業の源流はここにあると思います。

昭和42年浅草が手狭になり、葛飾に工場を建設する事になりました。葛飾の工場は私と弟に任せられたので、新しいお客様を一生懸命開拓してきました。それこそ我々は木材を使うものは当然、素材の違う製品までお客様の要求を満たすものなら、何でも良いと言う事で事業を展開していきました。親父は木箱に拘っていましたが、我々の仕事振りにかなり面食らっていたらしい。昭和43年8月の日記には【浅草の方は予定していた品物がみんな出て行き、家の内外ガラガラで夏向きだ。葛飾の方は仕事が山積みで、多忙極める。俺に雑役でいいから手伝いに来てくれと言われたが、俺は俺のペースで仕事を運んでいく。忙しいからと言って、俺に巻き添えを食わされても、俺はついて行かぬ。先ず昌男に言い渡す。健康第一であると言うことを、はっきりと申し渡す。】と書いてあります。親父は、自分のペースをしっかりと守り、人生を楽しむコツを知っていました。決して事業拡大に走ることなく、財より心の豊かさを求めています。ただ、私達若いエネルギーは、基本は親父の教え通りの考え方、行動を踏襲していましたが、働けば稼げる面白さを知り、働け、働けの毎日でした。この背景には、日本の社会全体が高度成長時代に入り、経済規模が大きくなってきましたから、真面目にお客様の笑顔を見ながら仕事をしていけば、事業そのものが拡大していった時代です。

昭和46年に法人組織の株式会社に変更して、一応会社の形態を整え、事業の拡大に努力してきました。総てお客様の笑顔の為に。もの作りの楽しさは、使う人の笑顔が思い描けるからではないでしょうか。当社も木箱製造業からスタートし、梱包事業、物流業務代行業、カーオーディオ・カーナビの取り付けキットの開発・販売、又ある大手の企業とタイアップして、商品のサービスメンテ事業と事業の範囲を広げてきましたが、決して背伸びすることなく、器の大きさを弁えて、事

業活動をしてきました。

この様に、親父の日記を開いてみると、父親としての芯の強さと、頑固さと、深い愛情が滾々と湧き出ています。親父は1901年(明治34年)生まれ、1972年(昭和47年)没。71年の生涯を家族の為に必死に働き、子供達に生き様を見せてくれました。勿論その陰には、生涯を共にした、母親の献身的な努力があつての事は、言うまでもありません。その様な両親に育てられた私が、少しでも社会のお役に立つ様な行動をすることが、両親に対する孝行かなと、理解しております。

この頃の社会の風潮は、財を成した人を成功者のように祭り上げる傾向がありますが、果たしてそうかなと思います。例えば、相当な財を成し遂げた人が、もっと増やそうと大きな苦勞をしている人、挙句の果ては法を犯してまで財を増やそうと考えている人、又は財を成しても体調を崩して、お医者様から食事制限を受けて自分の好きなものも食べられない人、果たして本当に幸せですか。人間の心もお金で買えれば本当に幸せですか。今学力の定着とか、向上とかで一生懸命生徒さんの考え方を偏らせてしまう傾向が見られて仕方ありません。私は、豊かな心の持ち方を、若い時に身に付ける事が大切なことと思っているこの頃です。豊かな心とは、人の温もりを感じ取れる人、人の痛みが分かる人、人に譲歩できる人、人の笑顔が描ける人、歳をとってからの行動指針が持てる人等の事を指していると思います。その結果は、必ず自分自身に跳ね返ってくると信じています。

情報スクエア



第6回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
大田区立大森第六中学校長

税所 要章

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の授業で身につけた技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下の通りである。

1. 主催 東京都中学校技術・家庭科研究会
2. 後援 東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会
毎日新聞社
3. 日時 平成20年11月15日(土)
平成20年11月22日(土) 食部門
4. 開催場所 足立区立千寿桜堤中学校
女子栄養大学(食部門)
5. 対象者 都内中学校に通学する中学生
6. 内容
 - ①全国中学生創造アイデアロボットコンテスト 東京地区予選
 - ②ものづくり競技大会「木工の技」チャンピオン東京地区予選
 - ③ものづくり競技大会「とっておきのアイデアハーフパンツ」東京地区予選
 - ④ものづくり競技大会「あなたのためのお弁当」コンクール東京地区予選
 - ⑤生徒作品コンクール東京地区予選
 - ⑥東京都ロボットコンテスト
 - ⑦東京都ホームソーイングチャンピオン

7. 開催へ向けて

今年度は、新潟県で開催される関東甲信越大会が1週間早まり11月30日になったことにより例年より1週間早い実施となった。その関係で食部門と同一日での実施とならなかったが、両会場を参観できるという利点はあった。

工業高校との連携については様々な連携の方法を模索してきたが、工業高校を紹介するコーナーを設けることができたことは、一歩前進できたと捉えている。

開催のためのスタッフは、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部員を中心に千寿桜堤中学校会場で35名、女子栄養大会会場で27名の体制で準備を進めた。

8. 開催結果

参加生徒は毎年増加し、本年度は1,311名であった。その内訳については次の通りである。

<関東甲信越大会に向けての予選部門>

木工工具を正しく使用し寸法通り正確に作品を製作する「木工の技チャンピオン」は32名、「創造アイデアロボットコンテスト」のモータ4個まで使用し小型ロボット1対1による競技A-1部門は72チーム77名、モータ3個まで使用する小型ロボットによる2対2による競技A-2部門は52チーム115名、大型ロボット1対1による競技B部門は8チーム31名、ダンスや作業等のパフォー

マンスをビデオで紹介する C-1 部門とオリジナル競技をビデオで紹介する C-2 部門は参加なし、「あなたのためのお弁当コンクール」は応募が 264 チーム 721 名ありレポートと写真の審査により当日の参加は 20 チーム、「とっておきのアイディア ハーフパンツ」部門は参加者なし、「生徒作品コンクール」は社団法人全国中学校産業教育教材振興会へ作品の写真レポートを送って審査を受ける方式で行い 17 校 206 点の応募があった。

＜東京都独自のコンテスト＞

このコンテストとして実施したロボットコンテストは、製作の簡単なロボットによる取り組みである。2 足ロボットによるスタートからゴールまで 1.2m の距離をどれだけ速く通過できるかを競う「スプリンター」部門に 10 名、重量別に 2 足歩行ロボット同士が格闘競技を行う「K-1」部門はライト級 46 名、ヘビー級 69 名参加、迷路をスタートからゴールまでどれだけ速く通過できるかを競う「スラローム」部門には 4 名が参加した。

同じく東京都の取り組みとして基礎縫いやボタン付け等の課題をクリアーして、素敵なソーイング作品（エプロン）の製作をする「ホームソーイングチャンピオン」部門には参加がなかった。



ものづくり競技大会「木工の技」チャンピオン
東京地区予選

9. 成果と課題

食部門が設けられ 4 年目を迎え定着し、中学校技術・家庭科で指導している内容をほぼ網羅する

ことができた。千寿桜堤中学校会場では参加生徒が多いため、午前と午後に分けて実施した。特に東京都独自のロボットコンテストは、製作も容易でコートの準備も簡便なため人気があり参加者が急増している。新しい学習指導要領の中でも十分に対応できる内容である。

また、このフェアが着実に浸透し、東京都の中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関等の本教科に対する認識を深め、教科としての発展に大きく寄与することができたと確信する。本年度は、東京都教育委員会をはじめ、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会、毎日新聞社から表彰状を出していただいたことも、フェアの盛り上がりにつながった。

課題としては、ロボットコンテスト、お弁当コンクールに比べ、被服部門の参加者がいないため、参加を喚起していく必要がある。工業高校との連携は、キャリア教育の視点からも重要であると考えている。今年度は、工業高校紹介コーナーで 10 校が学校紹介のパネル・ポスター展示及びパンフレットの配布を行った。来年度はさらに連携を深めていきたいと検討している。



第18回 全国産業教育フェア（さんフェア）大阪大会

キャッチフレーズ 「きらめく瞬間 なにわに未来の風が吹く」

はじめに

今年度の「さんフェア」は、11月2日(日)、3日(祝)の両日にわたり、大阪府アジア太平洋トレードセンターをメイン会場に開催されました。まず、総合開会式の開始に当たり、オープニングアトラクションとして大阪府立淀川工科高等学校吹奏楽部による記念演奏が行われた後、府内の専門高校生らによる司会進行のもと、華やかに式典が挙行されました。

初日の総合開会式の後に行われた建築家の安藤忠雄氏の記念講演は、ご自分がこれまでに手がけた建物を例に、その考え方を示しながら、会場にいた多くの高校生に向けて将来の生き方を示した内容でした。また、第2部の「講師と生徒によるトークショー(写真)」と合わせて楽しいひと時でした。

記念講演

第一日目(11/2)13:00～15:00

テーマ:「夢と勇気、そして挑戦」

講師:安藤 忠雄(建築家)

<講師プロフィール>

1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、69年の安藤忠雄建築研究所を設立。代表作に「大阪府立近つ飛鳥博物館」「サントリーミュージアム」「光の教会」「淡路夢舞台」「地中美術館」など。93年日本芸術院賞、02年京都賞、03年文化功労者に選ばれるなど多数受賞。イエーン、コロンビア、ハーバード大学の客員教授歴任。現在、東京大学特別名誉教授。著書に「建築を語る」「連戦連敗」など。

<高校生に対するメッセージ>

- 子供のとき、育ててもらったおばあさんから教わったことは「約束を守ること」と「責任感のある人になれ」の二つである。
- 小泉八雲が、「日本は家庭の教育がいい、家庭・地域がいい、親に対する愛情や家族に対する愛情がある、日本人は素晴らしい民族である。」と言っている。命があるものに対する愛情、これだけはしっかりと覚えてほしい。
- 日本人の特典は、「忍耐力」と「協調性」である。
- 責任をもって父母(親)の生活を守る(支える)ことが、今の若者にはそれが無い。

- 高校時代の建築の技術で十分役立つ。
- 50歳のとき、東京大学から教授の依頼があったが、建築しかできない者がそこに行ってもしょうがないと言って、周りの人たちは反対した。しかし、自分としては、学生と一緒に頑張って勉強するつもりで引き受けた。
- 今は高校生(若者)に対し、個人の責任を教えない。
- 工業高校には夢がある、可能性がある。夢は大きい方がいい。夢と希望と可能性を抱いて生きよ。
- 自分の好きなものを見つけてほしい。
- 自分の技術が、社会に対し、何を提供するかを考えよ。
- 家族にとって家とは何か。子どもは将来を支える人である。

おわりに

講演のなかで、可能性(タマゴ)を抱いた建物「イナモリホール」のことや、初期の代表作である「住吉の長屋」について語り、建築というものは表現であり、人の心にどう訴えかけるかを考えれば、サイズは問題ではなく、小さくても十分に夢が描けること。さらに大型プロジェクトが続く中で、住宅も作り続け、後十年は仕事が続けられると考えると、「住吉の長屋」のサイズ(初心の頃)に戻していければいい、と語る講師の姿からは、常に青年のような心をもった偉大な建築家であることを強く感じました。(事務局 三上)



第2部 「講師と生徒によるトークショー」

第50回 全国産業教育振興大会

開催日 第一日目(11/2) 15:00～17:00

会場 アジア太平洋トレードセンター
コンベンションルーム 1

開会に当たり、(財)産業教育振興中央会理事長の浦野光人氏より、「生徒の職業意識、社会を見る目が希薄になってきている。このことから高校段階における専門(産業)教育の推進が求められているが、政界・財界は目先のことしか考えていなく、中・長期的な展望や進むべき方向が語られていない。産業教育においても、中・長期的な見方が大事である。」という主旨の挨拶がありました。

来賓として、文部科学省の齊藤尚樹参事官がお見えになり、高等学校学習指導要領の改訂に当たっての「産業教育の基本方針」として、次の3点があげられました。

- ①将来のスペシャリストの育成…基礎・基本的な技術・技能の取得
- ②将来の地域産業を担う人材の育成
- ③人間性豊かな職業人の育成

最後に、全国産業教育振興会連絡協議会理事長の西澤宏繁氏の司会のもとで、次のような大会決議文が協議され、満場一致で採択されました。

<決議文>

専門高校は、確固として勤労観・職業観を身に付け、知識・技術・技能を備えた時代を担うスペシャリスト(専門的職業人)の育成を通して、我が国の産業・経済、地域社会の発展に大きな役割を果たしてきた。

近年の少子化にともなう高等学校の再編整備が進む中、専門高校を取り巻く状況は、規模の縮小、学科改編等厳しいものがあるが、経済・就業構造の変化や団塊世代の退職等に対応し、地域産業や地域社会を支える人材の輩出をはじめ専門高校に対する期待がますます高くなっている。

全国産業教育振興連絡協議会は、第18回全国産業教育フェア大阪大会にあわせて、ここに、第50回全国産業教育振興大会を開催し、教育界と産業界が、連携協力を一層強化し、我が国の産業経済、地域社会を担う有為な人材の育成を図るため、全力を傾注することを決意するとともに、特に次の事項の実現に向け努力し、関係各方面に強く働きかけることを表明する。

国・地方公共団体に対しては、改定「教育基本法」や「教育振興基本計画」等を踏まえ、我が国の基盤づくりの充実のため、専門高校の一層の振興に向け、格段のご理解・ご支援を期待する。

- 一、専門高校の専門性の基礎・基本を重視し、先端的、伝統的な知識、技術・技能の習得を図るとともに、コミュニケーション能力の向上など、教育の充実を図る。
- 一、教育内容の改善等に対応した専門高校教職員定数の一層の改善、研修機会の確保及び産業教育担当の教員養成の充実を図る。
- 一、専門高校の学習指導の向上のため、高度化・情報化等に対応する施設・設備の一層の整備充実を図る。
- 一、教育界と産業界との連携協力によるインターンシップ(就業体験等)などキャリア教育を積極的に推進し、教育研究機関等との連携体制を促進するとともに、専門高校卒業生の就職枠の確保・拡大を図る。
- 一、大学等進学希望者のための入学枠及び専攻科(2年課程)修了者(国家資格取得者等)の高等教育機関への編入学や、専門士等の称号付与の制度化(弾力的運用を含む)を図る。
- 一、一般社会や中学校等への産業教育の幅広い理解・啓発及び専門高校生学習成果発表の場となる全国産業教育フェアの推進充実を図る。

以上決議する。

平成20年11月2日

第50回全国産業教育振興大会(大阪大会)



「さんフェア」に展示された生徒作品

報 告

平成 20 年度 東京都産業教育振興会 総 会

平成 20 年度の総会は、6 月 10 日(火)に都立工芸高等学校の視聴覚室で開催されました。来賓として、(財)産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立高等学校長協会会長(都立晴海総合高等学校長)の齊藤光一様、東京都中学校長会副会長(江戸川区立小松川第一中学校長)の宇佐見博子様をお迎えしました。

開会にあたり、西澤会長から「教育というのは、どういう環境のもとでもしっかりとやっていく必要があります、特に産業教育は、社会情勢の変化に合わせて色々な工夫をしていかなければなりません。いかに日本の産業力を発展させていくか、より次元の高い、かつ難しい局面を迎えています。今年度も、このことを十分認識し、諸事業の推進に取り組んでまいりたいと思います。」との挨拶がありました。

続いて、常任理事の新井都立学校教育部長(当時)、来賓の方々からご挨拶をいただきました。

議事に入り、まず報告事項として、以下の 3 件について報告がありました。

- 平成 20 年度 会長、副会長の選任結果
- 平成 20 年度 理事長、常任理事、常任監事
- 産業界会員功労者(永年会員)の表彰

続いて、以下の議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案のとおり承認されました。

- 第 1 号議案 会則の改正(案)
- 第 2 号議案① 平成 19 年度事業報告(案)
- 第 2 号議案② 平成 19 年度決算書(案)
- 第 2 号議案③ 平成 19 年度監査報告
- 第 3 号議案 平成 20 年度役員選任(案)
- 第 4 号議案① 平成 20 年度事業計画(案)
- 第 4 号議案② 平成 20 年度予算(案)

なお、東京都の 7 月 1 日付人事異動により、中村

正彦理事長から大原正行理事長に、同 16 日付人事異動により、新井清博常任理事から森口純常任理事に代わりました。

協議終了後、報告事項のとおり、産業界会員功労者(永年会員)に対する表彰が行われました。

この表彰は、永年にわたり、本会の会員として産業教育の振興に尽力され、かつ本会の発展に貢献されたことに対し、感謝の意を表すために行っているものです。表彰は、昭和 63 年度から実施しており、産業界(企業)会員として入会した年度より数えて 10 年を経過した企業を対象としています。

今回表彰された企業は次の 5 社で、西澤会長から感謝状と記念品が贈呈されました。

- 1 TDO グラフィックス株式会社
(1998 年 3 月 9 日入会)
- 2 株式会社日刊工業新聞社
(1998 年 9 月 18 日入会)
- 3 株式会社建築資料研究社
(1998 年 10 月 23 日入会)
- 4 東京スマイル農業協同組合
(1998 年 10 月 28 日入会)
- 5 日野自動車株式会社
(1998 年 11 月 5 日入会)



産業界会員功労者の表彰

平成 20 年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成 20 年度（財）産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科功労者」に対する表彰式を平成 20 年 11 月 27 日に都庁第二本庁舎 31 階の特別会議室で行いました。

表彰式では、西澤会長から功労者一人ひとりに表彰状と記念品が手渡されました。会長の祝辞に続いて東京都教育委員会を代表して牛来峯聡教育庁指導部主任指導主事から祝辞がありました。続いて（財）産業教育振興中央会中山淑廣専務理事、東京都公立高等学校長協会を代表して東京都立芝商業高等学校本多吉則校長、東京都中学校長会を代表して副会長の調布市立神代中学校 菊山直幸校長の三名のご来賓の方からご祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して大田区立大森第六中学校 税所要章校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、御下賜金記念産業教育功労者 11 名、中学校技術・家庭科功労者 9 名でした。受賞者は次の方々です。

I 御下賜金記念産業教育功労者

（敬称略・順不同）

東京都立青梅総合高等学校	専修実習助手	高野 晴 夫
東京都立中野工業高等学校	主幹教諭	橋本 利 勝
東京都立中野工業高等学校	教 諭	尾花 英 明
東京都立蔵前工業高等学校	教 諭	安藤 博
東京都立墨田工業高等学校	校 長	野上 明 夫
東京都立墨田工業高等学校	教 諭	宮田 和 穂
東京都立町田高等学校	教 諭	小川 クミ子
昭和第一学園高等学校	教 頭	三宅 慎太郎
安田学園高等学校	教 諭	舘澤 博 明
安田学園高等学校	教 諭	木村 良 男
安田学園高等学校	教 諭	井上 誠
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	邊見 信 夫
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	朝比奈 奎 一
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	岡川 啓 悟
東京都立産業技術高等専門学校	教 授	伊藤 周 三

II 中学校技術・家庭科教育功労者

（敬称略・順不同）

文京区立第六中学校	校 長	高澤 秀 敏
文京区立文林中学校	校 長	渡邊 尚 美
墨田区立墨田中学校	校 長	松本 憲 一
墨田区立文花中学校	校 長	渡部 昭

大田区立大森第六中学校	校 長	税 所 要 章
大田区立石川台中学校	副 校 長	長 崎 清 行
足立区立千寿桜堤中学校	校 長	高 橋 和 夫
葛飾区立本田中学校	教 諭	山 内 康
江戸川区立二之江中学校	校 長	山 本 勉
調布市立神代中学校	教 諭	唐 木 洋 子
東大和市立第三中学校	教 諭	木 村 正 幸



平成 20 年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の事業に対し後援を行った。

	対 象 事 業	開催期間	実 施 場 所	参加者数
1	平成 20 年度第 32 回関東地区情報技術教育研究会総会並びに研究協議会	6 月 17 日	きゅりあん (品川区立総合区民会館)	80
2	第 24 回葛飾区産業フェア ○工業・商業・観光展 ○農業・伝統産業展	10 月 17 日～19 日 10 月 24 日～26 日	テクノプラザかつしか 城東地域中小企業振興センター テクノプラザかつしか	延べ 7,900
3	第 55 回全国高等学校珠算競技大会	8 月 2 日	都立荒川商業高等学校	350
4	第 59 回関東地区学校農業クラブ連盟大会	8 月 21 日～22 日	府中の森芸術劇場	1,200
5	第 6 回創造ものづくりフェア in TOKYO	11 月 15、22 日	足立区立千寿桜堤中学校 女子栄養大学	1,311
6	第 15 回 東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会	11 月 24 日	東京都教職員研修センター	129

平成20年度「作文コンクール」入賞者

今年度の応募者は、中学校の部が151名、高等学校の部が112名、専修学校等の部が19名で、総数282名の応募がありました。例年に比べ、高校生の応募が大幅に増えた反面、中学生の応募が少なく、また今年度から高等学校・専修学校等の部に高専・短大を応募対象に加えましたが、事前のPR不足のため、残念ながら応募がありませんでした。

一次選考の結果を踏まえ、二次選考は高等学校・専修学校等の部が10月30日（木）、中学校の部が11月4日（火）に行われ、厳正な審査の結果、最優秀賞3名、優秀賞6名、佳作53名の計62名が入賞されました。

入賞者に対する表彰式は、12月22日（月）に選考委員及び本会役員等の出席を得て、都民ホールにおいて盛大に行われました。

中学校の部

最優秀賞	ものづくりから学んだこと	大田区立東蒲中学校	3年	今井 藍
優秀賞	全て必要な仕事	大田区立馬込中学校	3年	岩 森 咲 季
優秀賞	職場体験で学んだこと	墨田区立両国中学校	3年	黒 川 歩 唯
佳 作	動物への愛情	新宿区立落合中学校	2年	那 須 凛
佳 作	笑顔の力	新宿区立落合中学校	2年	松 澤 花 野
佳 作	感謝	新宿区立落合中学校	2年	和 田 典 子
佳 作	[ありがとう]の輪	文京区立第八中学校	1年	清 水 蒼空子
佳 作	ありがとう	文京区立第八中学校	1年	古 川 小百合
佳 作	「言葉」「交流」「温かさ」	文京区立第八中学校	2年	池 亀 桃 子
佳 作	包むもの・包まれるもの	文京区立第八中学校	2年	本 松 倫太郎
佳 作	私の職業観	墨田区立両国中学校	2年	鈴 木 ひと美
佳 作	職人魂	品川区立小中一貫校日野学園	7年	小 金 真沙一
佳 作	私が大人の人から学んだこと	大田区立馬込中学校	3年	河 野 春 花
佳 作	一番大切なこと	大田区立馬込中学校	3年	鈴木ナオミアイリス
佳 作	園児たちから学んだこと	大田区立馬込中学校	3年	豊 田 眞 己
佳 作	仕事を通して学んだこと	大田区立馬込中学校	3年	中 村 朱 里
佳 作	現場に立って初めて知る	大田区立馬込中学校	3年	長 倉 香 菜
佳 作	職場体験を通して学んだこと	大田区立馬込中学校	3年	脇 萌 実
佳 作	先生と子ども達から学んだこと	練馬区立中村中学校	2年	喜 名 早智子
佳 作	夢を現実に	練馬区立北町中学校	3年	根 津 友 美
佳 作	物作りのススメ	葛飾区立立石中学校	3年	佐々木 博 弥
佳 作	宝物の日々	江戸川区立二之江中学校	3年	住 吉 美 穂
佳 作	感謝の気持ちを忘れずに	江戸川区立二之江中学校	3年	野 中 彩 希
佳 作	働くということ	江戸川区立二之江中学校	3年	横 山 遥 花
佳 作	家庭科について	江戸川区立瑞江中学校	3年	仁 平 美沙紀

佳 作	職場体験で学んだこと	江戸川区立鹿骨中学校	3年	長谷川	椋
佳 作	一枚の青い布	江戸川区立篠崎中学校	3年	田 島	有 希
佳 作	将来の夢	調布市立第六中学校	3年	木 村	汐 里

高等学校の部

最優秀賞	酪農体験を通して得たこと	都立農産高等学校	3年	原 田	千 絵
優 秀 賞	閉校となる定時制高校で培ったもの	都立王子工業高等学校	4年	有 賀	伸 一
優 秀 賞	夢から目標へ	都立忍岡高等学校	3年	萩 原	美 保
優 秀 賞	サービスに求められるもの	岩倉高等学校	3年	城 本	猛
佳 作	将来の夢	都立農産高等学校	2年	佐 藤	久 雄
佳 作	酪農体験を通して	都立農産高等学校	2年	鈴 木	晴 香
佳 作	「物を食べる」ということ	都立農産高等学校	3年	齊 藤	祐 衣
佳 作	50年後の三宅島	都立農産高等学校	2年	萩 原	有 翔
佳 作	インターンシップで学んだこと	都立葛西工業高等学校	2年	千 葉	大可歩
佳 作	インターンシップで学んだこと	都立工芸高等学校	2年	谷 澤	小 春
佳 作	ここに技ありーインターンシップに参加してー	都立墨田工業高等学校	2年	水 越	達 也
佳 作	人との、学び得たもの	都立中野工業高等学校	3年	龍 原	慶
佳 作	科学技術者になるための教科	都立科学技術高等学校	1年	三 池	勝
佳 作	商業高校での学び	都立江東商業高等学校	3年	高 橋	知 子
佳 作	「つくる」ことの喜び	都立忍岡高等学校	3年	土 屋	栞
佳 作	物作り	都立忍岡高等学校	3年	六 鎗	瞳
佳 作	ボランティアをして分かった事、感じた事	都立橋高等学校	1年	滝 澤	千枝里
佳 作	働くことの喜び	都立橋高等学校	1年	筑 木	智 文
佳 作	インターンシップから学んだこと	都立橋高等学校	2年	渡 邊	雄 次
佳 作	私の可能性	都立若葉総合高等学校	2年	伊 藤	未 紅
佳 作	夢	愛国高等学校	3年	齊 藤	夕 貴
佳 作	看護実習	愛国高等学校	3年	榮	毬 那
佳 作	病院実習を行って	愛国高等学校	3年	鈴 木	さや華
佳 作	高校生活と進路	岩倉高等学校	3年	鈴 木	祐 介
佳 作	私の職業観	国際理容美容専門学校	1年	庄 司	有 佐
佳 作	障害者と健常者をつなぐかけ橋として	村田女子高等学校	3年	河 原	恵里子
佳 作	女性としての社会進出	村田女子高等学校	3年	佐 藤	真菜美
佳 作	自分の誇れるもの	安田学園高等学校	2年	菊 地	秀 人
佳 作	建築科で学べること	安田学園高等学校	2年	藤 田	康 平

専修学校等の部

最優秀賞	学べる喜び	青山製図専門学校	2年	小 林	祐 斗
優 秀 賞	学校というものにおける考え	青山製図専門学校	2年	杉 原	一 宏
佳 作	私の職業観	国際観光専門学校	2年	平 石	美穂子
佳 作	仕事とは	ホスピタリティ ツーリズム専門学校	2年	黒 須	智 美
佳 作	私が社会に貢献できること	ホスピタリティ ツーリズム専門学校	2年	冨 岡	愛 梨

作文コンクール最優秀作文

ものづくりから学んだこと

大田区立東蒲中学校 3年 今井 藍

私は、昨年の夏休みに、大田区主催の『ものづくり実技講習会』に参加しました。そこでは、ミシンを使った小物作り製作を行うことができ、私はミシン縫いが苦手だったから、この実技講習会を通して、ミシン操作が上手くなれたらいいなと思い、軽い気持ちで参加しました。

実際に実技講習会に参加してみると、大田区の家家庭科の先生方が、すごく丁寧に教えて下さり、軽い気持ちでやってはだめだと思いました。これは、真剣にやらなくてはと思い、一つ一つの説明やアドバイスを頭に叩き込みながら作業をしました。初めて使ったロックミシン、チャコペーパーやルレットを使っての印つけなど、いろんな作業がすごく楽しかったです。そして、私は、この講習会に参加したことで、冬に行われる大田区の『ものづくり学習フォーラム』の競技会（ソーイング部門）への出場を決意しました。苦手なことでも何度も挑戦すれば、必ずできるようになると感じたからです。

二学期からは、ものづくり競技会に向けて準備をはじめました。今年の競技会の製作内容は“シューズ袋”でした。まず、デザインを考えました。妹のために上履き袋を作ろうと思っていたので、妹が気に入るデザインをたくさん考えてみました。でも、なかなか納得できるデザインがみつかりませんでした。家の中にあった絵本がきっかけで、デザインが浮かび上がってきました。青虫の頭と胴体を花のコサージュで縫いつけるデザインです。あと、ひと工夫ほしいなと思い、流行っていたエコバックにヒントをもらい、小さくコンパクトに折りたためる形にしようと思いました。そのために、ポケットを付け、そのポケットをひっくり返し、そこへ小さく折りたためるような形にしようと考えました。使ってもらう人に気に入ってもらえるようなデザインを考えるのも大切だと思いました。

早速、型紙を作り、裁断をして縫ってみました。いざ、作ってみるといろいろと問題が出てきました。ポケットが小さすぎて折りたたみ込むことができなかったり、折りたたむと裏返しになったポケットの縫い代がみえたりと、作ってみたいとわからなかったことがたくさんありました。問題点を先生や母と一緒に直していき、完成することができました。何回も作っていくうちに、だんだんコツをつかんできました。

競技会当日、とても不安でした。失敗しないだろうか、時間内にうまく仕上げることができるだろうかと心配でした。でも、そんなことを言っている場合ではありませんでした。審査員の先生方がたくさんいて、一つ一つの作業工程をチェックされていたので真剣にやりました。間違えないように、丁寧に……。練習したかいがあり、裁断もミシン縫いもうまくできました。途中で、別布で作った青虫のパーツ（花のコサージュ）の糸がとれてしまったり、フックの位置がずれたりしました。でも、周りの先生方が「落ち着いて」と、声をかけてくださいました。それで、少し焦りすぎたかなと思い、ゆっくりやりました。約4時間に及ぶ競技会でしたが、終了5分前に作り終わり、ホッとしました。今まで作ったシューズ袋の中で一番うまく作ることができ、嬉しかったです。

け空なのです。一緒に仕事をしていた子に聞いてみると、「死んじゃったらしいの。」と返ってきました。その牛は、子牛の中でも一番私に懐いていて、とても可愛がっていた牛でした。その時、私はとても悲しくて必死に涙を我慢して仕事をしました。夜寝る前に、おばさんに聞いてみると、その子牛は生まれつき体が弱く、風邪をこじらせて死んでしまったといいます。私が切ない顔をしていると、おばさんは「強いものが生き残る世界だからね。」とだけ私に言いました。次の日もぽっかり空いた小屋を見るのがとても辛かったです。

そんな私の励みとなったのが、牛の出産、新しい生命の誕生でした。牛の出産に立ち合うのは初めての経験です。この時、私は家の中で休憩中でした。その家の中まで母牛の聞いたことのない鳴き声が聞こえてきたのです。私は急いで牛舎へ行きました。すると、すでに子牛の前足が出ています。今までテレビで見たことはあっても実際に見るのは初めてなので、とても衝撃的でした。そのあとも母牛は立ったり、座ったりを繰り返し、30分程かけて子牛が生まれました。羊膜をかぶっていた子牛の体を母牛は一生懸命なめていました。誰かからお産の方法を教わったわけではないのに、母牛は子牛を産みしっかりと世話をするのです。その光景に言葉にならない感動を受けました。これが命の繰り返し、営みというものなのだと感じました。しかし、その生まれた子牛はオスだったので、1～2週間もすれば別の農家に引き取られていくといいます。人間で考えたら、お腹を痛めて産んだ子どもを周りの都合で引き離されていくわけです。私は胸が締め付けられる思いになりました。でも、それが家畜であり、それを生産することが酪農家なのだと分かりました。

そして酪農体験を通して得た大きなことは、曖昧だった進路について決心することができたということです。畜産の知識や酪農家の心構えなどを学べる大学に行きたいという明確な目的ができました。牛を愛玩動物と同じように見ていた、扱っていた私にとって、酪農家になることは簡単なことではありません。実際に体験した牛の死より、もっと残酷なことも待ち構えているのかもしれない。そして、今、酪農家は減少傾向にあります。それに伴い、餌や牛乳、バターなどの畜産物の高騰が騒がれています。それでも私は自分自身で食料を生産し、命の繰り返し、その営みに近くで触れていたいと思ったのです。そして私のような食べ物に無頓着な人達に、命の上に成り立つ生産活動とその重みを少しでも伝えることができたと思います。食料のありがたみにも触れることができる、こんな素晴らしい職業はないと思います。夢を叶えるために、これからもたくさんのことにチャレンジしていきたいです。

学べる喜び

青山製図専門学校 CAD 設計製図科 2年 小林 祐斗

私は青山製図専門学校に通う以前、リフォーム会社に勤めていました。入社当初は仕事内容が全く理解できず、いつも思い悩んでばかりいました。

しかし、次第に仕事にも慣れはじめ、元請先の方に私の発案したプロジェクト案が認められた時には、今まで諦めずに粘り強くやって良かったと心から感じました。担当していた業務は大半一人で行動することが多かったので、会社内の上司や仲間と連携を図りながら、社員同士の信頼関係を築いてきました。

妥協せず、粘り強く最後までやり抜く力と強い精神力を身に付け、それと共に仲間の大切さも実感しました。

入社し2年経ったある日、会社でCADを操作している光景を目にし、実際に触れてみると、みるみるうちに虜になっていました。その時の会社の上司に「CADを本気で勉強したいなら学校に行くことを勧めるよ。」と言われ、初めは冗談半分で聞き流していたのですが、ある日CADを学べる学校を調べていると、CADにも沢山の種類・ソフトがあり、CADの奥深さを実感しました。そして私なりに考えた結果、勤めていた会社を退社し、それと同時に青山製図専門学校のCAD設計製図科への進学を決めました。

しかし、学費は安いとは言えず、両親にも大変迷惑をかけてしまいました。私の貯金額ではとても賄える額ではなかったので、両親にお金を借りてなんとか入学を認めてもらったのです。その時に私の父親は「学校へ行きたいなら行け。ただ、中途半端は絶対許さないからな。お金の面は心配するな。おれがちょっと酒を控えればいい。」と言ってくれました。今でも忘れられない言葉です。うちの家庭は裕福とは言えず、経済的にも厳しい家庭でした。それなのにこのような言葉をかけてくれて、私はとても嬉しく、一心不乱に勉強に打ち込むことを強く決心しました。

入学してみると、勉強から遠ざかっていたためか、とてもペンが重く感じられ、ノートを取るのにも一苦労でした。私は高校生まで勉強が大嫌いで成績も悪く、専門学校の授業についていけるのかという不安な気持ちもありました。

ところが会社を辞めてまで進学を決意した気持ちは大きく、勉強に対するモチベーションの高さに自分自身驚きでした。授業で学ぶことがスラスラ頭の中に入っていくのが分かりました。テストでの結果も良く、今までの学生生活では考えられないくらい、私自身の成長に両親までも驚いていました。共に学んでいるクラスの皆は私より年下なのに、自分なりのビジョンがしっかりとできていて、勉強に対する意識も高く、仲間にも恵まれ、良い環境の中で楽しく勉強しています。

私が所属しているCAD設計製図科は、建築CADと機械CADの両方を学べ、就職率も高く、将来は幅広い分野で活躍することができます。

しかしその分課題が多く、常に提出期限に追われる日々です。先生方の教え方も上手くユーモア溢れる方々ばかりで、毎日楽しく授業を受けさせてもらっています。1年次の集大成となる青山制作展に向けての作品作りでは、毎日『三時間睡眠』と、かなりハードでしたが、完成し終えたときの達成感は最高に心地よく、今でも忘れられません。

2年生になり就職活動が始まり、私は機械分野を希望していました。学校の求人票やインターネットで色々企業を調べ、結果、機械設計の会社に内定が決まりました。その会社は事業内容・業務内容共に私の希望通りで、豊富な研修と社長の持っているビジョンに共感したことが志望の決め手となりました。

現在は、各授業で出される課題に追われながらも、楽しく日々を送っています。私は今までの学校生活を通して、知識・技術は勿論のこと、仲間の大切さ、どんなに大きい壁にぶち当たっても諦めずにやり抜く忍耐力と精神力を身に付けました。

私は会社員時代に学んだ「自ら機会(CHANCE)に飛び込み、挑戦(CHALLENGE)することで自らを変化・向上(CHANGE)させる」3Cを常に意識しながら、自分自身のやりたい事・出来る事を追求してきました。今後は残りの学校生活を一生懸命やり抜く事、そして卒業し新社会人として精一杯仕事に取り組み挑戦することで、不可能も可能にできると確信し、努力し続けていきたいと思います。

平成20年度「作文コンクール」応募校一覧

<中学校の部>

受付順	区市町村名	学校名	応募者数	トータル数
1	練馬区立	北町中学校	3	3
2	練馬区立	中村中学校	2	5
3	練馬区立	関中学校	1	6
4	江戸川区立	二之江中学校	10	16
5	墨田区立	吾孀第一中学校	1	17
6	練馬区立	石神井西中学校	1	18
7	港区立	六本木中学校	2	20
8	文京区立	第六中学校	1	21
9	練馬区立	光が丘第一中学校	1	22
10	大田区立	南六郷中学校	1	23
11	葛飾区立	綾瀬中学校	1	24
12	新宿区立	落合中学校	10	34
13	大田区立	馬込中学校	9	43
14	大田区立	大森東中学校	9	52
15	江戸川区立	鹿骨中学校	9	61
16	江戸川区立	松江第四中学校	1	62
17	足立区立	竹の塚中学校	7	69
18	品川区立	伊藤学園	1	70
19	私立	愛国学園中学校	8	78
20	文京区立	第八中学校	10	88
21	世田谷区立	砧中学校	5	93
22	目黒区立	第三中学校	2	95
23	墨田区立	両国中学校	6	101
24	江戸川区立	瑞江中学校	3	104
25	新宿区立	牛込第二中学校	2	106
26	葛飾区立	新宿中学校	4	110
27	大田区立	東蒲中学校	1	111
28	江戸川区立	篠崎中学校	1	112
29	板橋区立	赤塚第一中学校	1	113
30	目黒区立	第八中学校	9	122
31	大田区立	御園中学校	1	123
32	中央区立	晴海中学校	1	124
33	調布市立	第六中学校	1	126
34	練馬区立	谷原中学校	4	131
35	品川区立	日野学園	9	140
36	葛飾区立	立石中学校	10	150
37	新宿区立	落合第二中学校	1	151

<高等学校の部>

受付順	学校名	応募者数	トータル数
1	都立忍岡高校	6	6
2	都立赤羽商業高校	4	10
3	都立墨田工業高校	1	11
4	都立園芸高校	10	21
5	私立岩倉高校	8	29
6	都立蔵前工業高校	1	30
7	都立北豊島工高・定	1	31
8	都立練馬工業高校	1	32
9	都立青梅総合・定	1	33
10	都立瑞穂農芸高校	4	37
11	都立農産高校・全	6	43
12	都立江東商業高校	10	44
13	都立若葉総合高校	5	58
14	私立村田女子高校	8	59
15	私立愛国高校	4	70
16	国際理容美容専門学校	10	80
17	都立工芸高校	2	82
18	私立安田学園高校	10	92
19	都立科学技術高校	3	95
20	都立葛西工業高校	1	96
21	都立橋高校	7	103
22	私立蒲田女子高校	6	109
23	都立中野工業高校	1	110
24	都立王子工高・定	1	111
25	都立農産高校・定	1	112

<専修学校等の部>

受付順	学校名	応募者数	トータル数
1	国際観光専門学校	1	1
2	ホスピタリティ・ツーリズム専門学校	6	7
3	青山製図専門学校	2	9
4	東京エアトラベル・ホテル専門学校	10	19

《参考》

図1 過去3年間の応募状況

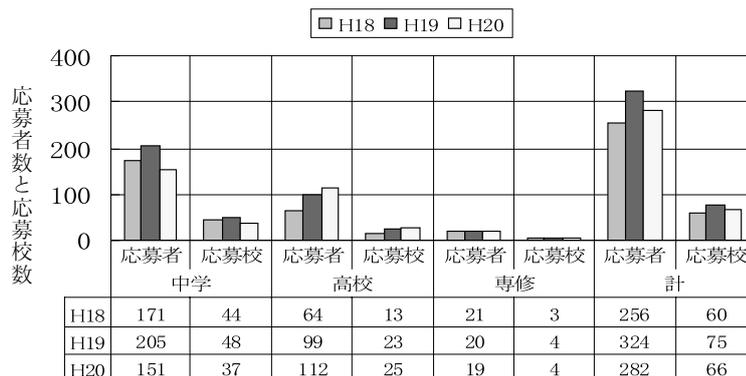


図2 応募者の男女比較

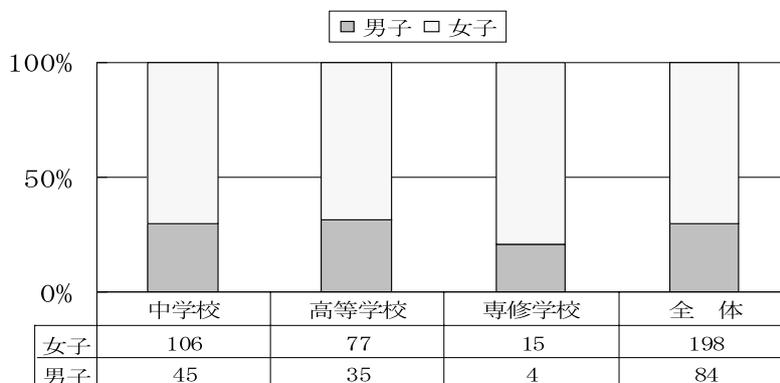


図3 テーマ別の応募者数（中学校の部）

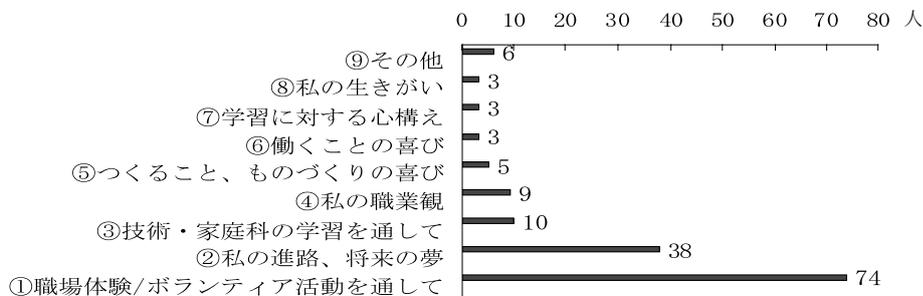
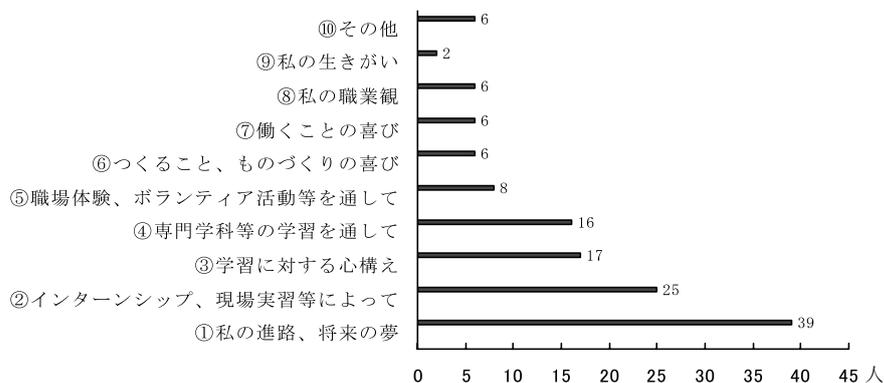


図4 テーマ別の応募者数（高校・専修学校等の部）



本会の概要

平成20年度 事業経過報告

(2月20日現在)

1 理事会

5月22日(木)午後3時から、都庁第一本庁舎 特別会議室 N1 で開催

2 総会・講演会

6月10日(火)午後1時30分から、都立工芸高等学校 視聴覚室で開催

○ 講演 演題 「世界に通じる“もの”づくり」

講師 (株)成立 代表取締役会長 春田昌幸 氏

※ 総会報告は会報133号に、講演要旨は134号に掲載

3 委員会

(1) 会誌編集委員会 6月24日(火) 都庁第一本庁舎 特別会議室 S1 で開催

(2) 作文選考委員会 6月19日(木) 全体会 都庁第二本庁舎 第三会議室で開催

10月30日(木) 分科会(高校・専修) 都庁第二本庁舎 217 会議室で開催

11月4日(火) 分科会(中学校) 都庁第二本庁舎 第二会議室で開催

(3) 事業企画委員会 3月17日(火) 都庁第一本庁舎 特別会議室 N3 で開催予定

4 振興奨励事業

(1) 中学校技術・家庭科教育功労者(11名)並びに御下賜金記念産業教育功労者(15名)の表彰式を11月27日(木) 都庁第二本庁舎特別会議室 22 において挙行了。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。

(2) 産業教育関係の研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、商業、家庭、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3) 中学生、高校生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は282点であった。その中から最優秀賞3名(中学校1名、高校1名、専修学校1名)、優秀賞6名(中学校2名、高校3名、専修学校1名)、佳作53名(中学25名、高校25名、専修学校3名)の入賞者を決定し、12月22日(月)に都民ホールにおいて表彰式を行い、賞状と賞品を授与した。また、入賞を逸した応募者全員に記念品を贈呈した。

(4) 優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長並びに産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○本会会長の表彰

中学校 837名 高等学校 233名

専修学校 37名 高専・短大 18名 計 1,125名

○産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校 計 125名

(5) 産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援の名義使用を承認している。本年度は6団体、6事業に対して後援名義の使用を承認した。

5 産学交流事業

- (1) 見学・研修会：8月22日(金)花王株式会社すみだ事業場において、環境をテーマに実施した。ビデオで工場の概要、最新研究への取組について説明を受けた。ついで3班に別れ工場の施設を見学した。研修では、①花王の目指している「環境対応先進企業」の取組について 環境安全推進本部所属 柴田 学氏より ②「エコシステムの取組みについて」生活者コミュニケーションセンター部長 鈴木 哲氏より講義を受け、化粧品の製造技術、環境への取組について学んだ。参加者 77名
- (2) 産学懇談会：第1回は、10月8日(水)東京都立つばさ総合高等学校において、総合高校選択科目の授業見学・施設見学をした後、つばさ総合高校より特色ある教育活動の紹介があった。また総合学科教育について話し合った。
第2回は11月21日(金)東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスにおいて、授業見学と施設見学をした。その後、教育活動の紹介があった。最後に実践的な産業技術教育への期待・改善について、意見交換をした。

6 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」を年3回発行、第133号を7月29日、第134号を11月20日発行した。第135号は2月末発行し、会員及び関係諸機関に配布する。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第46号を2月末に発行し、会員及び関係諸機関に配布する。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第19号は入選作品62編を掲載して、2月末に発行し、会員及び関係諸機関に配布する。
- (4) 産業教育振興中央会主催の「産業実地研修会」は、毎年、夏季休業期間に関係機関、研究所及び企業等において実施されているが、本会からの参加者はなかった。
- (5) 産業教育振興中央会の実施する「産業教育改善に関する特別研究助成」には、今年度本会から工業系1名、商業系1名の採択があった。
- (6) 産業教育振興中央会における平成20年度海外産業教育事情視察には、本会から工業系1名、家庭系1名が参加した。
- (7) 第50回全国産業教育振興大会・第18回全国産業教育フェア大阪大会は11月2日～11月3日、アジア太平洋トレードセンター他6会場で開催され、本会から会長、副会長、事務局長、事務局員の4名が出席した。
- (8) 全国産業教育振興連絡会議・全国産業教育振興会連絡協議会役員総会は、5月30日東京で開催された。本会から会長、副会長が出席、その他多数の会員が出席した。
- (9) 関東地区産業教育振興連絡協議会は、11月26日(水)茨城県立図書館で開催され、本会から事務局長が出席した。
- (10) 昨年度から立ち上げた東京都産業教育振興会のホームページを月一回更新した。

7 会員の増加運動の推進

学校会員6校(都立中学校2校、都立高校1校、専修学校3校)、企業会員6社、個人会員3名が新規に加入した。

平成19年度 決算

総収入額 ¥3,648,422 総支出額 ¥3,064,014 残額 ¥584,408 (次年度へ繰越し)
 [収入の部] (単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 額	摘 要
会 費	2,678,000	2,677,790	△ 210	1 学校会員 1,593,000
				① 公私立中学校 420校 840,000
				② 都立高校 全 56校 336,000
				定 45校 135,000
				③ 私立・国立高校 全 26校 156,000
				定 2口 6,000
				④ 高専・短大 6校 36,000
				⑤ 専修学校 14校 84,000
				2 産業界会員 1,084,790
				① 会社74社 107口 1,069,790
② 個人 3名 3口 15,000				
積立金	0	0	0	
利子収入	595	1,727	1,132	預金利息 1,727
雑収入	165,000	155,000	△ 10,000	会誌広告料 145,000 過年度分 10,000
繰越金	813,905	813,905	0	前年度繰越
合 計	3,657,500	3,648,422	△ 9,078	

[支出の部] (単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 額	摘 要	
事務費	515,000	312,253	202,747		
項 目	需用費	85,000	71,471	13,529	総会資料印刷、消耗品費等
	役務費	355,000	172,982	182,018	郵券、郵便振込手数料負担、発送費等
	旅費	75,000	67,800	7,200	サンフェア沖縄
会議費	147,000	139,894	7,106	総会、理事会、各種委員会	
事業費	2,566,000	2,531,867	34,133		
項 目	振 興 奨励費	590,000	△ 26,672	(1)教育功労者表彰 120,330	
				(2)研究奨励助成 150,000	
				(3)作文表彰 308,322	
				(4)後援事業 6,000	
				(5)表彰状筆耕料 32,020	
	情 報 連絡費	1,962,000	1,911,725	50,275	(1)会報発行×3回分 317,850
					(2)会誌(45号)発行 540,225
(3)作文集(18号)発行 549,210					
産 学 交流費	14,000	3,470	10,530	(4)全産協参加費 6,000	
				(5)関産協参加費 5,000	
				(6)中央会発行「翔」購入費 2,000	
				(7)HP立上げ・管理費 491,440	
分担金	80,000	80,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	349,500	0	349,500	緊急対応	
合 計	3,657,500	3,064,014	593,486		

平成20年度 予 算

総収入額 ¥3,343,000
 総支出額 ¥3,343,000
 差引額 0

[収入の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,573,000	2,678,000	△ 105,000	1 学校関係 1,563,000 ① 公立中学校 417校 834,000 ② 都立高校 全 54校 324,000 定 41校 123,000 ③ 私立・国立高校 全 26校 156,000 定 1校 0 *納入済み ④ 高専・短大 6校 36,000 ⑤ 専修学校 15校 90,000 2 産業界関係 1,010,000 ① 企 業 67社 98口 980,000 ② 個 人 6名 6口 30,000
利子収入	592	595	△ 3	預金利息
雑収入	185,000	165,000	20,000	広告料ほか (前年度広告料2社分を含む)
繰越金	584,408	813,905	△ 229,497	前年度繰越
合 計	3,343,000	3,657,500	△ 314,500	

[支出の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
事務費	490,000	515,000	△ 25,000	
項 需用費	75,000	85,000	△ 10,000	総会資料印刷、消耗品費等
目 役務費	375,000	355,000	20,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等
旅 費	40,000	75,000	△ 35,000	全国産業教育フェア(大阪)
会議費	147,000	147,000	0	理事会、総会、各種委員会
事業費	2,425,000	2,566,000	△ 141,000	
項 振興 奨励費	780,000	590,000	190,000	① 教育功労者表彰 150,000 ② 研究奨励助成 150,000 ③ 作文表彰 240,000 ④ 永年会員表彰 60,000 ⑤ 表彰状印刷 140,000 ⑥ 表彰状筆耕料 40,000
目 情 報 連絡費	1,635,000	1,962,000	△ 327,000	① 会報発行(3回分) 342,000 ② 会誌46号発行 570,000 ③ 作文集19号発行 523,000 ④ HP更新費 189,000 ⑤ 全産協参加費 6,000 ⑥ 関産協参加費 5,000
産 学 交流費	10,000	14,000	△ 4,000	見学研修会謝礼、産学懇談会
分担金	80,000	80,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予備費	201,000	349,500	△ 148,500	緊急対応
合 計	3,343,000	3,657,500	△ 314,500	

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成20年度 東京都産業教育振興会役員 (敬称略・順不同)

会 長	(株)東京都民銀行相談役	西 澤 宏 繁
副 会 長	TDO グラフィックス(株) CEO (株)カナック企画相談役	久保村 昭 衛
	東京都立荒川商業高等学校長	金 子 昌 男
理 事 長	東京都教育委員会教育長	森 田 聖 一
常 任 理 事	東京都教育庁都立学校教育部長	大 原 正 行
	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	森 口 純
理 事	経済同友会副代表幹事・専務理事	加 藤 裕 之
	東京商工会議所常務理事・広報部長	小 島 邦 夫
	東京経営者協会事務局長	宇津井 輝 史
	信川化学工業(株)取締役社長	和 栗 安 広
	浅地事務所代表	信 川 仁 道
	(株)日刊工業新聞社代表取締役社長	浅 地 正 一
	墨田区教育委員会教育長	千 野 俊 猛
	足立区教育委員会教育長	久 保 孝 之
	武蔵野市教育委員会教育長	齋 藤 幸 枝
	大田区教育委員会学務課長	山 上 美 弘
	板橋区教育委員会新教育制度推進担当課長	清 水 耕 次
	東京誠心調理師専門学校理事長	中 島 実
	大森学園高等学校長	廣 瀬 喜久子
	岩倉高等学校長	井 上 皓 司
	安部学院高等学校長	山 田 茂 英
	京北学園白山高等学校副校長	安 部 元 彦
	東京都立瑞穂農芸高等学校長	杉 原 米 和
	東京都立蔵前工業高等学校長	宇田川 敏 昭
	東京都立工芸高等学校長	小 山 実
	東京都立芝商業高等学校長	瀧 上 文 雄
	東京都立町田高等学校長	本 多 吉 則
	東京都立杉並総合高等学校長	閔 間 征 憲
	調布市立第六中学校長	丹 藤 浩
	町田市立小山田中学校長	長 南 裕 志
	東京都教育庁指導部長	太 田 達 郎
	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	高 野 敬 三
	東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	守 屋 一 幸
理事・事務局長	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課計画担当係長	牛 来 峯 聡
常 任 監 事	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長	村 上 八寿貴
監 事	(有)飯吉製作所代表取締役	鈴 木 信 孝
監 事	大田区立東蒲中学校長	飯 吉 修一呂
		三 浦 登

東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

事業企画委員会

東京都立農業高等学校長	佐野 幹 男
東京都立杉並工業高等学校長	田 神 仁
東京都立墨田工業高等学校長	野上 明 夫
東京都立赤坂高等学校長	今橋 美 文
東京都立赤羽商業高等学校長	戸田 勝 昭
東京都立葛飾総合高等学校長	國分 達 夫
昭和第一学園高等学校長	高水 攻
豊島学院高等学校長	品川 裕
安部学院高等学校長	安部 元 彦
京北学園白山高等学校副校長	杉原 米 和
東京誠心調理師専門学校副理事長	廣瀬 道
足立区立第十一中学校長	笹 サヨ子
大田区立大森第六中学校長	税 所 要 章
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	守 屋 文 俊
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	松 永 かおり

会誌編集委員会

東京都立園芸高等学校長	小川 敏 雄
東京都立北豊島工業高等学校長	小林 薫
東京都立田無工業高等学校長	永村 隆
東京都立市ヶ谷商業高等学校長	山下 哲
東京都立第四商業高等学校長	渡邊 淳 子
東京都立世田谷総合高等学校長	山中 豊
関東第一高等学校長	池田 二 郎
安部学院高等学校長	安部 元 彦
日本電子専門学校長	古賀 稔 邦
足立区立六月中学校長	池田 敦 彦
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	山田 和 人
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	島 崎 智 恵

作文選考委員会

東京都立府中工業高等学校長	森 健
東京都立農産高等学校長	徳田安伸
東京都立橘高等学校長	大室文之
東京都立五日市高等学校長	小林三代次
東京都立江東商業高等学校長	高田憲一
東京都立忍岡高等学校長	小峯健治
東京都立東久留米総合高等学校長	青木伸道
安田学園高等学校長	鈴木行二
国際理容美容専門学校学務課長	佐谷肇
練馬区立上石神井中学校長	小野雅保
足立区立千寿桜堤中学校長	高橋和夫
江戸川区立篠崎中学校長	阿久津勝利
江東区立第二大島中学校長	倉持眞由美
清瀬市立清瀬第五中学校長	千野和子
新宿区立牛込第一中学校長	佐久間洋子
大田区立蒲田中学校長	藤田悟
八王子市立館中学校長	里吉武仁
荒川区立諏訪台中学校主幹教諭	出井玲子
練馬区立石神井中学校主幹教諭	深井明美
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	佐藤聖一
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	山田和人
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	木田貴子
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	山村智治
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	和田栄治

産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
1	浅地事務所	港区		経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他。
2	(有)東新幸社	葛飾区	—	多年に渡る（創業 55 期）玩具製造の技術を用い、照明器具・空気銃玩具雑貨品を製造している。
3	有明印刷(株)	文京区	—	版下作成より、製本まで一貫作業を社内にて消化。
4	(有)飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャスターを開発、製造販売を始め、現在に至る。
5	(株)イエローハット	目黒区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	当社は、お客さまのカーライフにおける全てのサポートをお任せいただけるよう、ニーズにあわせた店舗業態の展開や、車両販売から車検・買取りまで幅広いサービスのご提供、そして豊富な品揃え・最新鋭の機器と安心の技術で応える PIT サービスを実践し、信頼・安心していただける店舗づくりを目指しております。
6	(株)イツエ・エレクトロ	北区	—	電子部品の販売及びヨーロッパからの機械輸入販売。
7	(株)エイエスケイ	千代田区	—	—
8	(株)エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。 平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
9	(株)大崎コンピュータエンジニアリング	品川区	(○) 高専卒 (○) 四大卒	「信頼とサービス」をモットーに、営業・システム・施工保守・技術部門が一体となって、システム開発から通信ネットワーク構築、アウトソーシングサービスまで、トータルな IT 環境を提供する総合インテグレータ。富士通・富士電機・NTT グループのディーラー業務等。
10	(株)オーム社	千代田区	(○) 高専卒 (○) 四大卒	科学技術関係の書籍及び月刊誌を発行。情報科学、情報通信、電気電子、応用物理、機械制御、土木建築、空調衛生設備、化学環境、生命科学、医用電子など理工学全分野に及ぶ。定期雑誌は『OHM』『新電気』『電気と工事』『設備と管理』『Medical Bio』『ロボコンマガジン』の月刊・隔月刊 6 誌。
11	(株)オリタニ	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	クリーニング用資材の製造販売を行っています。
12	(株)カナック企画	葛飾区	—	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカー AV (Audio Visual) 機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001 を取得して品質のよい環境に配慮した商品の開発を行っています。
13	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に 24 店舗（1 出張所を含む）を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
14	(株)川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売。
15	機械研究(株)	台東区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	教育・研究用実験試験装置設計製造。大学、高専、工業高校、職業能力開発校、民間企業等に多数の納入実績があります。
16	(株)キクチ	品川区	(○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。
17	(株)キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。
18	(有)グローバル・コミッション	大田区	(○) 四大卒	製造業を中心とした中小企業へのコンサルティング。東京都立産業技術高等専門学校様との産学連携で大変お世話になっています。
19	恵雅堂出版(株)	新宿区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
20	(株)建築資料研究社	豊島区	—	建築資料研究社は、全国に 133 校の日建学院をはじめ、建築設備や書籍、PC ソフトから専門学校・スクールまで建築に関する様々なニーズにお応えします。
21	(株)小葉印刷所	中央区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	創業 80 年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。 近年、エディトリアルデザインやデータ加工分野に力を入れている。
22	(株)コヤマ服装	府中市	—	学生服他、製造販売。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
23	坂口電熱(株)	千代田区	(○) 四大卒	工業用電熱機器の設計、開発、製造、販売に取り組み85年。道経一体の人づくり経営がバックボーンであり、新製品の開発や多角化の原点であるとの考えに徹しています。
24	三和電気計器(株)	千代田区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	従業員65名の中小企業ですが、2008年に創業67周年を迎える現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。
25	(株) JTB 法人東京 東京教育旅行 東京東支店	千代田区	(○) 四大卒	個人旅行から修学旅行、遠足、クラブ合宿、職員旅行、謝恩会、海外語学研修、ホームステイプログラムといった団体旅行まで、様々な分野のご旅行のお手伝いをさせて頂いております。 また、大きく変革する学校教育の課題解決にお応えするために「旅行業」から「教育コンサルタント業」へと変化し続けています。
26	実教出版(株)	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・補助教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。通信教育や情報教育・情報処理技術試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
27	(株) 昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。
28	青和信用組合	葛飾区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の8町、江戸川区の2町、足立区の5町に居住される約96,600世帯（人口208,100人）と、地域内で事業を営まれる中小企業、そこに勤務される方々を対象に活動しており、現在、約43,100世帯（62,937人）の個人の皆様と、2,449先の法人等の方々にお取引をいただいております。
29	(株) セレモニーユニオン	葛飾区	—	当社の事業内容：葬祭業・仏壇仏具の製造販売・墓石の建立。特に仏壇は当社の代表者自身が東京都認定の『東京仏壇』の伝統工芸士に認定されている。東京仏壇は、業界の中では超高級品として扱われている。
30	千住金属工業(株)	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	携帯電話、コンピュータ等には欠かせないはんだでは世界のトップメーカーです。インテル社より2007年度最優良納入業者として表彰（世界で13社）を受けました。海外拠点も26ヶ所になります。
31	(株) ソフマップ	千代田区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	パソコン、デジタル機器専門店として創業以来培ってきた新品・中古の循環型ビジネスモデルのベースとなる、当社独自の買取・買い替えサービスにより、業界トップの地位を確立しております。
32	(株) 第一科学	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売
33	太平観光(株)	練馬区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	昭和38年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金5,000万円。従業員25名（常勤役員3、正社員19、パート3）。年商10億。学校関係70%、海外旅行10%、国内募集旅行10%、個人一般旅行10%。
34	大洋塩ビ(株)	港区	—	—
35	(株) 高橋運動具店	府中市	(○) 高校卒	各種運動具の販売。ベースボールショップ併設。体育施設工事の請負。
36	(株) 竹尾	千代田区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙（ファインペーパー）の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約400銘柄、9,000種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
37	谷口インキ製造(株)	荒川区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	印刷インキの製造・販売と共に、コンピューターカラーマッチング技術のハード、ソフトをコア技術として、お客様のニーズに細かく対応して印刷業界に貢献しています。
38	TDO グラフィックス(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 短大卒	当社は専門商社の名にふさわしく、取扱商品は実に多彩。その種類は2万を超えています。主なものは各種抵抗器、コンデンサー、水晶振動子等、ケーブルコネクタ、ニッケル電池、組立加工、DVD、リードリレー、IC、液晶素子、プラズマディスプレイ、情報機器の開発設計、光ハイパー応用品等。
39	(株) チバダイス	葛飾区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
40	鉄道機器(株)	中央区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に低騒音化、低振動化、地震対策等、時代のニーズに対応した分岐器の開発・改良に注力しています。
41	東京ガス(株)	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	都市ガス会社として120年の歴史があり、平成19年9月に需要案件数が1,000万件を達成いたしました。お客さまを第一に「安心・安全・信頼」のブランド価値向上を事業の基盤とし、「真心のある公益事業」を目指しています。
42	東京書籍(株)	北区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	1909(明治42)年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小中高等学校の教科書を中心に、ワークブック・問題集・辞典などの教材、ビデオ、パソコンソフト、教養書、辞典、エッセイなどを幅広く発行。
43	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	概要：指導・信用・共済・経済事業等を行っている。 特色：地域に密着した取組をしている。
44	東京電力(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	「エネルギーの最適サービスを通じて豊かな生活と快適な環境の実現に貢献していくこと」を経営理念に掲げ、電気を安定してお客さまにお届けするとともに、関連新規事業を展開しています。 また、エネルギー教室(出前授業)・発電所見学会などを通して、学校教育への支援をさせていただいています。
45	東京都農業会館	立川市	—	—
46	(株)東京都民銀行	港区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	昭和26年の創立以来、中小企業の育成に注力している地方銀行です。首都圏に78の営業拠点を持ち、京王駅ATMの展開、近隣地銀の横浜銀行、千葉銀行、武蔵野銀行、東日本銀行、八千代銀行やセブン銀行、イオン銀行と提携し、ATMネットワークの充実を図っています。 また、給料日前に働いた範囲内で給料を受け取れる、商品「前給」(特許取得済)の取扱、事業承継やM&Aのご相談、中国ビジネス支援等様々なビジネス展開を行っています。
47	(有)東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、企画・デザイン・版下・印刷まで一貫作業のため、お客様のご要望にきめ細かく対応できます。名刺・封筒・カタログ・冊子まで便利にご利用いただける街の印刷屋さんを目指しています。
48	(株)トスロン	台東区	—	プラスチックの密閉容器の製造販売で有名。
49	トップツアー(株) 東京教育旅行支店	新宿区	(○) 四大卒	旅行業。平成18年1月で会社創立50周年を迎え、“東急観光”から社名を変更。
50	(株)トンボ鉛筆	北区	(○) 四大卒	文具の製造販売。 「書く」「消す」「貼る」の三つの分野を中心に商品を開発、販売しています。
51	(株)日刊工業新聞社	中央区	(○) 四大卒	わが国唯一のモノづくり総合紙。
52	(株)日本化薬東京	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして「安全」「コンプライアンス」「健全」および「スピード」を掲げ、高機能都市型工場をめざしております。
53	日本自動ドア(株)	中野区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
54	信川化学工業(株)	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機 2,700t、2,200t、1,600t × 2、1,200t、850t × 4、650t × 2 他計 21 台。クレーン 20t、10t 他。
55	日野自動車(株) 日野工業高等学園	日野市	(○) 中学卒	日野自動車株式会社は企業内高校として日野工業高等学園を運営しています。卒業後は、正社員として日野自動車の各部門に正式配属されるので、進路に悩むことなく3年間を学園生活に打ち込むことができます。また、学費、通学費に加え手当も支給され、好条件で高卒をはじめとする各種資格が取得できます。
56	(株)平沢塗装	江戸川区	(○) 高校卒	リフリート工法に依る外壁改修工事を多数施工実績が有ります。又ISO9001:2000 認証取得しております。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
57	丸工化学(株)	葛飾区	—	プラスチック製品製造業。従業員17名。主に容器の製造。中空成形機14台。小はスポイト位の物から大は灯油缶位の物迄できる。
58	丸善(株)	中央区	(○)専修卒 (○)短大卒 (○)四大卒	明治2年に西洋の文物を国内に紹介すべく創業し、以来、日本の学術・文化の発展に尽くしております。また、新刊書店を全国に展開しております。
59	(株)みずほ銀行	千代田区	—	—
60	(株)三井住友銀行	千代田区	(○)専修卒 (○)短大卒 (○)四大卒	経営目標である「お客様、株主や市場、社会から最高の信頼を得られ世界に通じるトップバンクの実現」に向けて、強みである個人向けコンサルティング、中小企業向け融資、投資銀行ビジネスなどに注力しながら、他業態とのアライアンスなど新たなビジネスに積極的に展開していく。
61	(株)三築ツツキシステム	港区	(○)専修卒 (○)四大卒	電機計測器卸売のシステム技術商社です。富士電機グループ特約店。特定建設業(電気工事)国土交通大臣許可。地球環境保全と省エネルギー関係の設備及び機器を得意とします。
62	ミヨシ油脂(株)	葛飾区	(○)専修卒 (○)四大卒	大正10年創業の総合油脂加工メーカー。天然の動植物油脂を主原料とし、マーガリン・ショートニングなどの食用加工油脂、脂肪酸・界面活性剤などの工業用薬剤の製造販売。また、重金属捕集剤などの環境保全薬剤も手がけている。
63	(株)ムトーエンジニアリング	世田谷区	(○)高校卒 (○)専修卒 (○)高専卒 (○)四大卒	業務用大型プリンタ、プロッタの販売・保守メンテナンス、設計製図機器、光学式計測器の開発・製造・販売、リサイクルトナー販売、LED関連製品の製造・販売。
64	(株)明輝	渋谷区	(○)高校卒 (○)専修卒 (○)高専卒 (○)短大卒	プラスチック成型用金型製造。国内の工場は厚木、一関。海外は英、マレーシア、メキシコ、タイ。
65	森山精機(株)	文京区	(○)高校卒	流体実験装置の製造販売並びに教育機器の販売を50年継続。
66	山崎教育システム(株)	東村山市	(○)専修卒 (○)四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店500社)。
67	山崎製パン(株)	千代田区	(○)高校卒 (○)専修卒 (○)高専卒 (○)短大卒 (○)四大卒	パン・和洋菓子等の製造及び販売。
68	ヤマ産業(株)	文京区	(○)高校卒 (○)四大卒	教育備品を販売して50年。学校よりの信用を得て、安定している。
69	(株)雄電社	品川区	(○)高校卒 (○)専修卒 (○)短大卒 (○)四大卒	昭和5年創業以来一貫して、電気設備工事の設計・施工を行う。全国展開し、支店・営業所など9拠点。民間を中心に年間131億円の工事高。
70	(株)ルネサステクノロジ	千代田区	(○)高校卒 (○)高専卒 (○)短大卒 (○)四大卒	日立製作所と三菱電機の半導体部門の事業統合により2003年に設立。半導体を設計・製造するだけでなく、ソフトウェア技術、セキュリティ技術、ネットワーク技術などを持った、世界をリードする真の”インテリジェントチップソリューションプロバイダ”を目指し、ユビキタス社会に対応しています。

個人会員

1. 堀居英治 2. 小松重義 3. 齋藤武捷 4. 倉持俊義 5. 渡邊征博 6. 梶谷正義

学校会員名簿

50音順

学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
私立高校				
1 愛国高等学校	江戸川区	全	普通科 (240) 商業科 (120) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40)	平成 19 年春に新体育館落成。普通科は A (一般教養)・B (進学) の 2 コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の 2 コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科 (上級 2 年コース) は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に大学・短期大学・保育専門学校がある。
2 安部学院高等学校	北区	全	商業科 (200)	1940 年 (昭和 15 年) に創立して以来、一貫して「商業教育のみの女子高校」と歩み続け、現在で満 68 年を迎えました。在校生には、「5 つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2 年次よりコース制になり、簿記 1 級の取得を目指す「会計コース」とパソコンなどの実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の 2 コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、以前は就職する生徒が 9 割近くを占めましたが、現在は就職希望者だけでなく、進学希望者も増えています。
3 岩倉高等学校	台東区	全	機械科 (90) 運輸科 (135) 商業科 (90) 普通科 (90)	我国最初の鉄道学校として明治 30 年に創立。卒業生の多くは鉄道・運輸業界で活躍している。機械科・運輸科・商業科・普通科を持つ総合制高校として、就職のみならず進学面でも成果が顕著である。なお、平成 21 年 4 月に新校舎の完成を予定しており、充実した環境の中で、特色ある各科の内容の充実や新コースの設置等、生徒の夢をより具現化する新カリキュラムで学力の向上をはかっている。
4 大森学園高等学校	大田区	全	普通科 (80) 工業系 (280) : 機械科、 電気科情報技術科、 総合技術科	【創立】昭和 14 年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立 70 周年 (平成 21) にむけて「学校改革」始まる。平成 16 年、新校舎建築に着手。平成 17 年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第 1 期生をむかえる。平成 19 年校舎建築完了、普通科を共学化する。本年女子第 2 期生を迎える。
5 科学技術学園高等学校	世田谷区	通	普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600)	昭和 39 年に広域の通信制工業高等学校として創立し、すでに 11 万人超の卒業生を輩出している。昭和 52 年普通科設置とともに現校名に変更する。一般生を中心とした単位制のコースと集団入学生徒対象の技能連携のコースを持つ。平成 18 年 4 月より単位制に週 4 日通学コースを設置し、様々な生徒のニーズに対応できるようにしている。単位制は登校コースおよび e-ラーニングコースがあり、生徒個々の充実した学校生活をサポートしている。
6 蒲田女子高等学校	大田区	全	普通科 : デザインクラス (30) 医療福祉クラス (40) 幼児教育クラス (80) スポーツクラス (40) 生活文化クラス (60)	昭和 16 年に漢学者・簡野道明の遺志により設立。「子供の教育に最も大切なのは母親であり、その母親となる教育こそ教育の根本である」とし、道徳しつけ教育に重点をおき、自立する女性の育成を行っている。5 つのクラス制を導入し、同じ目的、希望を持ったクラス仲間と高校生活を送りながら、特に医療福祉クラスでは、ホームヘルパー 2 級、障害者ヘルパー取得はもちろん、介護福祉士の国家試験受験資格と医療看護対策として 2 年次より特進クラスを設ける。
7 関東第一高等学校	江戸川区	全	機械科 (男子 40) 建築ビジュアル科 (男女 40) 普通科 : 特別進学コース (男女 25) 進学・進学選抜コース (男女 115) 普通コース (男女 220) スポーツコース (男子 80)	平成 18 年度に建築とアートの融合を切り口として、建築科を建築ビジュアル科に科名変更した。同時に共学とし、女子生徒のデザイン教育にも重点を置く。
8 京華商業高等学校	文京区	全	商業科 (150)	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。
9 京北学園白山高等学校	文京区	全	商業科 (180)	人間力を①自己学習能力②コミュニケーション能力③プレゼンテーション能力の 3 つの力と定義し、その育成に努力する。現役大学進学率 7 割の新しいスタイルの商業科進学学校。
10 昭和第一高等学校	文京区	全	普通科 (240) 商業科 (40)	昭和 4 年設立、平成 17 年度男女共学開始。校訓「明るく、強く、正しく」のもとに生徒一人ひとりがしっかりとした目標を持ち、円満な人格と高い教育を身につけ、国際社会にも通用する心身ともに調和のとれた人間を育成する。きめ細かな教科指導はもとより、生活指導にも力を入れている。
11 昭和第一学園高等学校	立川市	全	普通科 (301) 工業系 (240) <機械、電子情報、 建築科>	普通科 : 選抜クラス、普通クラス、2 年次より文・理コースを設置。 工業系 : 1 年次一般教科、共通の専門科目を学び、2 年次から希望、成績、適性等を参考にそれぞれ、機械、電子情報、建築科に分かれ 2 年、3 年はそれぞれ専門課程を学ぶ。

	学校名	所在地	課程	平成21年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
12	昭和鉄道高等学校	豊島区	全	鉄道科 (215)	鉄道専門科目を通し、サービス業務など実践的な教育に取り組んでいる。
13	大成高等学校	三鷹市	全	普通科： 特進コース (70) 普通コース (280) 情報コース (40)	平成18年度から6日制を実施。特進コースは難関大学受験を目指したコースで特別講習が充実。普通コースは大学から専門学校まで幅広い進路希望に応じたコース。情報コースはワープロ検定、情報検定取得など普通科目をベースにした情報処理能力育成コース。
14	中央学院大学中央 高等学校	江東区	全 通	普通科 (35) 商業科 (65) 普通科 (300)	少人数クラスをベースにしなが、生徒一人ひとりの将来を考えた教育を展開しています。中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。
15	東京学園高等学校	目黒区	全	普通科： 普通コース (245) 選抜コース (35) 情報ビジネスコース (募集停止)	「文化に産業に、社会の要請に順応できる有為の人材を育成する」という建学の精神の基、「知・徳・体」の3拍子揃った生徒の育成に努めている。また平成18年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内を一部区に提供し、災害時に於ける目黒区の備蓄倉庫を設置し、本校の生徒だけでなく地域の方々にも貢献できる体制を整えている。
16	東京実業高等学校	大田区	全	機械科 (135) , 電気科 (90) 普通科： ビジネスコース (180) 文理コース (90)	全科男女共学。週5日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際交流としてアメリカ・コロラド州への留学があります。
17	東洋高等学校	千代田区	全	普通科： 特進選抜コース (30) 特進コース (150) 総合進学コース (170)	平成13年、「独歩・共生」を校訓に掲げ、共学化を図り、21世紀にふさわしい新校舎を竣工。100年を超える歴史と伝統を礎に、「やさしく教え、きびしく育てる」をモットーとして、自主自立の精神と思いやりを大切に作る人間づくりを実践しています。
18	豊島学院高等学校	豊島区	全	普通科 (378)	平成20年度、学園として創立80周年を迎える。近年、社会や生徒のニーズに応えるため様々な学校改革に取り組んでいる。平成20年度より特進・選抜・普通・文理の4つの進学類型をもつ完全普通高校として生まれ変わる。大学進学実績は年々伸び続けており、さらなる飛躍を目指している。
19	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科：特進コース (30) 理数特進コース (30) 総合進学コース (80) 工業科：理数工学科 (80) 国際工学科 (40) 機械科 (80) 建築科 (40) 電子情報システム科 (40)	100年間培ってきた工業技術教育を大切にし、その有用性を生かした新しい時代の新しい普通科を設置。校名を日本工業大学駒場高等学校に変更し、生徒の卒業後進路の多様化に具体的な支援をする。
20	日本女子体育大学 附属二階堂高等学校	世田谷区	全	普通科： 総合進学コース (80) 体育コース (80) 保健福祉コース (40)	本校は普通科の高校であり、総合進学・体育・保健福祉の3つのコースを設けています。旧来の福祉コースは介護福祉士の資格が取れる専門に重点を置いた教育に取り組んできましたが、平成21年度より保健福祉コースに改組します。保健福祉は「福祉」という分野を保育・看護医療も含めた広い「保健福祉」という視野でとらえ、本気で生徒一人ひとりの可能性を引き出すコースとして再出発します。
21	八王子実践 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース (80) 文理コース (160) 普通コース (240) 調理科 (80)	八王子の高台に位置し、優れた環境の中で、実践的な教育に取り組んでいる。平成20年度よりカリキュラムを一新し、普通科では特進コース・文理コース・普通コースの編成となった。調理科については優秀な教授陣を要し、施設設備等最高のものを設置している。
22	豊南高等学校	豊島区	全	商業科 (募集停止) 普通科 (400)	長年、培ってきた「商業教育」の実績を活かし、普通科においても、社会で活躍できる人材育成を目指します。また、教科情報 (パソコン等) では、より実践的な指導を行い、産業教育の一翼を担うことを学校の使命としています。
23	朋優学院高等学校	品川区	全	調理科・調理コース (45) デザイン科・デザインコース (45) 普通科・特進コース (60) 普通コース (200) 美術コース (45)	調理コース：食の幅広い知識として調理専門科目を学習。卒業時に調理師免許取得。 デザインコース：コミュニケーションツールとしてのデザイン、コンピュータや手作業による造形を体験学習・共同作業などで学習。 全コース (3学科5コース) とも男女共学。
24	村田女子高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科四コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
25	安田学園高等学校	墨田区	全	普通科 (194) ビジネス情報科 (86) システム情報科 (42) 商業科、建築科 (それぞれ募集停止)	本学園は、創立者安田善次郎翁の建学の精神のもと、実践的能力に秀でた人材の育成を目指し、一人ひとりの個性の重視と可能性を伸張させる教育に重点をおいています。従来の中高一貫 (6ヵ年) 高等学校の普通科に関するコース (特別進学・進学選抜・総合進学) と商業に関する学科をビジネス情報科・工業に関する学科をシステム情報科に科名変更を行い、より社会に即応した教育を実践してまいります。

学校会員名簿

学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
都立高校				
▽農業に関する学科				
1 都立園芸 高等学校	世田谷区	全	園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35)	平成 20 年度に 100 周年を迎えたが、平成 18 年度に重点支援校の指定を受け、地域や NPO 等との連携のもと「園芸高校リバイバルプラン」を推進している。園芸科、食品科、動物科では、2 年次から、生徒の特性等に応じたコースを設け、食品科では、専門学校との連携により在学中に調理師の資格取得が可能である。 定時制では家庭的な雰囲気での学習が進められ、園芸技術専修生制度もある。
		定	園芸科 (30)	
2 都立農業 高等学校	府中市	全	都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 服飾科 (35) 食物料 (35)	全日制では、農業・家庭の両科の専門学習とその教育資材を生かし、環境教育に取り組んでいる。学校設定科目「地域貢献」を通じて、生徒が専門教科の学習の目的を理解し、自信を持って学べるように取り組んでいる。平成 19 年より、都市からの農業の担い手育成事業である「東京アグリカレッジ」を東京農工大学をはじめとする地域の諸機関と連携・協力して開催している。さらに、食育推進研究指定校として、全校をあげて食育に関する教材開発及び授業実践を行っている。 定時制では、「食育」、「環境」、「奉仕」を三本柱として産地消と循環型農業の学習に取り組んでいる。また、平成 21 年度入学生より 3 修制を実施する。
		定	食品化学科 (30)	
3 都立農芸 高等学校	杉並区	全	園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	食料、農業、環境に関する地域のセンター校として、地域貢献活動を推進し、行動力豊かな生徒の育成に努めている。平成 18 年度環境省エコアクション 21 を取得し、環境マネジメントシステムを導入し、全校あげて環境負荷を軽減した学校運営に取り組んでいる。国際理解教育推進のために科目「国際農業」を設置し、希望者による米国派遣農業実習を実施している。 都立高校唯一の馬術部を有し、過去 5 年間に 4 回全国大会に進出している。
		定	農芸科 (30)	
4 都立農産 高等学校	葛飾区	全	園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	東京東部にある唯一の農業高校で、「食と緑の学園」をモットーに教育活動が行われている。 全日制では、2 学科 4 類型を設置している。園芸デザイン科では栽培からバイオ、フラワーデザインまで、食品科では加工から食品デザインまで広く体験を通して学べる。 定時制は、午後 3 時から授業を開講しており、3 年間の卒業認定制度により人気が高い。
		定	農産科 (30)	
5 都立農林 高等学校	青梅市	全	募集停止	全日制は平成 19 年 3 月末で閉課程となった。 定時制は平成 21 年 3 月末で閉課程となる。園芸科とともに普通科を併設しており、普通科に置いて「生活園芸」などの農業教育を取り入れ、生命尊重の精神をはぐくんでいる。
		定	募集停止	
6 都立瑞穂農芸 高等学校	西多摩郡 瑞穂町	全	畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	都内唯一の畜産科学科があり、大動物の飼育・管理が学習出来る。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育てている。 定時制も規模が小さく、きめ細かな指導が行われ、大変落ち着いた学習環境である。
		定	併合科(普通・農業) (30)	
▽工業に関する学科				
7 都立足立工業 高等学校	足立区	全	総合技術科 (175)	機械・電気系の総合技術科。1 年は共通履修、2 年で機械系か電気系を選択、さらに 3 年で機械系の 2 コース、電気系の 3 コースを選択する。また、進学対応として、2 年で理数系、3 年で理数コースも設けている。 第二種電気工事士を中心に様々な資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、小中学校や地域連携を積極的に推進している。 施設・設備拠点校 6 校の内の 1 校として指定され、施設・設備は特に充実している。
8 都立荒川工業 高等学校	荒川区	全	電気科 (70) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	全日制では「ものづくり」に関する技術・技能を身につけさせる。電気系専門技術者に必要な基礎的な学力をつけさせる。社会で役立つ資格(第 2 種電気工事士等)を取得させ生徒に自信をつけさせる。とくに、第 2 種電気工事士の合格者は、5 年連続 30 名以上の実績を誇る。 定時制では基礎・基本の徹底を図り、分かる授業を行い、分かるまで教える。良いことを誉め、悪いことは正す。資格取得や検定合格で自信と意欲を育てる。
		定	電気・電子科 (30)	
9 都立王子工業 高等学校	北区	全	募集停止	平成 21 年 3 月で閉校となります。
		定	募集停止	
10 都立葛西工業 高等学校	江戸川区	全	機械科 (70) 電子科 (35) 建築科 (70)	都教委指定のマイスター型(職人育成・職業観育成)リーディング・テクニカル・ハイスクール 施設設備拠点校で最新設備が設置 地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成 区役所や地域と協力し、地域に貢献する教育活動

	学校名	所在地	課程	平成21年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
11	都立北豊島工業 高等学校	板橋区	全	総合技術科 (175)	○全日制 機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を幅広く学び、社会に貢献できる人材を育成している。危険物取扱者、電気工事士、工事担任者など社会で役立つ資格取得にも力を入れている。また、エコアクション21の取得を目指し環境教育にも積極的に取り組んでいる。都教育委員会より施設・設備の拠点校として指定され施設・設備が整っている。 ○定時制 機械科単科1クラス。落ち着いた雰囲気の中で、工業技術者として幅広い知識と人間性を涵養している。中学校の先生方から「中学校で不登校だった生徒が何故、高校には通えるのですか」と高い評価を頂いている。 就職希望者の内定率100%を維持している。
			定	機械科 (30)	
12	都立蔵前工業 高等学校	台東区	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	○全日制 都立工業高等学校のアドバンス・テクニカル・ハイスchoolスペシャリスト型校として、生徒の適性を伸ばし、進路に応じたコース分けによるスペシャリストの育成を目指した教育を実践している。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築」の専門を学べる。 3修制によって、3年間で卒業が可能。既高卒者に対し、工業高校の卒業認定をする社会人編入生制度や社会人に教育課程の一部を公開する聴講生制度を実施している。学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
			定	建築工学科 (30)	
13	都立工芸 高等学校	文京区	全	マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35)	本校は、100年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。ものづくりを通して個性と創造力を伸長し、一人一人の感性と美的センスを磨き、心豊かな人間性をはぐくみます。ものをつくる技術は、心を伝える手段です。開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝や文化勲章受章者も輩出しており、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアをはじめとして、広く社会で活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や韓国・台湾等を含む大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種のコンテストで常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の感性・実力及び教育実績は全国のトップクラスにあり、内外から高く評価されています。 卒業後の進路は進学が最も多く、有名国公私立大の美術系を中心に幅広い分野への進学を果たしています。
			定	マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科 (30)	
14	都立小金井工業 高等学校	小金井市	全	募集停止	昭和14年に開校し、平成21年には70周年を迎えた。地域に根ざした教育で、多摩地域を中心に、東京都の産業を支える人材を多く輩出している。卒業生数は2万人を超える。全日制は20年度入試より募集停止、定時制は現状を継続する。
			定	機械科 (60) 電気科・電子科 (30)	
15	都立杉並工業 高等学校	杉並区	全	機械科 (70) 電子科 (70) 理工環境科 (35)	都立工業高校で唯一（都立高校全体で2校）、環境マネジメントシステムISO14001を取得し、全教科で環境保全に関する学習を進めている。風力発電及びビオトープがある。平成20年度に高反射率塗装（屋上）及び窓遮熱フィルム貼付、太陽光発電設備拡大。平成17年度の資格取得者数が都立高校No.1。部活動が活発で、柔道部の東京都ベスト8や陸上競技部の関東大会出場など、どの部も輝かしい実績を残している。今年度、「キャリア教育優良取組団体」として文部科学大臣表彰、「環境学習及び地域温暖化防止取り組み等」において環境大臣表彰及び東京都教育委員会表彰を受けた。
16	都立墨田工業 高等学校	江東区	全	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35)	全日制は、4学科を持つ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率100%を常に維持している。100年を超える歴史と伝統を持ち、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。 定時制においても全日制と同じく進路希望達成率100%を実現しており、生徒主体の実践的教育に取り組んでいる。
			定	総合技術科 (30)	
17	都立世田谷工業 高等学校	世田谷区	定	自動車科 (募集停止)	自動車科（自動車整備第一種養成施設として国土交通省より認可）では、恵まれた施設設備を活用して充実した専門教育を行なっている。所定の課程を修了すると3級自動車整備士の実技試験が免除される。また、早期から進路指導を計画的に実施することで、進路決定率100%を目指している。 現在、4年生が在籍。平成21年3月に閉課程（閉校）予定。
18	都立総合工科 高等学校	世田谷区	全	機械・自動車科 (70) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70)	平成18年4月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校。全日制では、大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、学科の枠を越えた魅力ある学校設定科目を多く設定することで、充実した専門教育を行なう。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動推進指定校として、部活動の振興を図る。 定時制では、資格取得を中心に、2年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの3コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3年間で卒業が可能3修制を実施する。
			定	総合技術科 (60)	

	学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
19	都立田無工業 高等学校	西東京市	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの科も地域に根ざした技術者の育成を目標としている。
20	都立多摩工業 高等学校	福生市	全	機械科 (70) 電気科 (70) 環境化学科 (35)	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 38 年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成 20 年度で 45 年目を迎えた。平成 13 年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を東京都で唯一の環境化学科に学科改変。さらに、多様化する生徒個々の希望に応える学科毎の類型コース選択制を導入し、生徒・保護者のニーズに合った教育課程への改編を行う。 インターンシップ、ボランティア活動、小・中学校との夢のかけ橋推進事業、公民館や社会福祉協議会等との地域連携に努める取り組みが認められ、平成 20 年度文科省人権教育研究指定校に指定される。また、全校を挙げての環境教育、地域環境活動が認められ、「エコアクション 21」の認証、登録、さらに平成 19 年度東京都教育委員会団体表彰を受賞する。
21	都立中野工業 高等学校	中野区	全	総合技術科 (175)	<p>大正 2 年に設立され、中野区に根ざした地域の工業高校である。平成 5 年「総合技術科」に学科改変、全日制課程は、機械類型・食品工業類型・工業化学類型を設けている。2 年次より、設計製図系、電子機械系、食品工業生産系、食品生物工学系、生活環境化学系、基礎工学系で各コースの専門性を深め、生徒一人一人の進路希望の実現を確実に果たしている学校です。</p> <p>定時制課程は、機械類型・食品工業類型を設けている。文部科学省の定・通チャレンジ事業研究推進校として、課題研究の取り組みを実践している。</p>
			定	総合技術科 (30)	
22	都立練馬工業 高等学校	練馬区	全	キャリア技術科 (175)	平成 18 年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートしました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3 年生では 6 系列（機械加工技術、オートメカニック技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP 技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。
23	都立八王子工業 高等学校	八王子市	定	募集停止	平成 21 年度末をもって閉課程・閉校となる。平成 21 年度は、4 年生のみ（2 学級）でデザイン、工業化学、機械、電気の 4 つのタイプの専門教育を行う。
24	都立府中工業 高等学校	府中市	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	都教委より「高度資格取得型リーディングテクニカルハイスクール」の指定を受け、各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。部活動推進指定校の指定も受け、野球部を中心にバスケット部、卓球部、陸上部、自動車部など活発に活動し実績をあげている。
25	都立本所工業 高等学校	葛飾区	定	総合技術科 (30)	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の特色を生かし、きめの細かい・わかりやすい指導を推進している。 生涯にわたるキャリア設計に基づいた進路実現が図れるよう支援する。そのための技能・資格取得の指導が充実している。 平成 18 年に新校舎が落成。平成 19 年度にグラウンド、人工芝テニスコートも含め、全面改修工事完了。
26	都立町田工業 高等学校	町田市	全	総合情報科 (175)	総合情報科は、情報デザイン、アプリケーション、情報システム、電気システム、機械システムの 5 つの系列からなり、1 年生では系列に関わりなく同じ学習内容を行います。2 年生から自らの興味関心、進路希望等により各系列にわかれ勉強します。選択科目も多く、充実した施設・設備を活用し、自分にあった教育課程が選択できます。
27	都立向島工業 高等学校	墨田区	定	募集停止	平成 21 年度末をもって閉課程となりますが、平成 20 年度は、3 年生と 4 年生が規律ある学校生活を送っています。少人数を生かしたきめ細かく基礎基本を徹底する授業を中心に全教員が熱心に取り組んでいます。スポーツ大会や進路講演会、奉仕体験学習などにも力を入れております。

学校名	所在地	課程	平成21年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽工業に関する学科（単位制）				
28 都立六郷工科 高等学校	大田区	全	プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35)	平成16年4月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト科、自動車3級整備士資格取得可能なオートモビル科、電気電子情報系のシステム科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン科の4科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も1学年と2学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大29単位卒業の単位として認めている。夜間定時制には、単位制と3修制を取り入れた生産工学科と普通科の2科がある。
		定	昼間定時制： デュアルシステム科(30) 夜間定時制： 普通科・ 1学年相当 (20) 2学年相当 (10) 生産工学科・ 1学年相当 (20) 2学年相当 (10)	
▽科学技術科				
29 都立科学技術 高等学校	江東区	全	科学技術科 (210) 専攻科 (40)	都立高校改革推進計画に基づき設置された新しいタイプの進学型の専門高校です。平成19年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され「科学技術と人間」などの特色ある学校設定科目の設置、分野選択制、理系進学に対応した豊富な学習量と少人数指導などを特徴として、大学や研究機関と連携を図りながら、理論、実験（実習）、研究の3ステップ学習による科学技術教育を行っています。
▽商業に関する学科				
30 都立赤坂 高等学校	港区	全	商業科（募集停止） 情報処理科（募集停止）	本校は、平成20年度をもって閉校いたします。都立市ヶ谷商業と発展的統合により平成21年度より、大田地区にできる進学型の専門高校（都立大田桜台高等学校）として生まれ変わります。平成19年度は最後の学年となる2年生全員参加のインターンシップを実施しました。
31 都立赤羽商業 高等学校	北区	全	商業科 (210)	社会を構成し運営するとともに自立した一人の人間として生きていくための総合的な力である【人間力】を培いつつ、生徒の目的意識を育成・高揚させ、その特性を伸長させる取り組みを重視した教育活動を展開している。その上で、【資格の赤商】【部活の赤商】【ボランティアの赤商】の3つの柱を中心に、多彩な学びや体験活動を通して、就職や進学など生徒の多様な進路実現を支援する学校を目指している。
32 都立足立 高等学校	足立区	定	普通科 (90) 商業科 (30)	学級数16、在籍生徒数約300名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は4学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では2名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は18年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。
33 都立荒川商業 高等学校	足立区	全	総合ビジネス科 (210)	平成18年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定（3年間）され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会のPRフラッグのデザインを考案（年4回更新）したり、生徒のデザインによるラッピング都電（外装塗装）を、平成18年10月1日より現在まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。
		定	商業科 (90)	
34 都立市ヶ谷商業 高等学校	新宿区	全	募集停止	市ヶ谷商業は赤坂高校と統合し、平成21年度から、東京都立大田桜台高等学校として青山の都立赤坂高校跡に、新しい学校として生まれ変わります。平成23年度から全面改築し、西馬込に移転予定です。これまで築いてきた地元との連携を大事に、インターンシップ及び社会講座、また地元と連携した奉仕活動などに力を入れていきます。
35 都立五日市 高等学校	あきる野市	全	普通科： 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70)	本校は四季折々に変化する武州の山なみに囲まれた静かな五日市にあります。普通科は平成17年度より「ことばと情報」のコースに改編しました。このコースではコミュニケーション能力の習得を柱とし3年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では二年次に「簿記コース」と「情報コース」に別れ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。20年度入学者選抜では、普通科及び商業科ともにバスケットボール女子1名ずつの文化・スポーツ特別推薦を実施します。定時制は面倒見が良い指導で定評があります。進路実現100%を目指しています。
		定	併合科 (30)	
36 都立葛飾商業 高等学校	葛飾区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	全日制、定時制ともに葛飾区に根ざした地域の専門高校として、キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の進路実現を確実に果たしている学校です。全日制は平成18・19年度部活動推進指定校で文武両道を目指しています。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門で生徒の活躍が学校全体の活力になってきています。
		定	普通科 (30) 商業科 (30)	

	学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
37	都立江東商業 高等学校	江東区	全	総合ビジネス科 (175)	ビジネス三言語 (ICT、会計、英語) に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。
38	都立芝商業 高等学校	港区	全	商業科 (210)	平成 17 年度より 4 年連続日本商工会議所 1 級合格者 (大学卒業レベル) を出しています。また、公認会計士や税理士の道が開かれています。このような高度資格取得を基に、就職と進学にも力をいれています。「天下の芝商」として、商業 (ビジネス) 教育の先導的役割を果たしている学校です。
39	都立台東商業 高等学校	台東区	定	募集停止	平成 21 年 3 月閉校となる。生徒は 10 代から 70 代までで、男女はほぼ同数。二人担任制で、生徒一人一人にきめ細かい対応と充実した生活指導。パソコン関係のスキル向上と各種資格取得に重点。スポーツ大会、文化祭、予餞会等を通じて様々な経験を積むことを目指す。卓球、軟式野球、バトミントン、水泳部が少人数ながら熱心な顧問のもとで活動中。
40	都立第一商業 高等学校	渋谷区	全	商業科 (210)	リーディングコマースハイスクールとして、学習活動、部活動、進路指導充実、資格取得等に励んでいる。半数以上の生徒が 4 大進学である。指定校、公募推薦等で現役合格している。平成 18 年度公認会計士試験に全国最年少 (20 歳) で合格。ソフトボール部は秋季公立高校大会で優勝。簿記部は簿記コンクール東京大会 2 年連続優勝。部活動が活発である。
41	都立第二商業 高等学校	八王子市	全 定	募集停止 募集停止	全日制は平成 18 年度で閉課程となり、定時制は平成 21 年度で閉課程となる。
42	都立第三商業 高等学校	江東区	全 定	商業科 (210) 商業科 (30)	全日制・定時制ともにこれからの日本の経済社会を担う人材を育成する学校として常に商業教育の充実を図っています。良き伝統を継承し、商業教育を幅広く「ビジネス教育」として捉え、生徒の希望する進路を 100% 保証できる新たな三商 (SUN 商) として、リスタートしました。今後も大学進学や就職に十分対応できる教育課程の点検・改善に鋭意取り組んでいきます。
43	都立第四商業 高等学校	練馬区	全 定	商業科 (140) 情報処理科 (70) 商業科 (募集停止)	平成 21 年度 70 周年を迎える。伝統と歴史を受け継ぎ、「自立と協調の精神」を培ってビジネス社会に通用する人づくりを目指している。全日制課程は部活動が大変盛んで、運動系は女子バスケットボール部、硬式野球部、アーチェリー部などが活躍している。また、簿記、珠算電卓や情報処理などの商業関係の部活動は、全国大会に出場経験がある。
44	都立第五商業 高等学校	国立市	全 定	商業科 (210) 商業科 (60)	全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。生涯にわたる学ぶ土台となる基礎基本を幅広く身につけ、社会人としてふさわしい感性やマナーを磨く学校です。定時制課程は、①基礎基本の学習を大切にします。②生活指導に力を入れて指導します。③資格取得と進路実現に力を入れます。④一人一人の夢を実現するために計画的に指導します。
45	都立向島商業 高等学校	墨田区	定	募集停止	平成 21 年度、第 4 学年のみとなります。(平成 22 年 3 月閉課程・閉校)
46	都立四谷商業 高等学校	中野区	定	募集停止	平成 21 年度、第 4 学年のみとなります。(平成 22 年 3 月閉課程・閉校)
▽ビジネスコミュニケーション科					
47	都立千早 高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	<ul style="list-style-type: none"> 英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年) と行事で実践。 新しいビジネス教育分野に NPO/NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。
▽家庭に関する学科					
48	都立忍岡 高等学校	台東区	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	平成 18 年 4 月 1 日、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。教育課程の特色では、1 時限 50 分、1 日 7 時限授業、7 時限目は自由選択科目を設置し、各科目の演習、「おこと」「華道」「日本舞踊」「将棋」などの日本の伝統文化、「演劇」などの文化総合、「ハングル」「中国語」「フランス語」などの外国語を設置している。
49	都立町田 高等学校	町田市	全	家政科 (70)	戦前からの長い伝統を誇る本校家政科は、一般教養を高めるとともに、被服・食物・保育等の生活に関する理論と実習、またフードデザイン・ファッションデザイン・被服製作・発達と保育・家庭情報処理・家庭看護福祉などのユニークな専門科目を通して、高度な専門的技術・知識の習得、並びに豊かな人間性を育てることを目標に取り組んでいる。

	学校名	所在地	課程	平成21年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽福祉に関する学科					
50	都立野津田 高等学校	町田市	全	福祉科 (35)	平成8年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成18年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。
▽国際関係に関する学科					
51	都立大島海洋 国際高等学校	大島町	全	海洋国際科 (80)	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験重視の国際教育を行い、21世紀の国際社会の課題を考え、大きな夢と志を形成します。生徒の進路希望を高いレベルで実現させるための学力向上を目指した教育活動を実践しています。 1年生では英語の基礎力を身につけさせ、海外語学研修を行います。2年生からは「国際社会系」と「国際海洋系」に分かれ、本校の国際航海船大島丸による国際航海学習を行います。前者は文系4年制大学を目指し、また後者は理系・海洋系4年制大学、海洋系公務員、海洋系上級学校を目指して取り組んでいます。
▽併合科					
52	都立大島 高等学校	大島町	全	併合科(農林・家政) (35)	農林科・家政科で構成されている。約17万㎡という都立高校の中で、もっとも広い校地を所有し、その半分を農林科が実験及び実習地として管理している。平成18年3月には、パーソナルコンピューターを20台更新し、実業意欲向上プログラムやふれあいロードプログラムに積極的に取組んでいる。 家政科は、大島町の生活産業や社会福祉施設と幅広く連携し、職業人、地域人としての自覚を促す授業を展開をしている。
53	都立八丈 高等学校	八丈町	全 定	普通科 (120) 併合科(園芸・家政) (35) 普通科 (30)	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。敷地面積は約7万平米(東京ドームの1.5倍)を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している(昨年度進路実績100%)。部活動が大変盛んで、生徒の約85.5%が所属している。 定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。 島のほぼ中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、東京空港(羽田)から空路約40分、1日4便就航。大変至便な学校である。
54	都立三宅 高等学校	三宅村	全	併合科(農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人一人の個性・能力を伸ばす指導を実践している。
▽産業科					
55	都立橋 高等学校	墨田区	全 定	産業科 (210) 産業科 (60)	本校は、キャリア教育を重視し、「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、産業界で活躍する人材や起業家を育成することを目標にしていることから、「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、勤労観・職業観を身に付ける教育を実践します。
56	都立八王子桑志 高等学校	八王子市	全	産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70)	本校はIT特区&学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を発展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって、時代の要請に応える人材育成です。
▽情報科(単位制)					
57	都立新宿山吹 高等学校	新宿区	定 通	普通科 (150) 情報科 (65) 普通科 (110)	都立高校で最初に「単位制・無学年制」の昼夜間開講の普通科と情報科を設置した学校で、定時制・通信制(通信制は毎週土曜日にスクーリングを実施している)を併設している。また、生涯学習講座も開講しており、生徒も生涯学習講座を受講でき単位認定している18年目を迎えた特色ある学校である。生徒は自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて学習に取り組んでおり、毎年、国立大学、難関私立大学や専門学校への進学をはじめ公務員、就職などにも力を入れている学校である。通信制課程では、添削・スクーリング・定期考査の3点セットをクリアしないと単位認定できない全国でも先進的な学校である。
▽総合学科(単位制)					
58	都立青梅総合 高等学校	青梅市	全 定	総合学科 (240) 総合学科 (90)	平成18年4月、東京都で初の全・定併置の総合学科高校として開校した。都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を有している。全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の5系列を設けている。 定時制課程は生命・自然、生活・福祉の2系列を設けている。

	学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
59	都立葛飾総合 高等学校	葛飾区	全	総合学科 (240)	平成 19 年 4 月に開校した東京東部地区初の全日制総合学科高校。 国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、 メカトロニクス の 6 系列を設置し、生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目と大胆な選 択制を採用して、生徒一人ひとりに明確な目的意識を育てつつ、進路実現を図る。
60	都立杉並総合 高等学校	杉並区	全	総合学科 (240)	都立桜水商業高校と都立永福高校とを前身として、平成 16 年度に都立で 3 番目の総合学 科高校として開校。国際理解教育やキャリア教育を重視。部活動の推進や学校行事の充 実などと合わせて、生徒の意欲を高め「生きる力」を育て、個性や能力の伸長をめざす。
61	都立世田谷総合 高等学校	世田谷区	全	総合学科 (240)	○平成 20 年 4 月開校 ○幅広い 6 系列（社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ラ イフデザイン、ものづくり）に 100 科目以上を配置し、大幅な科目選択制で、一人ひ とりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー（身だしなみ、頭髪等）を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノー チャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を制定し、毎日校門指導を実施。女子制 服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視。
62	都立つばさ総合 高等学校	大田区	全	総合学科 (240)	平成 14 年に新規開校した都立 2 校目の総合学科高校である。国際・コミュニケーション、 美術・デザイン、スポーツ・福祉、情報・サイエンス、生産・テクノロジーの幅広い 5 系列を持ち、生徒の能力、興味・関心に基づいた個人別カリキュラムで勉強ができ、大 学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001（国際環境認証）を取得し、環 境教育にも力を入れている。
63	都立晴海総合 高等学校	中央区	全	総合学科 (240)	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・ 設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、 国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会経済の 6 系列に 多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。
64	都立東久留米 総合高等学校	東久留米市	全	総合学科 (240)	本校は、平成 19 年 4 月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。 全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力授業や先進的な進路指導により大学などへの 希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・ 福祉、美術・デザインの 6 系列を設置。 定時制では、教養、情報・ファイナンスの 2 系列を設置するとともに、3 修制を実施。
			定	総合学科 (60)	
65	都立若葉総合 高等学校	稲城市	全	総合学科 (240)	平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」 と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。 人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の 4 系列を持つ。 教育目標のコンセプト “TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE” ※大志を抱き (AMBITIOUS)、生き生きと活動し (ACTIVE)、魅力あふれた (ATTRACTIVE) 若者を育てる学校
▽総合学科（単位制、チャレンジスクール）					
66	都立大江戸 高等学校	江東区	定	総合学科 (150)	平成 16 年 4 月開校の三部制総合学科（単位制、定時制）高校。「伝統・文化」「情報・ ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。 体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。 「一人一人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支 えられてられる学校」
67	都立桐ヶ丘 高等学校	北区	定	総合学科 (150)	平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクールで、創立 10 周年を迎えます。 『夢・挑戦・感動』を校訓に ①昼夜間開講 3 部制 ②多様な教科・科目を設置した総 合学科 ③生徒一人一人が自分の時間割を作る単位制 ④体験学習の重視 ⑤充実した 相談体制 など、特色ある教育活動を展開しています。情報・ビジネス系列を中心に、 資格取得に向けて補習等にも取り組んでいます。
68	都立世田谷泉 高等学校	世田谷区	定	総合学科 (180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶベース」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総 合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「製作・技術」「生活・福祉」 「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
69	都立稔ヶ丘 高等学校	中野区	定	総合学科 (210)	平成 19 年 4 月に昼夜間開講の定時制、単位制、総合学科のチャレンジスクールとして、 都立四谷商業高校の敷地に開校した。安心してチャレンジするための「学校環境」、チャ レンジの成果を確実にあげる「科目の積み重ね」、チャレンジを飛躍につなげる「キャリ ア教育」を行う。系列では、情報・デザイン、ビジネス・コミュニケーション、人間・ 環境の 3 つの系列を置く。

	学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
70	都立六本木 高等学校	港区	定	総合学科 (150)	平成 17 年に開校し四年目を迎えたチャレンジスクール。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒及び、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしている。教育目標は“見つけて磨いて 未来を拓く”である。演劇・美容・和太鼓・陶芸等、市民講師による特色ある授業も実施している。3 修制により平成 20 年度末には第 2 回目の卒業生が出ます。
▽普通教育を主とする学科 (単位制)					
71	都立浅草 高等学校	台東区	定	普通科 (240)	平成 18 年 4 月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間 3 部制、普通科の単位制高校である。9 階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。
国立高校					
1	東京工業大学 附属 科学技術 高等学校	港区	全	科学・技術科 (推薦 60、一般 140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2 年次から、応用化学、情報システム、機械システム、電気電子、建築デザインの 5 分野に分かれる。
高等専門学校					
1	都立工業高等 専門学校	品川区	全	募集停止	平成 18 年 4 月に工業高専と航空高専が統合し、「産業技術高専」として開校し、工業高専としては募集停止となっている。現在、5 学年は工業高専の学生として在学しており、実践的技術教育を通して、工学的知識・技術の習得の向上と「ものづくりスペシャリスト」の育成を目指している。
2	都立航空工業 高等専門学校	荒川区	全	募集停止	昭和 37 年に創立され、現在は航空工学科 (40 名)、機械工学科 (80 名) および電子工学科 (80 名) から構成されている。平成 18 年 4 月に都立工業高等専門学校と本校が統合し、あらたに東京都立産業技術高等専門学校となった。同時に航空高専の募集は停止されたが、現在の在学生在が卒業する平成 22 年 3 月までは存続する。
3	都立産業技術 高等専門学校	品川区 荒川区	全	ものづくり工学科 (320)	工業高専と航空高専が一つになり、本科のものづくり工学科内に新たな教育 8 コースを設置するとともに、2 年間の高度な専門知識及び技術を学べる専攻科を加え平成 18 年 4 月に都立産業技術高等専門学校として開校しました。本校では首都東京の産業振興や課題解決に技術的観点から貢献できる「ものづくりスペシャリスト」の育成を目指しています。また、平成 20 年 4 月には公立大学法人首都大学東京に移管し、産業技術大学院大学との連携による 9 年間一貫のものづくり教育を推進していきます。
専修学校					
1	愛国学園保育 専門学校	江戸川区	昼	幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (40)	本校は、昭和 44 年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭 2 種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ 100% の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。介護福祉士専攻科は、毎年 100% の就職率となっており、介護老人福祉施設などに就職している。卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を受けている。
2	青山製図 専門学校	渋谷区	昼 夜	建築工学科 (35) 建築設計デザイン科 (80) 建築インテリア工学科 (35) 商空間デザイン科 (30) 建築インテリアデザイン科 (65) プロダクト CAD デザイン科 (30) 建築設計研究科 (60) 建築科 (60)、インテリア工学科 (30)	昭和 52 年に設立以来、設計・製図・デザイン・CAD の技術者を育成・輩出している。 現在は、建築・インテリア・機械系の 9 学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズにあった、即戦力となる技術者の育成に取り組んでいる。
3	国際観光 専門学校	台東区	昼	国際観光学科 4 月生 (40) 10 月生 (40) 国際ホテル学科 4 月生 (40) 国際ホテルデュアル学科 4 月生 (40) 航空貿易学科 4 月生 (40)	実践的な観光マンの育成を旨とし、座学と企業実習を組み合わせた教育を行っている。

	学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
4	国際理容美容 専門学校	荒川区	昼 夜 通	専門課程⇒理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科 (120) 【修業年限 2 年】 高等課程⇒美容高等科 (40) 【修業年限 3 年】 専門課程⇒美容科Ⅱ部 (80) 【修業年限 2 年】 理容科 (40) 美容科 (160) 【修業年限 3 年】	理容師・美容師の育成、ホスピタリティマインド豊かなエステティシヤンの養成等で、本校が半世紀に渡る教育で育んできた、技術教育を超えた「技術者教育」と、心と技術が織りなす感動を未来へ伝承することができる「美の創造者」を育成することを目標としています。
5	東京エアトラベル・ホテル 専門学校	小金井市	昼	エアライン科 (100) ホテル科 (80) ブライダル科 (40) 国際英語科 (80) 観光旅行科 (30) 鉄道交通科 (30) 美容科 (60)	昭和 48 年、学校設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、観光、英語、ケアビジネスの分野に優秀な人材を送る専門教育機関として一貫したプロになるための徹底した指導のもと、多くの卒業生が業界第一線で活躍している。平成 3 年、文教の地小金井に総合インテリジェントキャンパスを移転。国際化、情報化対応の最新鋭施設設備を備え、さらに高い専門教育を実現させている。
6	東京工学院 専門学校	小金井市	昼	建築学科 (80) インテリアデザイン科 (40) 情報システム科 (40) 電気電子学科 (40) 研究科 (20) コンサート・イベント科 (40) 音響芸術科 (20) ミュージック/ダンス科 (30) 放送芸術科 (30) 演劇・声優科 (40) ゲームクリエイター科 (40) マンガ科 (40) CG・Web クリエイター科 (40) アニメーション科 (30) グラフィックデザイン科 (40) スポーツビジネス科 (40) スポーツこども科 (80) 法律情報科 (20)、経営情報科 (20) メディア学科 (20) 大学併修学科 (40)	昭和 34 年名城大学設置のテレビ技術学校として創立。平成 3 年には、小金井市にインテリジェントマルチメディアキャンパスとして移転。現在併設校の東京エアトラベル・ホテル専門学校との総合キャンパスとしている。産能大学とのジョイント教育システム導入により「大学卒(学士)」と「専門学校卒(専門士)」双方の資格を取得できる 4 年制大学コース「経営情報科」を設置。平成 13 年 4 月には中央大学法学部通信教育課程を協力校として「法律情報科」を、東洋大学通信教育部とジョイントした「メディア学科」を開設。IT 時代に対応するスペシャリスト育成を目指している。
7	東京工科 専門学校	中野区	昼	1 級自動車整備学科 (4 年・40 名) 自動車整備科 (2 年・160 名) エンジンメンテナンス科 (2 年・80 名)	昭和 44 年設立。40 周年を迎える本学園は自動車業界の様々な職種に対応した学科を設置するクルマとバイクの総合学園です。1 級・2 級自動車整備士(国家試験実技免除)をはじめとする各種資格取得や、レース参戦などの実践的な力を養うカリキュラムが豊富で、最新の整備技術の習得を目指します
8	東京誠心調理師 専門学校	大田区	専門 高等	調理師科 2 年制 (120) 調理師科 1 年制 (120) 〔調理技術・洋菓子製 パン・福祉調理・薬業 薬膳コース〕 フードコーディネイト 専攻科 (40) 調理師科夜間部 1.5 年制 (80)	1970 年創立。外食の歩みとともに変わりゆく「食」を見据えて取り組んでいます。ビジネスとしての「食」をトータルにクリエイティブできる人材を養成しています。 2007 年 8 月京急蒲田駅前に新校舎完成。優れた教育環境の中で実践的な教育を展開。質の高い講師と教育環境で「ホスピタリティ・マインド＝おもてなしの心」を学びます。
9	東京テクノロジー コミュニケーション 専門学校	新宿区	昼	高度情報工学科 (80) 高度情報ソフト科 (80)	東京テクノロジーコミュニケーション専門学校は産学協同教育を教育の柱として、業界とともに企業プロジェクト・企業課題を通して 1 年生から即戦力となるための実践教育を行っています。又、高度な知識・技術を身に付けるだけでなくヒューマンスキルを備えた人材を育成します。
10	東京美容 専門学校	新宿区	昼 通	美容総合科 (専門課程) (160) エステティック総合科 (一般課程) (20) 美容通信科(通信) (120) エステティック通信講座 (16)	本校は 1947 年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に 60 年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約 80 店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、ヘアではウエラジャパン社、エステではソティスジャパン社といった、世界においてプロ達に信頼されるメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。

	学校名	所在地	課程	平成21年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
11	東京文化 デザイン 専門学校	江戸川区	昼	ブライダル科 (60)	昭和9年創立。昭和51年専修学校認可。 ブライダル業界のさまざまな情報やトレンドをいち早く取り入れた教育を行い就職に備える。ブライダルファッション、ブライダルプロデュース、ヘアメイクとブライダルをトータルに学ぶことが出来る。在学中に、実際にブライダルの現場を経験する機会が多く、より現場に即した環境を整えている。
12	東京ホテル ビジネス 専門学校	豊島区	昼	ホテル科 (160名) マネジメントコース 料飲サービスコース ブライダル& ビューティーコース	接客&ホテル業界に的を絞った専門教育を展開。客室、ドア・ベルパーソン、フロントを中心に全般的ホテルビジネスを学ぶマネジメントコース、料飲部門(料理・飲料)のサービススタッフを育成する料飲サービスコース、ホテルの宴会・婚礼ビジネスを総合的に学び、ブライダルのコーディネーターの仕事とビューティーに関する知識・技術の学べるブライダル&ビューティコースがある。
13	日本電子 専門学校	新宿区	昼 夜	コンピュータグラフィックス科 (160)、高度 コンピュータグラフィックス科 (40)、CG 映 像科 (40)、ゲーム制作科 (160)、ゲーム制 作研究科 (120)、ゲームCGデザイン科 (80)、 ゲーム企画科 (80)、アニメーション科 (80)、 アニメーション研究科 (40)、Webデザイン 科 (80)、グラフィックデザイン科 (80)、コン ピュータミュージック科 (40)、ソフトウェ アテストデザイン科 (40)、Web総合技術科 (40)、オープンソースシステム科 (40)、組 込みシステム科 (80)、コンピュータネット ワーク科 (80) ネットワークセキュリティ科 (80) 情報セキュリティ科 (80) 情報処理科 (120) 情報システム開発科 (80) 高度情報処理科(80)ITスペシャリスト科(40) 電子応用工学科 (40) 電気工学科 (50) 電気 工事技術科 (50) コンピュータグラフィックス科 (40)、ゲー ム制作科 (40)、ネットワークセキュリティ 科 (40)、組み込みシステム科 (40)、情報処理 科 (40)、電気工学科 (50)、電気工事科 (50)	「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。
14	二葉栄養 専門学校	武蔵野市	昼	管理栄養士学科 (40) 栄養士科 (120) 調理師科 (300)	二葉栄養専門学校は開校以来数多くの調理師、栄養士の養成をしてまいりました。平成14年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に設置し、平成20年には第3期生の87.8%を合格者として輩出いたしました。栄養士科においては2つのコースを2年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により就職希望者に対する就職率100%を実現しています。又、調理師科においては基礎衛生知識と食の安全を中心に学習、調理技術実習は420時間設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。
15	ホスピタリティ ツーリズム 専門学校	中野区	昼 夜	旅行学科 (100) ホテル学科 (60) ブライダル学科 (60) エアライン学科 (60) エアポート・カーゴ学科 (20) 鉄道学科 (60) テーマパーク学科 (20) 旅行学科 (70) ホテル学科 (50) ブライダル学科 (50) エアライン学科 (50) エアポート・カーゴ学科 (20) 鉄道学科 (40)	当校は旅行・観光業界から「プロを養成してほしい」という要請を受けて設立された「観光業界立」の学校です。ツーリズム産業で最も大切な「ホスピタリティマインド」＝「おもてなしの心・相手を思いやる心」を持った業界人を育成するため、「Smile for you」を合言葉に、学生・先生すべてが笑顔の絶えない学校を目指しています。 各学科とも企業実習を取り入れ、実践に役立つ学習に取り組んでいます。
16	武蔵野東技能 高等専修学校	武蔵野市	全	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。 また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、臨海学習、学園祭などの体験学習を重視している。

学校名	所在地	課程	平成 21 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
17 中央工学校	北区	昼	建築学科、建築工学科、建築設計科、 女子建築設計科、木造建築科、建築 設備設計科、エンターテインメント 設営科 (240) インテリアクリエイト学科、 インテリアデザイン科、 建築室内設計科、インテリア科、 工芸デザイン科 (140) 都市環境学科、土木設計科、造園デ ザイン科、測量調査科、測量科、地 理空間情報科 (120) 機械学科、メカニカルデザイン科、 3D-CAD 科 (40) 建築専攻科 (10)	明治 42 年に工業分野の専門教育機関として設立し、校是を「堅実」とし、誠実で創造性と社会性豊かなスペシャリストの育成に取り組んでいます。 「理論より実際」を学習指導の重点に置き、より実務性の高い技術の修得を目標としています。
		夜	建築科 (80) 土木科・測量科 (30) CAD エキスパート科 (20)	

短期大学

1	愛国学園 短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻 (50) 食物栄養専攻 (50)	家政専攻では、衣食住の生活環境全般に取り組む人材育成を、食物栄養専攻では、健康維持増進の元になる食生活指導のための人材育成を行っている。 栄養士及び教員免許 (中 2 家庭) も取得できる。 平成 19 年 4 月に、実習室増設をはじめ施設設備が充実された。
2	嘉悦大学 短期大学部	小平市	全	ビジネスコミュニケーション学科 (150)	本学では、社会で即戦力として活躍するための実践的なビジネス知識・技能を 2 年間で習得します。 「医療・福祉」「簿記・会計」「販売・営業」「観光・ホテル」「広報・企画」「編入学」など多様な進路に直結した 6 つの育成モデルを用意しています。
3	東京家政大学 短期大学部	板橋区	全	保育科 (200) 栄養科 (180) 服飾美術科 (70)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。

平成 20 年度 会 員 中 学 校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	3	墨田区	12	中野区	13	練馬区	34	調布市	8
中央区	4	品川区	16	杉並区	23	足立区	37	狛江市	4
港区	10	目黒区	10	豊島区	8	葛飾区	24	東大和市	5
新宿区	11	大田区	28	北区	14	江戸川区	33	羽村市	3
文京区	11	世田谷区	31	荒川区	10	武蔵野市	6	三宅村	1
台東区	7	渋谷区	8	板橋区	23	府中市	11		

都立中学校
都立白鷗高等学校附属中学校
都立両国高等学校附属中学校
都立武蔵高等学校附属中学校
都立小石川中等教育学校
都立桜修館中等教育学校
都立立川国際中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
武蔵野東中学校

国立大学法人
筑波大学附属中学校

東京都産業教育振興会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会といふ事務所を東京都教育庁内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの

第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある監事をもって充てる。

3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制	}	1口 年額6千円
○高等専門学校		
○短期大学		
○専修学校		

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額5千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正：昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡強調し、東京都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善・進歩を図り、もって産業経済の自立・発展に寄与する」ことを目的としています。

産業に教育に関心のある方、ご入会いただける方、新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。

(問合せ先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会 事務局
TEL 03-5320-6729 FAX 03-5388-1727
ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

編集後記

本会理事であられ、永年に亘り本会にご尽力いただきました千住金属工業(株)佐藤千壽様におかれましては、平成20年10月にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

本年度6月に開催された会誌編集委員会の意見を踏まえ、関係の皆様をお迎えし「技能五輪金メダリストを迎えて」と題し、競技種目等について話をさせていただきました。また特集「企業や地域と連携した学校の取組」では、各学校の実践について執筆させていただきました。また読みやすくするために、これまでのB5よりA4版に変更しました。

お忙しい中、本誌へのご執筆をいただきました皆様に、お礼を申し上げます。

産業教育の改善に役立てていただければ幸いに存じます。

今後とも本会へのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



東京の産業教育 第46号

発行 平成21年(2009年)3月2日

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

印刷 株式会社小薬印刷所

再生紙を使用しています

教育備品の総合商社

学びの場づくりの一翼をになって、
教育現場からのきびしい要求に
お応えします。

OA事務機器	オフィス用品
図書館設備	各種特別教室
視聴覚教室	スチール・木製家具
室内装飾	黒板・スクリーン

ヤマ産業株式会社

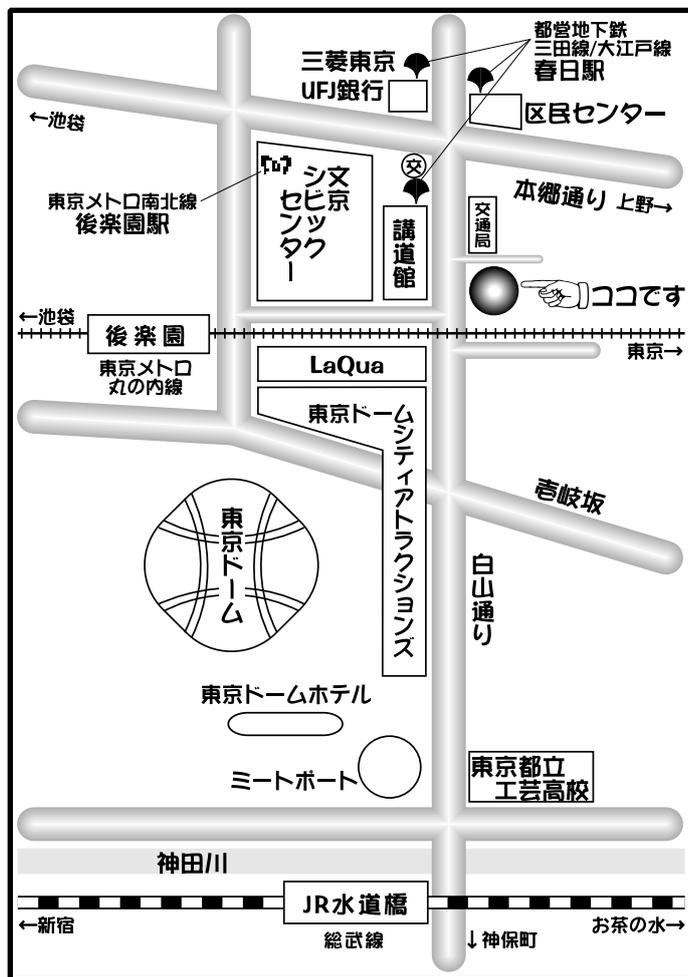
〒112-0015

文京区目白台3-26-8 電話 03(3941)7258

お客様のニーズに お答えします

各種報告書、案内状
会報、アンケート票
チラシ、カタログ等

入力から製本まで当社におまかせください



- Mac & Windows
各種ソフトに
迅速な対応
- データ入稿に
こまやかな編集
- 版下入稿に
ダイレクト印刷
- カラーや写真に
**CTP印刷 &
オフセット印刷**



有明印刷株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12

☎ 03-3811-4130 FAX 03-3811-1777

観光庁長官登録旅行業第1385号

JATA会員

JR・航空券取り扱い

海外・国内旅行

太平観光株式会社

貸切バス・修学旅行・クラブ合宿・遠足

国内・海外旅行 お問い合わせ下さい

本社営業所 〒178-0063 東京都練馬区東大泉7-38-9

TEL 03-3924-1911 Fax 03-3978-1451

埼玉営業所 〒352-0025 埼玉県新座市片山2-9-10

TEL 048-481-1421 Fax 048-481-1772

Homepage <http://www.tabi.co.jp>

E-mail taihei@tabi.co.jp



高校生の新・就職面接の攻略

パーソナル・プレゼンテーション能力を身につける

就職面接のしくみ・ねらいを理解するために！
面接時のマナー・言葉づかい・態度を身につけるために！
十分な準備をして、自信を持って面接に臨むために！
実践的な面接対策ビデオ教材（約25分）

文部科学省
選定



VHS版/DVD版 定価各18,900円(税込)

制作：(株)映学社

書込式ノート教材



就職試験のための面接+作文

面接試験・作文試験に必要な基礎力養成のために！
企業採用担当者が何を見ているか、という立場に立った
面接ノウハウを解説！
書き込み式で、自分の考え方を整理できる進路教材

B5判/64頁 定価400円(税込)

キャリア教育用DVD教材 新・高校生のキャリアプラン

自分に合ったキャリアプランとは？
高校生必見のキャリア教育映像教材！

- 第1巻 自己分析と適性 自分を知ろう
- 第2巻 インターンシップ 自分を再発見しよう
- 第3巻 キャリアプランの立案 自分の将来設計を考えよう

DVD全3巻(各約20分) 定価各18,900円(税込)

制作：(株)映学社



印刷とともに80年

自費出版（教科書、教材、自伝など）、学会誌、
研究会・講演会録、句会録・歌集

長年にわたり培ってきた信用が当社の
財産です。安心してお問合せ下さい。



 **株會 小藥印刷所**
式社

〒104-0042 東京都中央区入船2-7-4

TEL (03) 3551-1222 FAX (03) 3551-3447

E-Mail kogusuri@blue.ocn.ne.jp

新しい世界を目指して

お客さまは私たちに何を期待しているか
お客さまの立場で、常に考え行動します

IDH

VISIONと事業展開

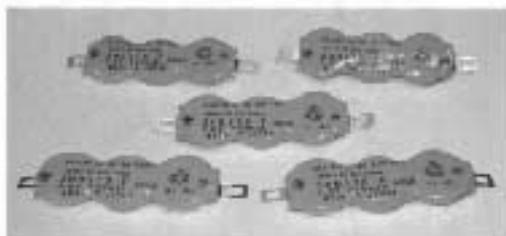
Battery

VISION

1. 顧客の付加価値を高める商社活動
2. 新しい価値観を生む新商品・新市場開発

事業展開

- * 電子部品の販売
 - ・ 沖電線の各種電線
 - ・ 沖電気のIC、リードリレー
 - ・ 日立製作所のIC、電源
 - ・ DDK各種コネクタ
 - ・ 抵抗（ホーロー、セメント、金皮酸金等）、コンデンサー、LED等
 - ・ 日本スペリヤ社の鉛フリー半田（SN100C）
- * 各種電池の製造、販売
 - ・ GSユアサ、組電池、ニッケル水素及びニッカド等
 - その他の電池（マクセル、サンヨー等）
- * 沖データのオフィスプリンタ
 - ・ ビジネスの効率をアップさせるオフィスプリンタ
- * システム装置開発（ラボラトリー開発支援装置や量産製品性能検査機等の設計製作）
- * 電子機器開発（試作品開発から製品完成までの各工程別受注）
- * マシニング加工（ステンレス製品からアルミニウム製品加工）
- * 新商品開発（金属+UDDメッキ液開発と応用商品）



OKI Reed Switch

低電圧のシグナルラインから高電圧のパワーラインまで、
お客さまの用途や目的に応じてお選びいただける
多彩なラインナップをご用意しております。

OKI IC

「ネットワークソリューションの沖電気」のビジョンのもと、
特徴ある製品をお届け致します

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-3-4

IDH 東京デンハン株式会社
Tokyo DenHan Co.,Ltd

一人ひとりの個性が生きる学園
楽しく充実した3年間が君をまっている

平成21年度 特進コース新設!!



教育目標

新しい時代への人間教育

普通科 特進コース
総合進学コース

工業系 一括募集

(機械科・電子情報科・建築科)



Shōwa Daiichi Gakuen High School

昭和第一学園高等学校

〒190-0003 東京都立川市栄町2-45-8 Tel 042-536-1611 Fax. 042-537-6830

ホームページ: <http://www.sdg.ed.jp>

東京栄養食糧専門学校



管理栄養士科 (修業部4年制)

栄養士科 (修業部2年制)

- 健康・スポーツ栄養コース
- 医療・福祉栄養コース
- 調理スキルアップコース

製菓・カフェ経営科 (修業部2年制)



<http://www.shokuryo.ac.jp>

〒154-8544 東京都世田谷区池尻2-23-11 TEL 03-3424-9113

■東京メトロ半蔵門線・東急田園都市線 池尻大橋駅東口より徒歩5分

東京調理師専門学校



調理高度技術経営科 (修業部2年制)

- 西洋料理・製菓専攻コース
- 日本料理・和菓子専攻コース
- 中国料理・点心専攻コース

調理師本科 (修業部1年制)

調理師科 (修業部1.5年制)

東京調理師専門学校



<http://www.tokyocook.ac.jp>

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-11-11 TEL 03-3363-9181

■JR新宿駅西口より徒歩5分 ■西武新宿線新宿駅より徒歩3分 ■都営大江戸線 新宿西口駅より徒歩2分

東京ホテルビジネス専門学校



ホテル科 (修業部2年制)

- マネジメントコース
- 料飲サービスコース
- ブライダル&ビューティーコース

国際ホテル科 (修業部2年制)

- RICコース

東京ホテルビジネス専門学校



<http://www.hotel.ac.jp>

〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-13-13 TEL 03-5911-4111

■JR池袋駅メトロポリタン口より徒歩5分 ■有線池袋駅東口より徒歩8分 ■西武池袋線池袋駅南口より徒歩1分